男女平等参画に関する
西東京市民意識・実態調査
報告書

令和５年３月

西東京市

目　次

第１章　調査の概要 ･･ 1
１．調査実施の目的 ･･ 3
２．調査方法と回収状況 ･･ 3
３．回収数及び回収率 ･･ 3
４．調査項目 ･･ 3
５．報告書の見方 ･･ 3

第２章　調査結果の詳細 ･･ 5
１．回答者の属性 ･･ 7
（１）性別 ･･ 7
（２）年齢 ･･ 7
（３）主な職業 ･･ 8
（４）家族構成 ･･ 10
（４－１）子どもの年代 ･･ 10
（５）配偶者・パートナーの有無 ･･ 11
（５－１）共働きの状況 ･･ 11
（６）介護の有無 ･･ 12
（７）居住地域 ･･ 12
２．男女平等参画の意識について ･･ 13
（１）男女の地位の平等感 ･･ 13
（２）固定的性別役割分担意識についての考え ･･････････････････････････････････ 22
３．家庭生活について ･･ 24
（１）家事・育児・介護に携わっている時間（平日・休日） ･･････････････････････ 24
４．仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について ･･････････････････････ 27
（１）仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現状況 ･･････････････ 27
（２）生活の中の優先度（希望、現実） ･･ 29
（３）育児休業、介護休業の取得経験、取得意向 ････････････････････････････････ 32
（３－１）育児休業、もしくは介護休業を取得しない理由 ････････････････････････ 35
（４）今後の就労意向 ･･ 39
５．女性の活躍について ･･ 41
（１）女性の働き方について ･･ 41
（２）一時期仕事をやめた女性が再就職を希望する際に役立つもの ････････････････ 43
（３）女性が離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なこと ･･････････････････ 45
６．コロナ下での行動変化について ･･ 47
（１）コロナによる生活や行動の変化 ･･ 47
７．性の多様性について ･･ 54

（１）性の多様性に関する言葉の認知度 …… 54
（２）性の多様性への取り組みについての考え …… 57
（３）性的マイノリティへの取り組みについての考え方 …… 59
（４）性的マイノリティの人が生活しやすくなるために必要な対策 …… 61
８．地域・防災について …… 63
（１）地域活動への参加状況 …… 63
（２）地域活動に参加していない理由 …… 65
（３）防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うこと …… 67
９．暴力（ＤＶ、ハラスメント）について …… 69
（１）配偶者等からの暴力だと思うもの …… 69
（２）配偶者等から暴力を受けた際の相談機関の認知度 …… 72
（３）配偶者等から暴力を受けた経験 …… 74
（３－１）配偶者等から暴力を受けた時の相談経験 …… 76
（３－２）誰にも相談しなかった理由 …… 77
（４）職場等でハラスメントを受けた経験 …… 78
10．男女平等参画を進めるために必要な施策について …… 80
（１）西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度 …… 80
（２）男女平等参画を推進するために、学校教育の場で必要な対策 …… 91
（３）市の審議会と市議会、市職員における管理職の女性の割合についての考え …… 93
（４）男女平等推進条例制定についての意向 …… 97
（５）西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策 …… 99
（６）市の男女平等に向けての取り組みへの意見（自由記述） …… 102

第３章　インタビュー、市民ワークショップ結果 …… 109
１．実施概要 …… 111
（１）調査目的 …… 111
（２）調査概要 …… 111
２．事業者インタビュー結果のまとめ …… 112
３．中学生インタビュー結果のまとめ …… 115
４．市民ワークショップ結果のまとめ …… 118

第４章　調査票 …… 121

第１章　調査の概要

１．調査実施の目的

この調査は、市民の男女共同参画に関する意識・実態を把握し、「西東京市第５次男女平等参画推進計画」策定のための基礎資料とすることを目的に実施しました。

２．調査方法と回収状況

調 査 地 域：西東京市全域
調査対象者：市内在住の満18歳以上の市民
抽 出 方 法：住民基本台帳より無作為抽出
調 査 方 法：郵送配布、郵送回収またはWeb回答
調 査 期 間：令和４（2022）年10月19日（水）～令和４（2022）年11月９日（水）

３．回収数及び回収率

対 象 者 数：2,000人（女性：1,032人、男性：968人）
有効回収数：702人（女性：397人、男性：297人、その他・答えたくない：４人、無回答：４人）
有効回収率：35.1％（女性：38.5％、男性：30.7％）

４．調査項目

１．回答者の属性
２．男女平等参画の意識
３．家庭生活
４．仕事と生活の調和（ﾜｰｸ･ﾗｲﾌ･ﾊﾞﾗﾝｽ）
５．女性の活躍
６．コロナ下での行動変化
７．性の多様性
８．地域・防災
９．暴力（ＤＶ、ハラスメント）
10．男女平等参画を進めるために必要な施策

５．報告書の見方

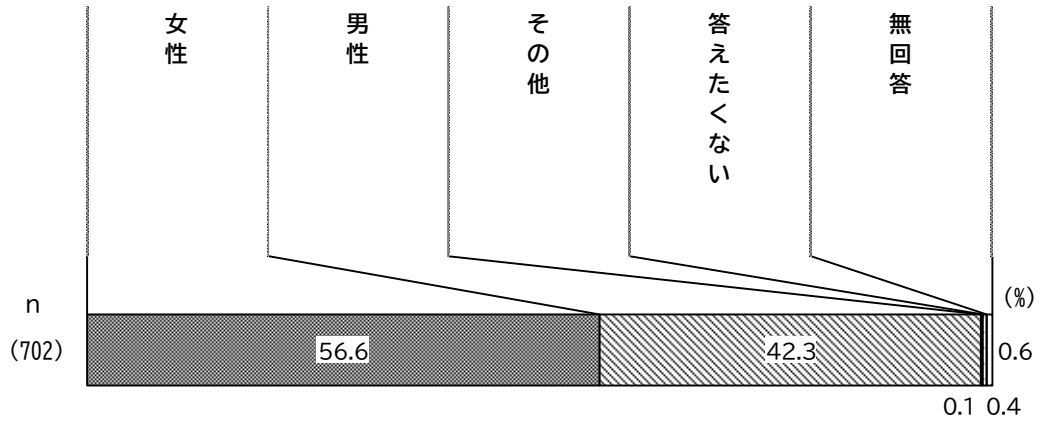
・本文、表、グラフなどに使われる「ｎ」は、各設問に対する回答者数です。
・百分率（％）の計算は、小数第２位を四捨五入し、小数第１位まで表示しています。従って、単数回答（１つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100％にならない場合があります。
・複数回答（２つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100％を超える場合があります。
・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合があります。
・集計表は、第１位ならびに第２位の数値に網掛けをして表示しています。

第２章　調査結果の詳細

１．回答者の属性

（１）性別

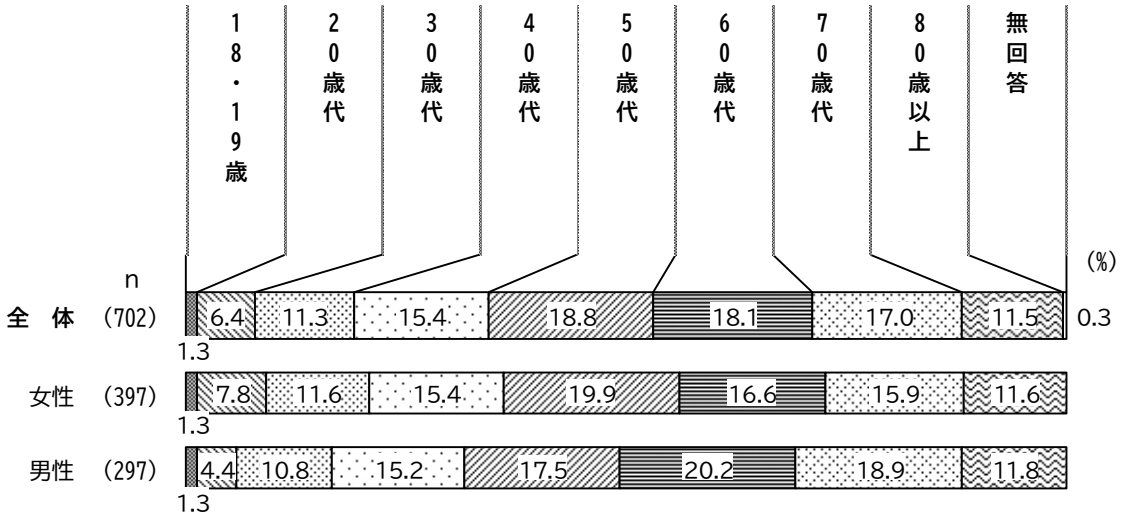
「女性」が56.6％、「男性」が42.3％、「その他」が0.1％、「答えたくない」が0.4％となっています。



（２）年齢

全体では、「50歳代(18.8％)」が最も多く、「60歳代(18.1％)」、「70歳代(17.0％)」が続いています。

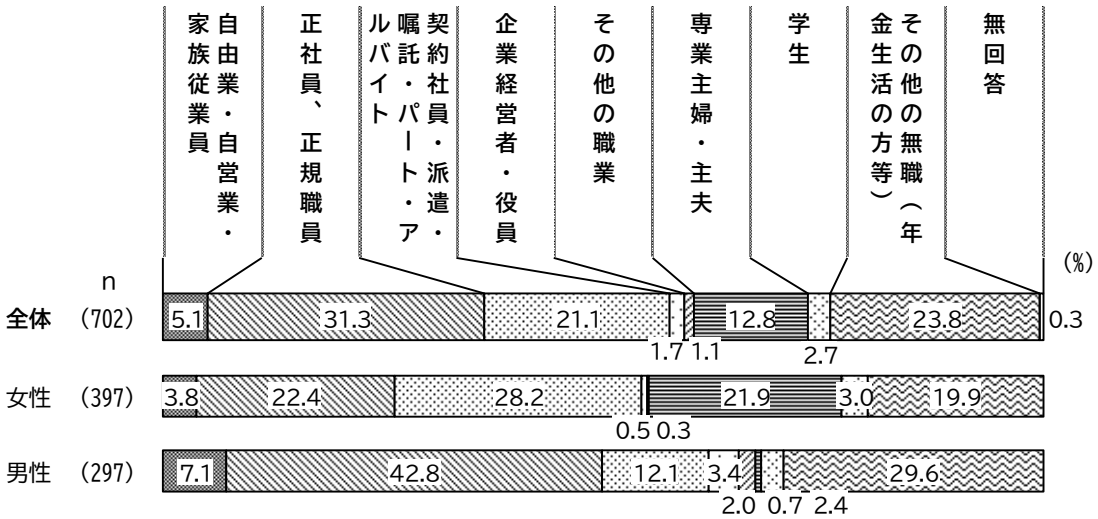
性別にみると、女性は「50歳代(19.9％)」が最も多く、「60歳代(16.6％)」、「70歳代(15.9％)」が続いています。男性は「60歳代(20.2％)」が最も多く、「70歳代(18.9％)」、「50歳代(17.5％)」が続いています。



（３）主な職業

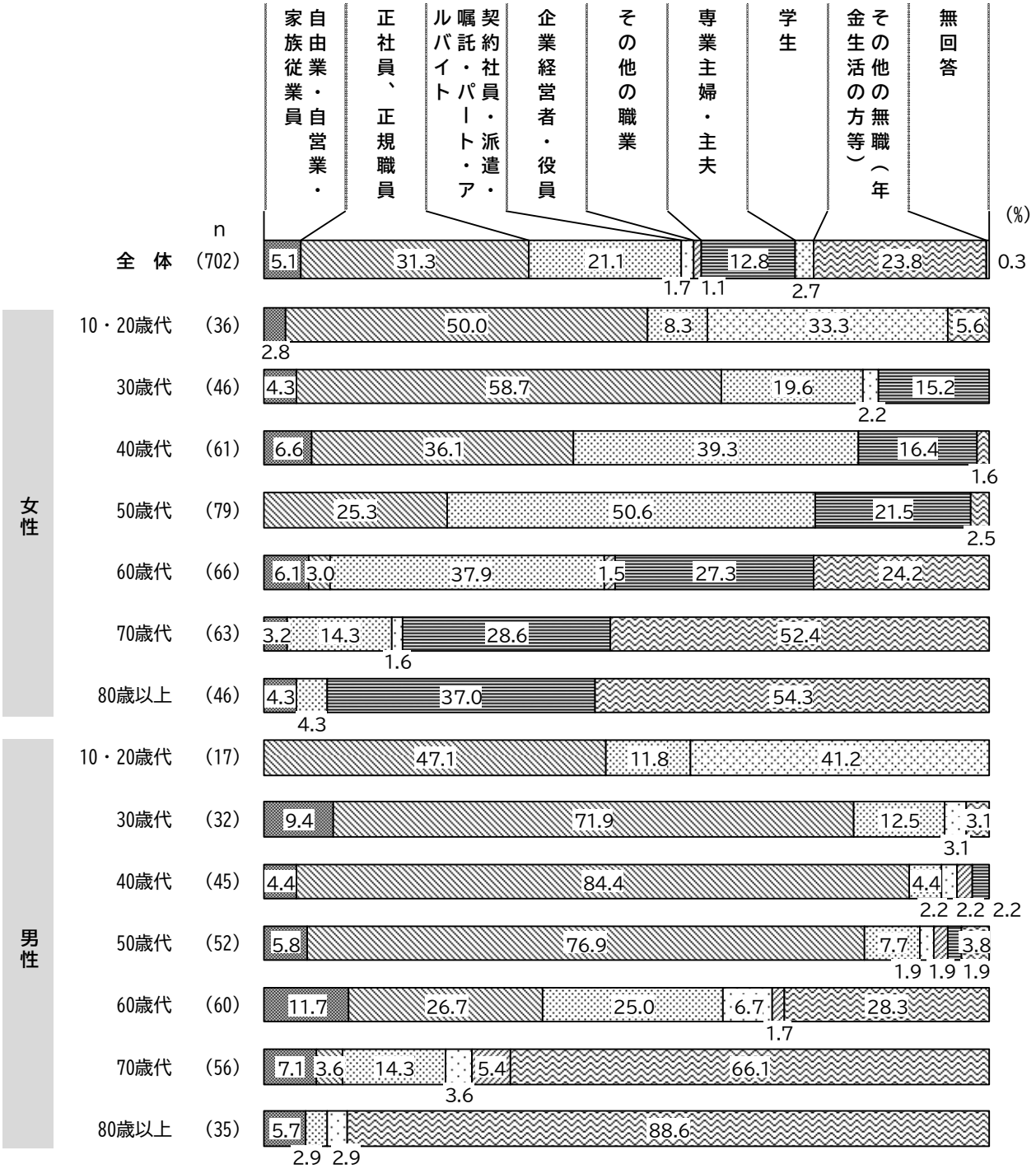
全体では、「正社員、正規職員(31.3%)」が最も多く、「その他の無職（年金生活の方等）(23.8%)」、「契約社員・派遣・嘱託・パート・アルバイト(21.1%)」が続いています。

性別にみると、女性は「契約社員・派遣・嘱託・パート・アルバイト(28.2%)」が最も多く、「正社員、正規職員(22.4%)」、「専業主婦・主夫(21.9%)」が続いています。男性は「正社員、正規職員(42.8%)」が最も多く、「その他の無職（年金生活の方等）(29.6%)」、「契約社員・派遣・嘱託・パート・アルバイト(12.1%)」が続いています。



■性・年代別

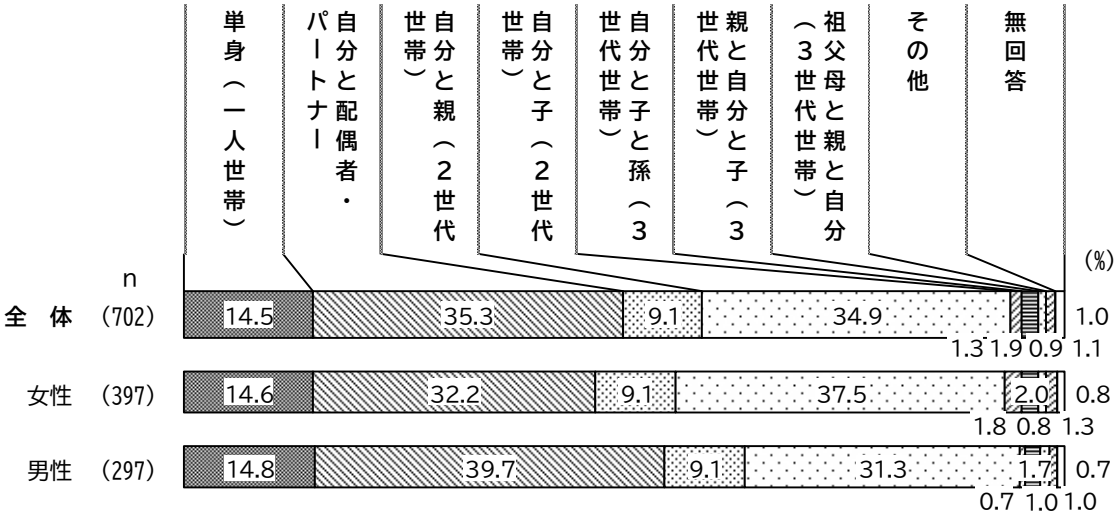
性・年代別にみると、女性では、10・20 歳代から 30 歳代で「正社員、正規職員」が５割台と他の年代と比べて高くなっていますが、40 歳代から 60 歳代で「契約社員・派遣・嘱託・パート・アルバイト」の割合が３割を超えて「正社員、正規職員」を上回り、特に 50 歳代で 50.6％と最も多くなっています。男性では、30 歳代から 50 歳代で「正社員、正規職員」の割合が７割を超えており、特に 40 歳代で 84.4％と最も多くなっています。



（４）家族構成

全体では、「自分と配偶者・パートナー(35.3%)」が最も多く、「自分と子（２世代世帯）(34.9%)」、「単身（一人世帯）(14.5%)」が続いています。

性別にみると、女性は「自分と子（２世代世帯）(37.5%)」が最も多く、「自分と配偶者・パートナー(32.2%)」、「単身（一人世帯）(14.6%)」が続いています。男性は「自分と配偶者・パートナー(39.7%)」が最も多く、「自分と子（２世代世帯）(31.3%)」、「単身（一人世帯）(14.8%)」が続いています。

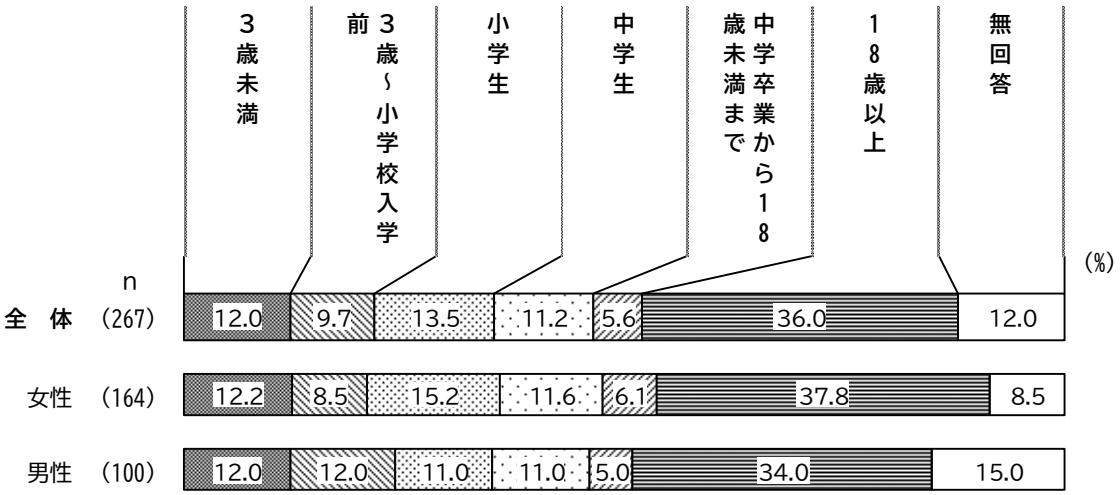


（４－１）子どもの年代

家族構成で、「自分と子（２世代世帯)」「自分と子と孫（３世代世帯)」「親と自分と子（３世代世帯)」のいずれかを回答した人に、末子の年代をたずねました。

全体では、「18歳以上(36.0%)」が最も多く、「小学生(13.5%)」、「３歳未満(12.0%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに「18歳以上(女性：37.8%、男性：34.0%)」が最も多くなっていますが、女性は「小学生(15.2%)」、男性は「３歳未満」「３歳～小学校入学前」がともに12.0%で続いています。

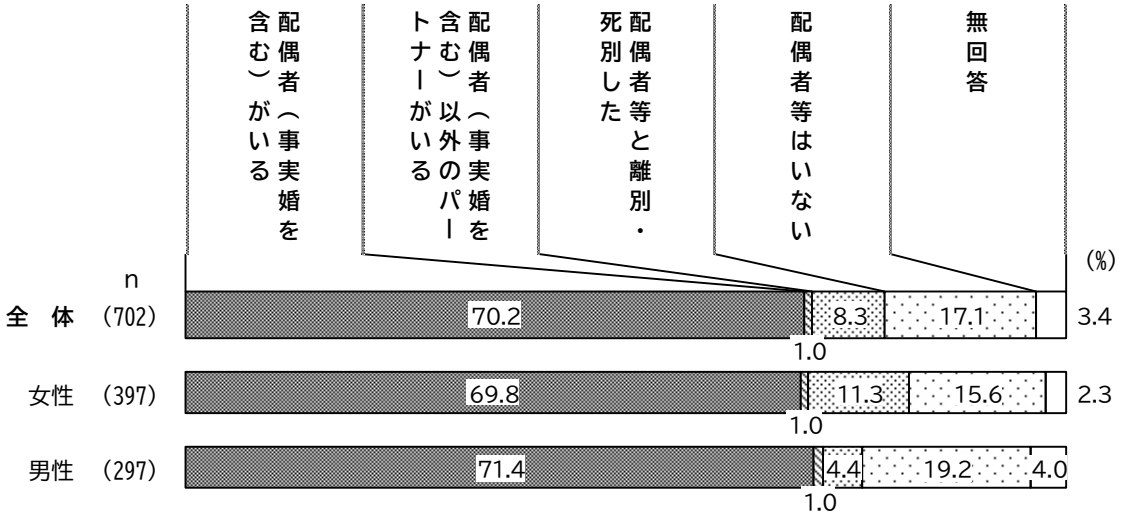


（５）配偶者・パートナーの有無

※婚姻届を出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある人を含む

全体では、「配偶者（事実婚を含む）がいる(70.2％)」が最も多く、「配偶者等はいない(17.1％)」、「配偶者等と離別・死別した(8.3％)」が続いています。

性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向を示しており、女性は「配偶者（事実婚を含む）がいる」が69.8％、男性は71.4％となっています。

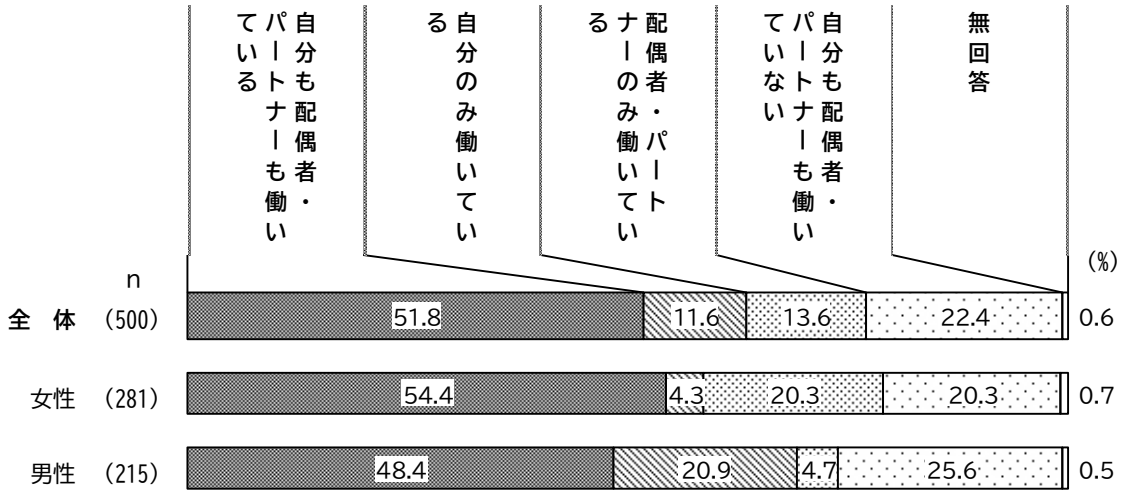


（５－１）共働きの状況

配偶者・パートナーの有無で、「配偶者（事実婚を含む）がいる」「配偶者（事実婚を含む）以外のパートナーがいる」のいずれかを回答した人に、おふたりの就労状況をたずねました。

全体では、「自分も配偶者・パートナーも働いている(51.8％)」が最も多く、「自分も配偶者・パートナーも働いていない(22.4％)」、「配偶者・パートナーのみ働いている(13.6％)」が続いています。

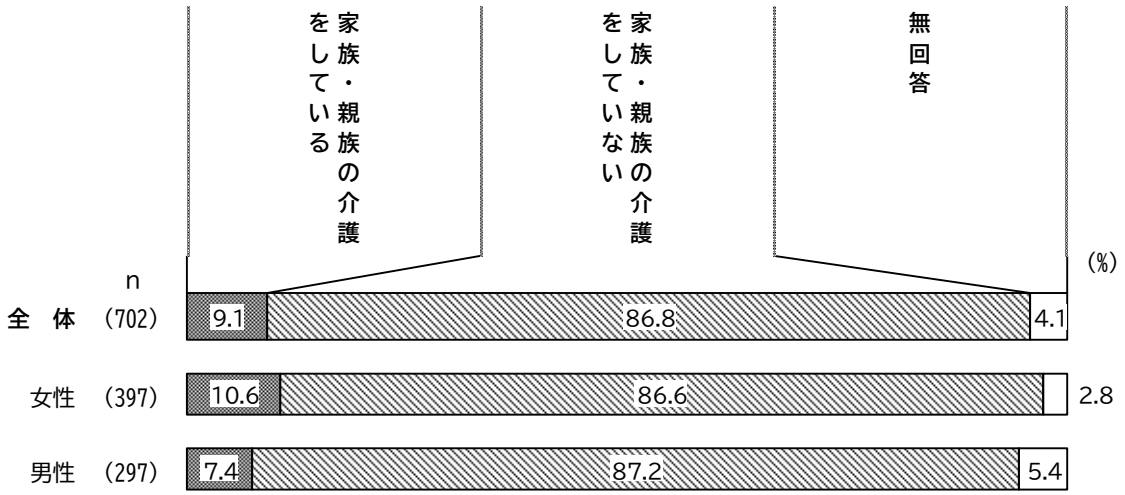
性別にみると、男女ともに「自分も配偶者・パートナーも働いている(女性：54.4％、男性：48.4％)」が最も多くなっていますが、女性は「配偶者・パートナーのみ働いている」「自分も配偶者・パートナーも働いていない」がともに20.3％、男性は「自分も配偶者・パートナーも働いていない(25.6％)」が続いています。



（６）介護の有無

全体では、「家族・親族の介護をしていない」が86.8％、「家族・親族の介護をしている」が9.1％となっています。

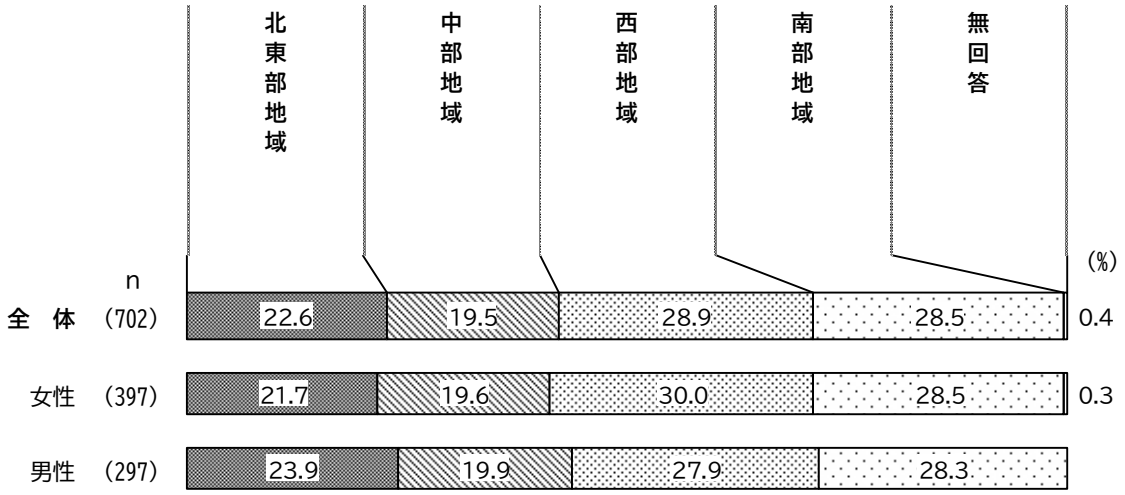
性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向を示しており、「家族・親族の介護をしている」が女性は10.6％、男性は7.4％となっています。



（７）居住地域

全体では「西部地域(28.9％)」が最も多く、「南部地域(28.5％)」、「北東部地域(22.6％)」が続いています。

性別にみると、女性は全体と同様の傾向を示しており、「西部地域(30.0％)」が最も多く、「南部地域(28.5％)」、「北東部地域(21.7％)」が続いています。男性は「南部地域(28.3％)」が最も多く、「西部地域(27.9％)」、「北東部地域(23.9％)」が続いています。



２．男女平等参画の意識について

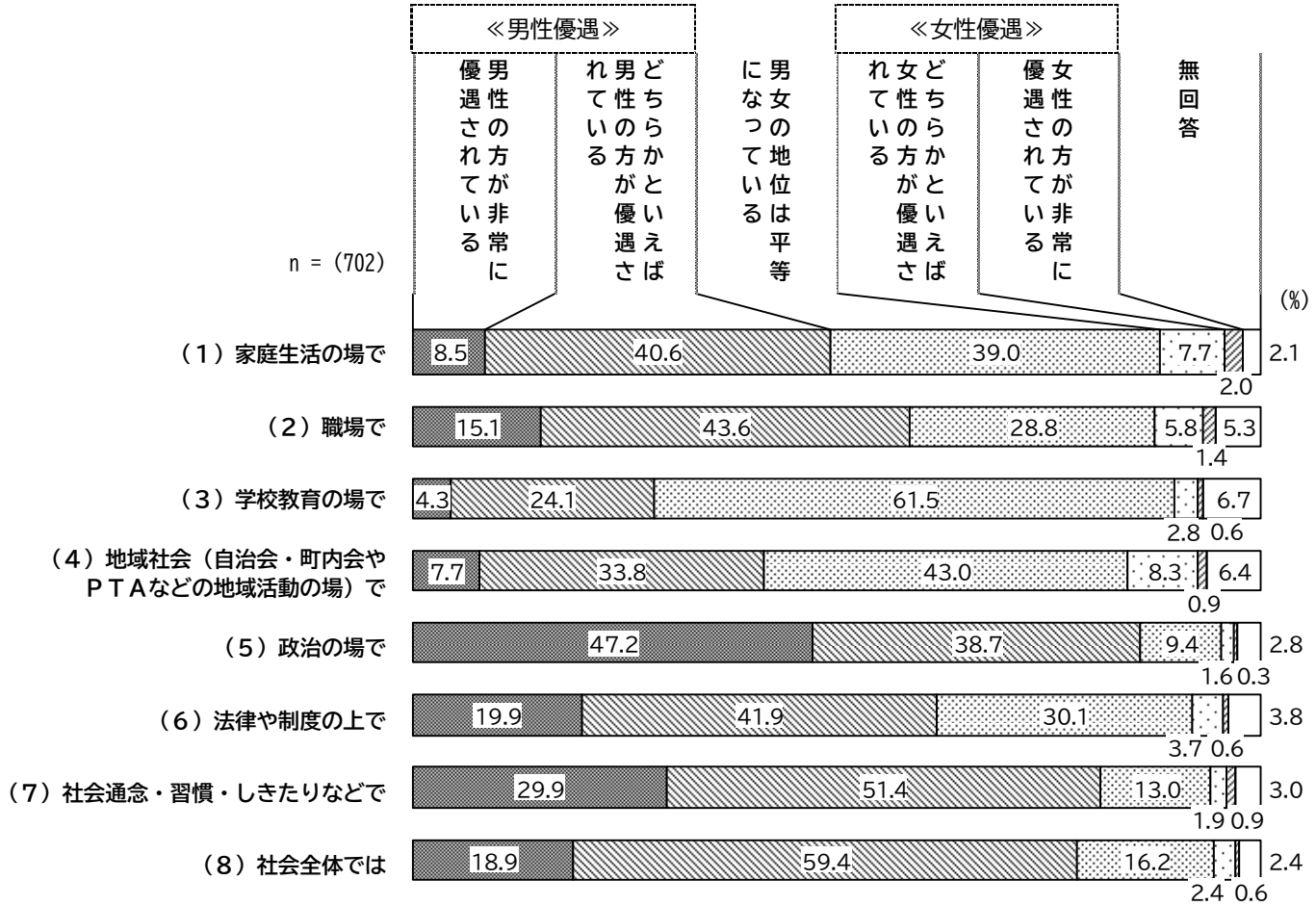
（１）男女の地位の平等感

問８　あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。（１）から（８）までのそれぞれについて、お答えください。（それぞれについて、１つに○）

○『政治の場』、『社会通念・習慣・しきたりなど』で≪男性優遇≫が８割台と高い。
○７つの分野のうち『学校教育の場』で「平等」が最も多くなっている。

７つの分野および『社会全体では』について、男女の地位の平等感をたずねました。

全体では、『政治の場で(85.9%)』、『社会通念・習慣・しきたりなどで(81.3%)』で≪男性優遇≫（「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）が８割台と多くなっています。また、『学校教育の場で』は、「男女の地位は平等になっている」が61.5%となっており、７つの分野の中で男女の地位の平等感が最も高くなっています。

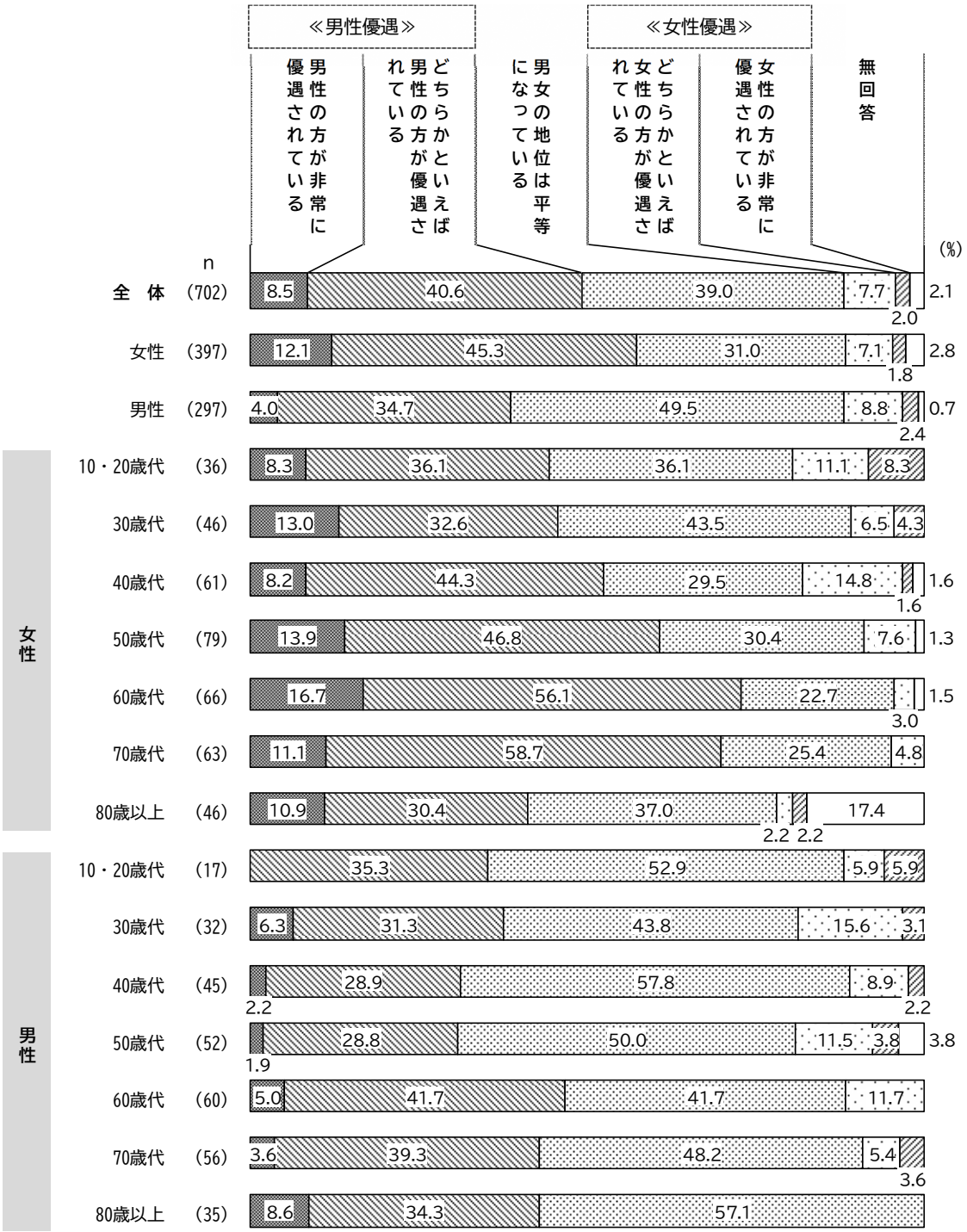


■性別、性・年代別

（１）家庭生活の場で

性別にみると、≪男性優遇≫が女性は57.4％、男性は38.7％となっており、女性が男性を18.7ポイント上回っています。「男女の地位は平等になっている」が女性は31.0％、男性は49.5％となっており、男性が女性を18.5ポイント上回っています。

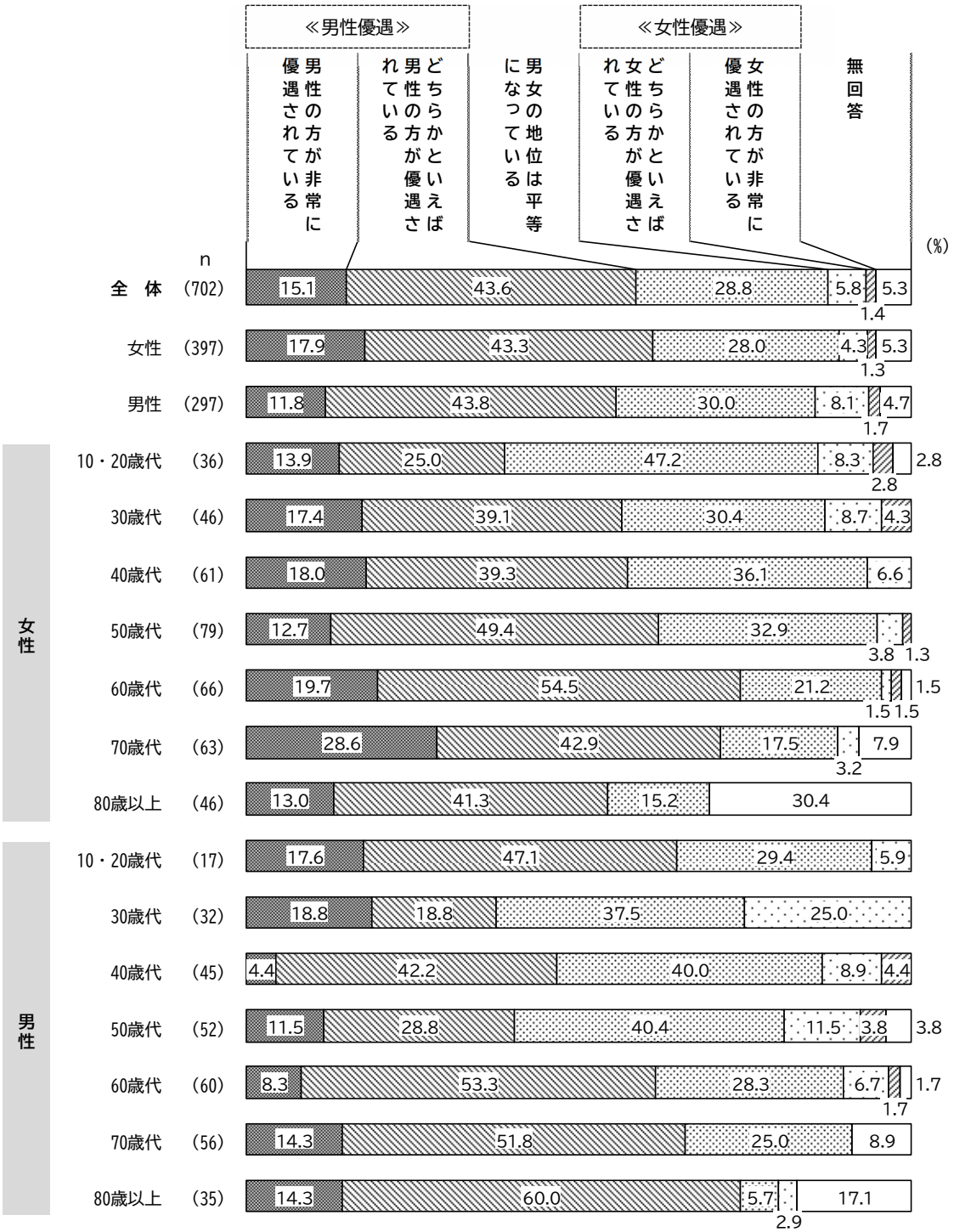
性・年代別にみると、女性では、50歳代から70歳代で≪男性優遇≫が６割台から７割台となっており、全体より10から20ポイント程度上回っています。男性では、40歳代、50歳代、80歳以上で「男女の地位は平等になっている」が５割台となっており、全体より10ポイント以上上回っています。



（２）職場で

性別にみると、男女ともに≪男性優遇(女性：61.2%、男性：55.6%)≫が過半数となっており、女性が男性を5.6ポイント上回っています。「男女の地位は平等になっている」が女性は28.0%、男性は30.0%となっています。

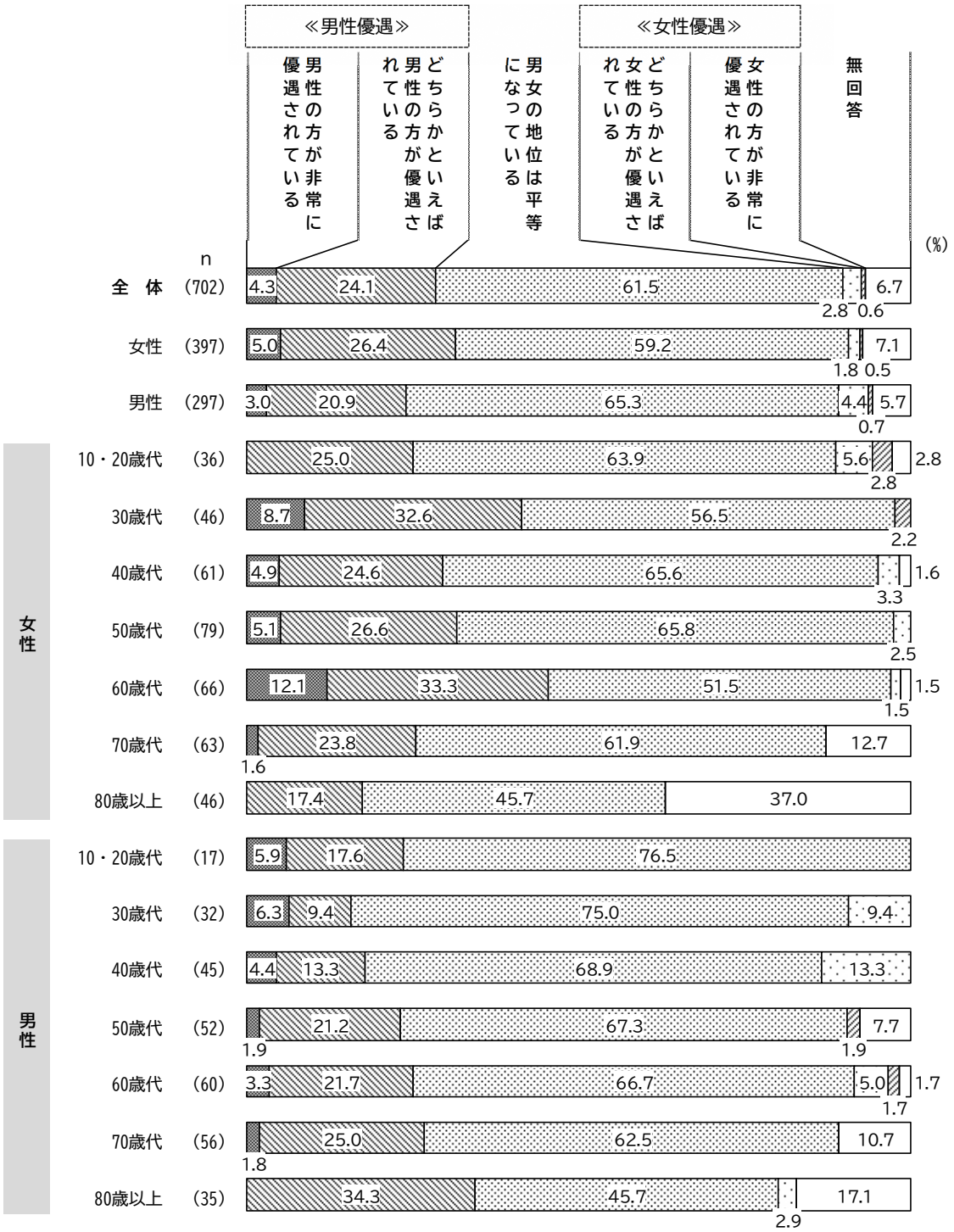
性・年代別にみると、女性では、60歳代から70歳代で≪男性優遇≫が７割台となっており、全体より10ポイント程度上回っています。男性では、40歳代と50歳代で「男女の地位は平等になっている」が４割台となっており、全体より10ポイント程度上回っています。



（３）学校教育の場で

性別にみると、≪男性優遇≫が女性は31.4%、男性は23.9%となっており、女性が男性を7.5ポイント上回っています。男女ともに「男女の地位は平等になっている(女性：59.2%、男性：65.3%)」が過半数となっており、男性が女性を6.1ポイント上回っています。

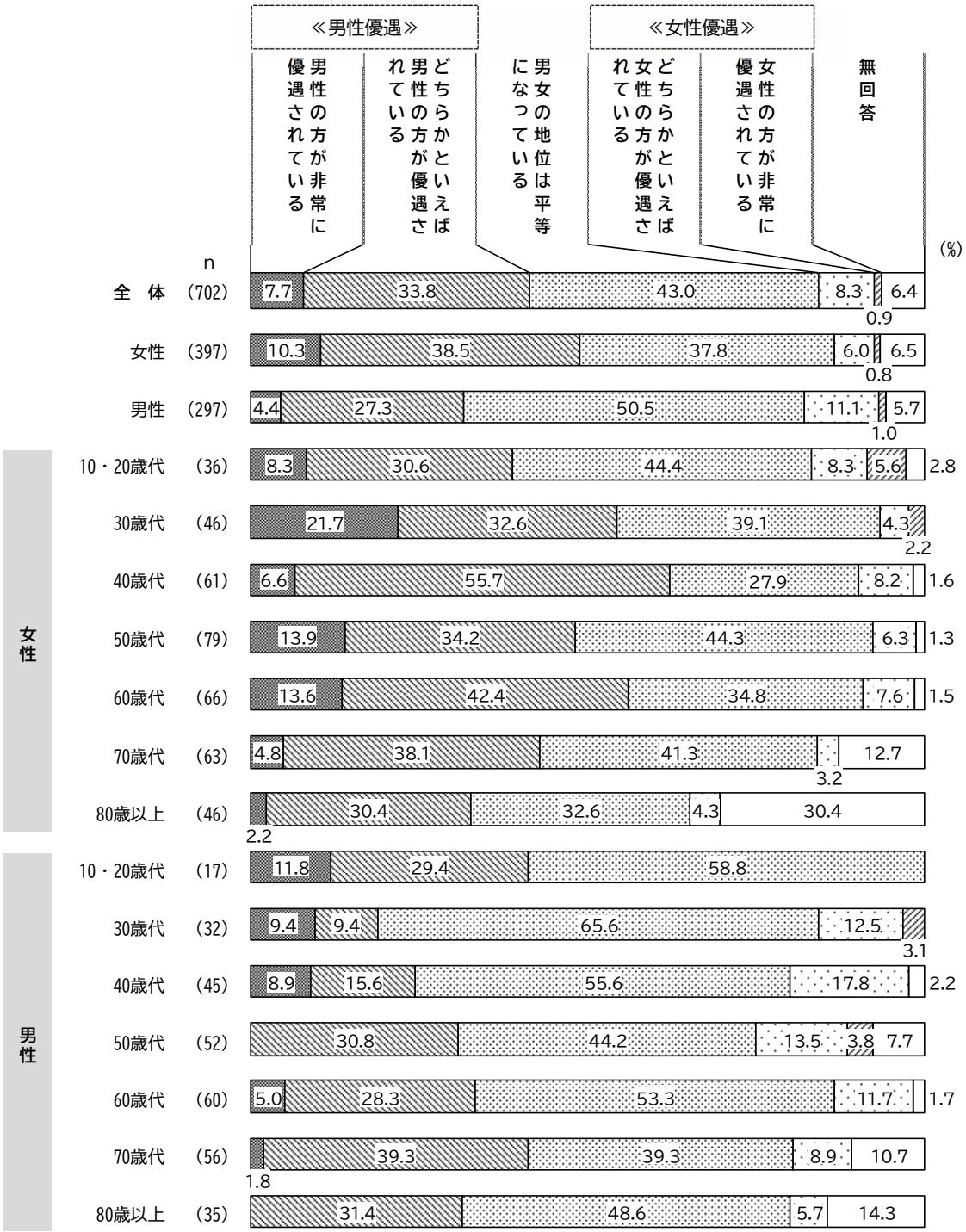
性・年代別にみると、女性では、30歳代と60歳代で≪男性優遇≫が４割台となっており、全体より10ポイント程度上回っています。男性では、30歳代で「男女の地位は平等になっている」が75.0%となっており、全体より13.5ポイント上回っています。



（４）地域社会（自治会・町内会やＰＴＡなどの地域活動の場）で

性別にみると、≪男性優遇≫が女性は48.8%、男性は31.7%となっており、女性が男性を17.1ポイント上回っています。「男女の地位は平等になっている」が女性は37.8%、男性は50.5%となっており、男性が女性を12.7ポイント上回っています。

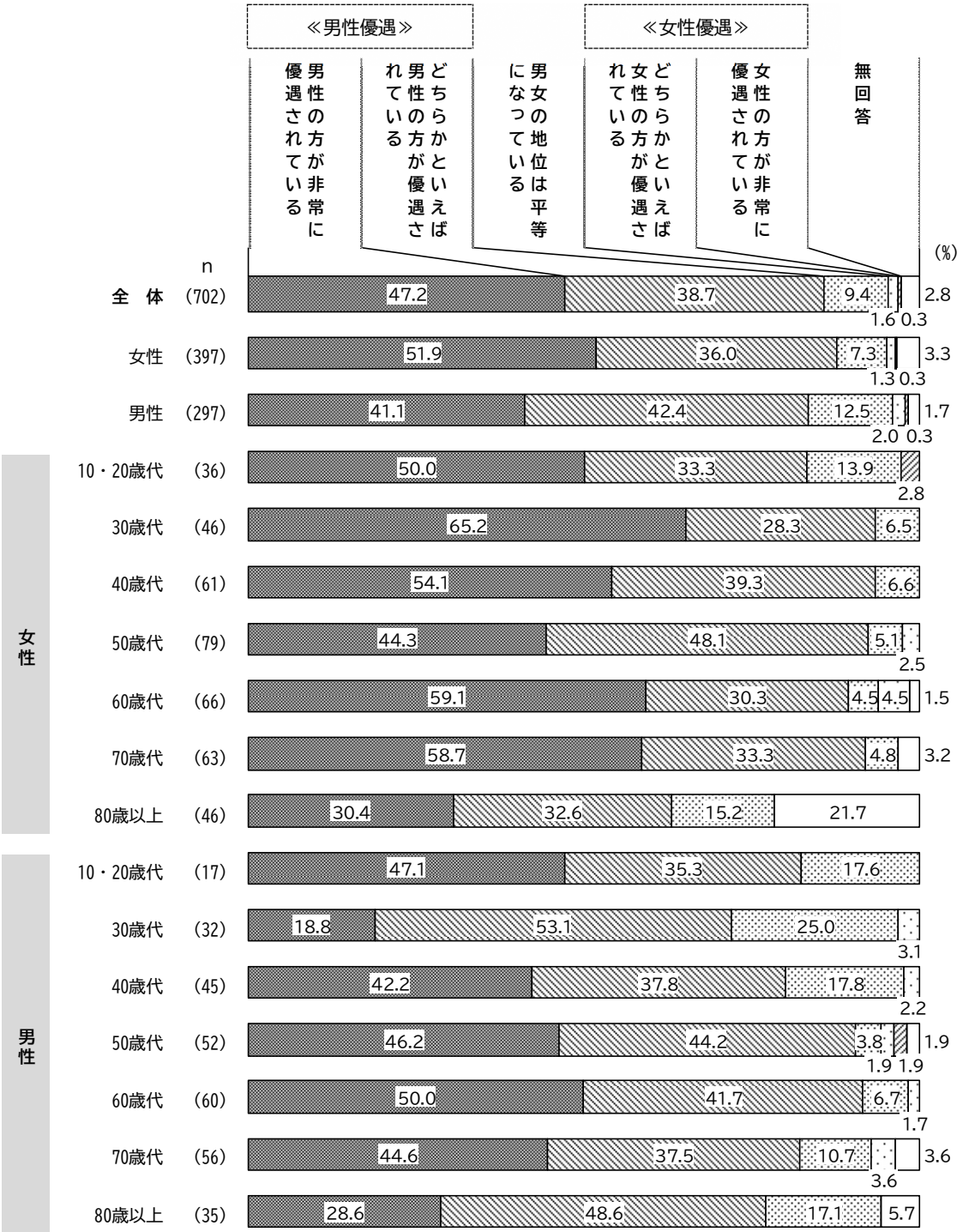
性・年代別にみると、女性では、30歳代、40歳代、60歳代で≪男性優遇≫が５割台から６割台となっており、全体より10から20ポイント程度上回っています。男性では、30歳代、40歳代、60歳代で「男女の地位は平等になっている」が５割台から６割台となっており、全体より10から20ポイント程度上回っています。



（５）政治の場で

性別にみると、男女ともに≪男性優遇(女性：87.9%、男性：83.5%)≫が８割台となっており、女性が男性を4.4ポイント上回っています。「男女の地位は平等になっている」が女性は7.3%、男性は12.5%となっており、男性が女性を5.2ポイント上回っています。

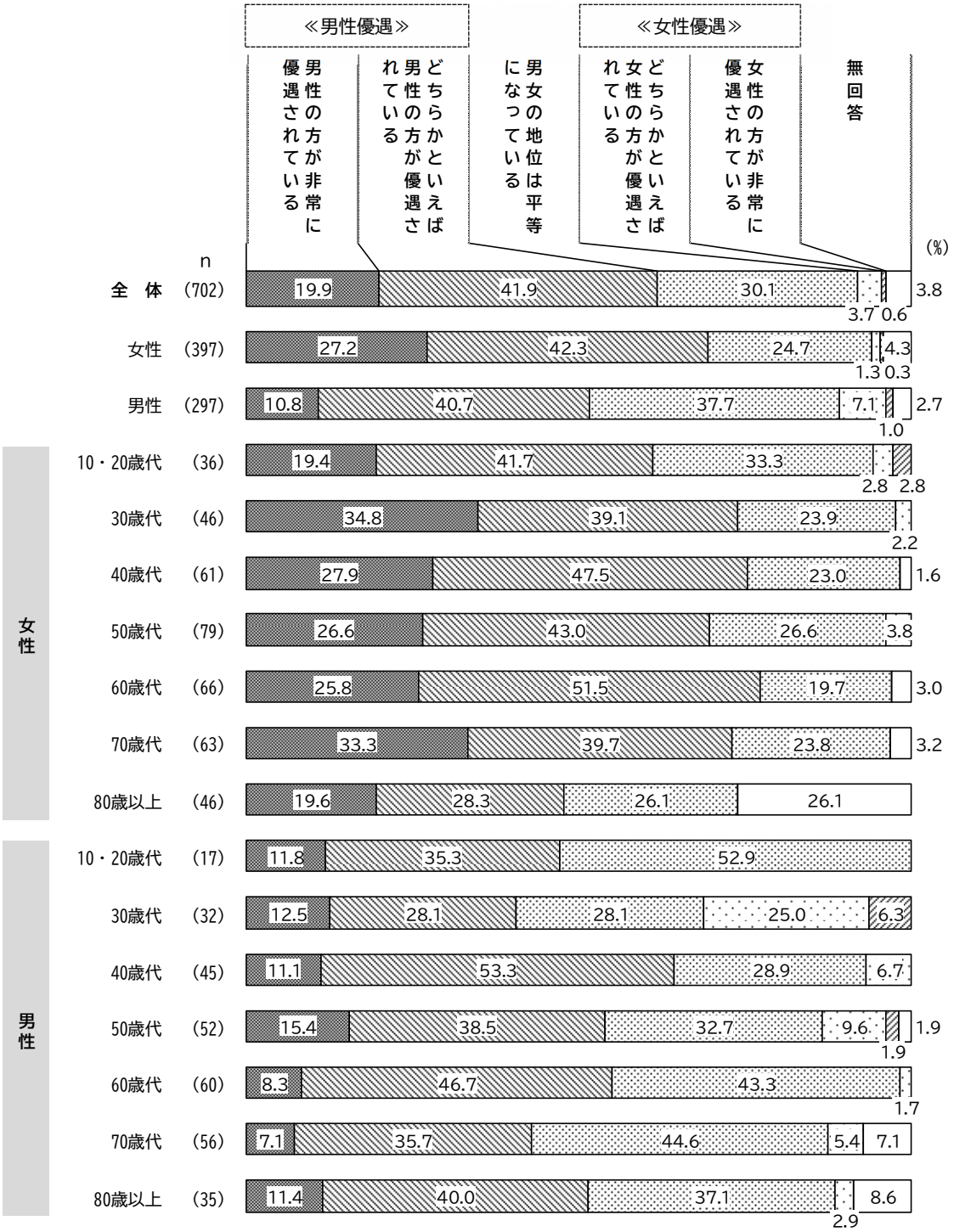
性・年代別にみると、女性では、30歳代から70歳代で≪男性優遇≫が９割前後となっています。男性では、30歳代で「男女の地位は平等になっている」が25.0%となっており、全体より15.6ポイント上回っています。



（６）法律や制度の上で

性別にみると、男女ともに≪男性優遇(女性：69.5%、男性：51.5%)≫が過半数となっており、女性が男性を18.0ポイント上回っています。「男女の地位は平等になっている」が女性は24.7%、男性は37.7%となっており、男性が女性を13.0ポイント上回っています。

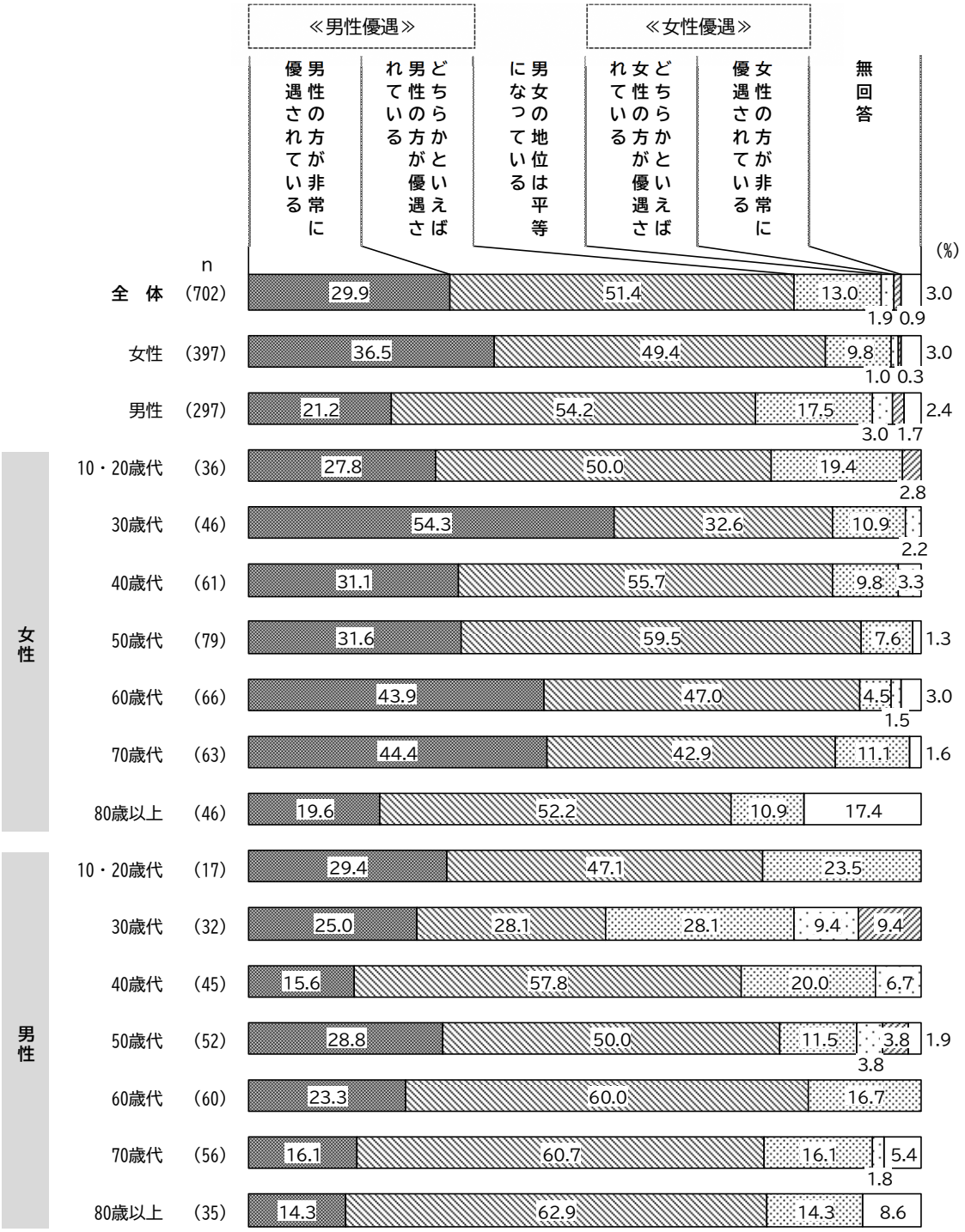
性・年代別にみると、女性では、30歳代、40歳代、60歳代、70歳代で≪男性優遇≫が７割台となっており、全体より10から15ポイント程度上回っています。男性では、60歳代、70歳代で「男女の地位は平等になっている」が４割台となっており、全体より10から15ポイント程度上回っています。



（７）社会通念・習慣・しきたりなどで

性別にみると、男女ともに≪男性優遇(女性：85.9%、男性：75.4%)≫が最も多くなっており、女性が男性を10.5ポイント上回っています。「男女の地位は平等になっている」が女性は9.8%、男性は17.5%となっており、男性が女性を7.7ポイント上回っています。

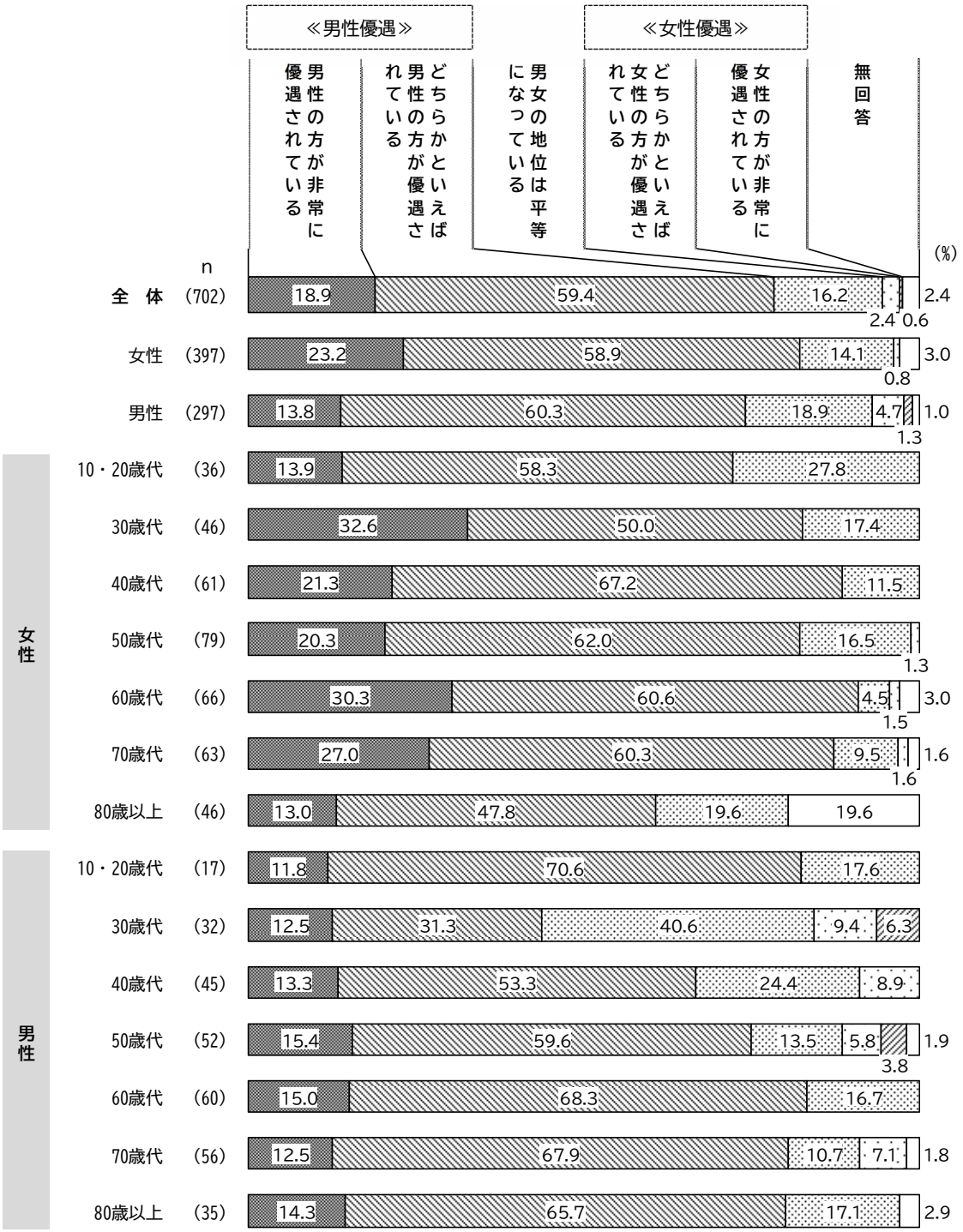
性・年代別にみると、女性では、50歳代と60歳代で≪男性優遇≫が９割台となっており、全体より10ポイント程度上回っています。男性では、30歳代で「男女の地位は平等になっている」が28.1%となっており、全体より15.1ポイント上回っています。



（８）社会全体では

性別にみると、男女ともに≪男性優遇(女性：82.1%、男性：74.1%)≫が最も多くなっており、女性が男性を8.0ポイント上回っています。「男女の地位は平等になっている」が女性は14.1%、男性は18.9%となっており、男性が女性を4.8ポイント上回っています。

性・年代別にみると、女性では、10・20歳代と80歳以上を除くすべての年代で≪男性優遇≫が８割以上となっており、特に60歳代で９割台と、全体より12.6ポイント上回っています。男性では、30歳代で「男女の地位は平等になっている」が40.6%となっており、全体より24.4ポイント上回っています。



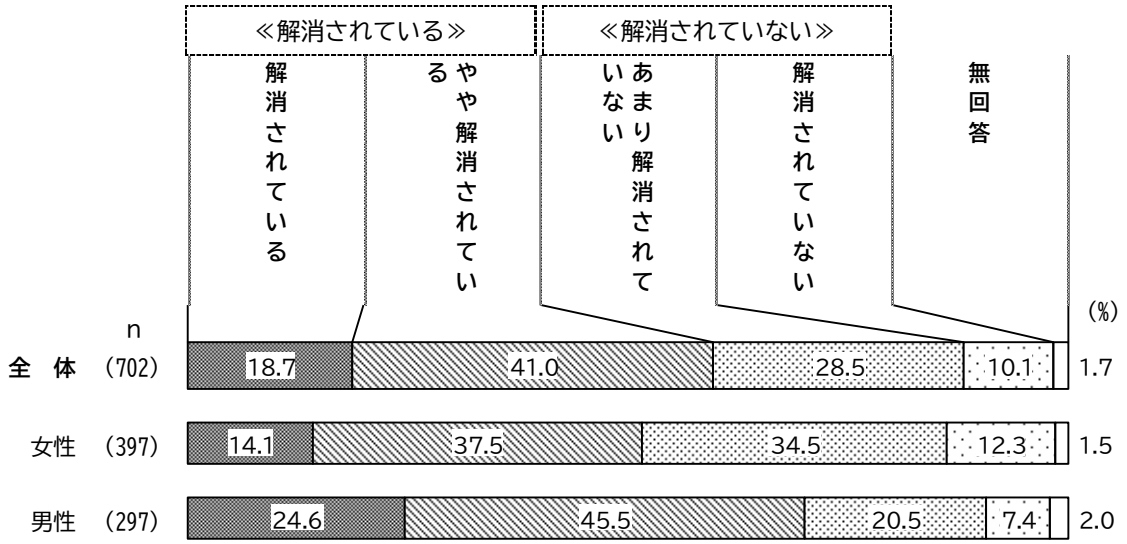
（２）固定的性別役割分担意識についての考え

問９　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」など、性別によって役割を固定する考え方を「固定的性別役割分担意識」と言います。あなたは、固定的性別役割分担意識は解消していると思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。（１つに○）

○≪解消されている≫が≪解消されていない≫を大幅に上回っている。
○≪解消されている≫は男性が女性を上回っている。

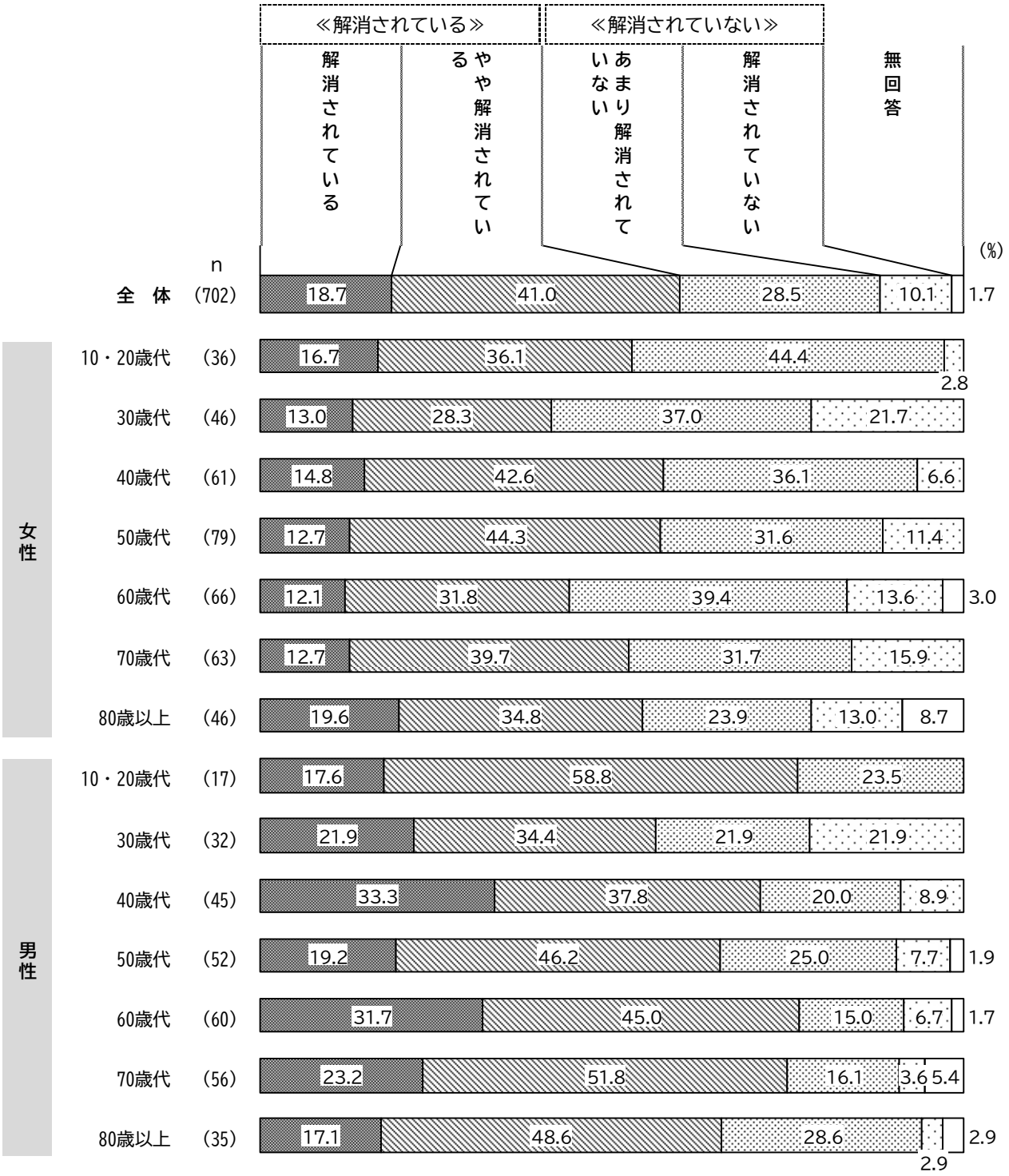
全体では、≪解消されている(59.7%)≫（「解消されている」と「やや解消されている」の合計）が≪解消されていない(38.6%)≫（「解消されていない」と「あまり解消されていない」の合計）を21.1ポイントと大幅に上回っています。

性別にみると、男女ともに≪解消されている(女性：51.6%、男性：70.1%)≫が最も多くなっており、男性が女性を18.5ポイント上回っています。



■性・年代別

性・年代別にみると、女性では、30歳代で≪解消されていない(58.7%)≫が多くなっています。男性では、すべての年代で≪解消されている≫が過半数を占め、特に40歳代、60歳代、70歳代で７割を超えています。一方で、30歳代で≪解消されていない(43.8%)≫が他の年代と比べて多くなっています。



３．家庭生活について

（１）家事・育児・介護に携わっている時間（平日・休日）

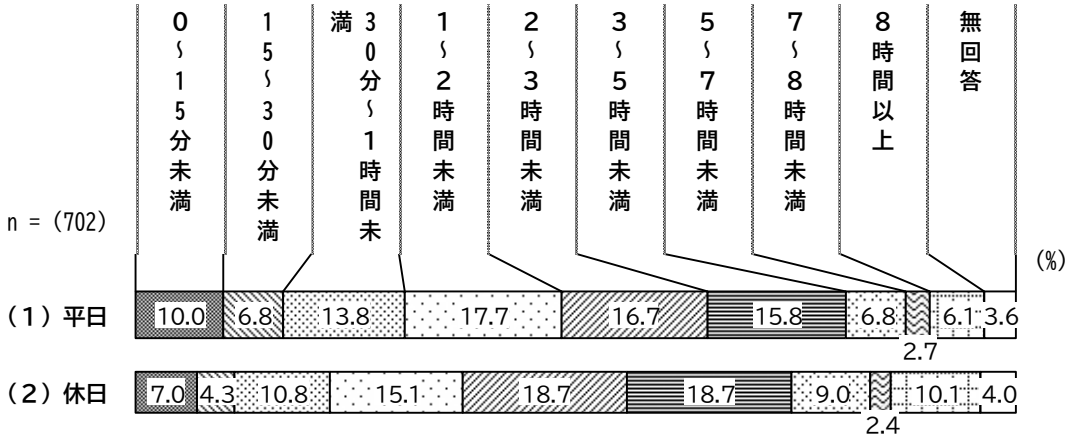
問10　あなたが平日・休日で家事・育児・介護などに携わる1日あたりの時間はどのくらいですか。平均的な時間をお答えください。（それぞれについて、１つに○）

○『平日』で「１～２時間未満」、『休日』で「２～３時間未満」、「３～５時間未満」が約２割を占めている。

○『平日』、『休日』ともに女性で「３～５時間未満」、男性で「30分～１時間未満」が最も多く、女性と男性で家事・育児・介護に携わっている時間に違いが見られる。

平日についてみると、全体では、「１～２時間未満(17.7%)」が最も多く、「２～３時間未満(16.7%)」、「３～５時間未満(15.8%)」が続いています。

休日についてみると、全体では、「２～３時間未満」「３～５時間未満」がともに18.7%と多く、「１～２時間未満(15.1%)」、「30分～１時間未満(10.8%)」が続いています。

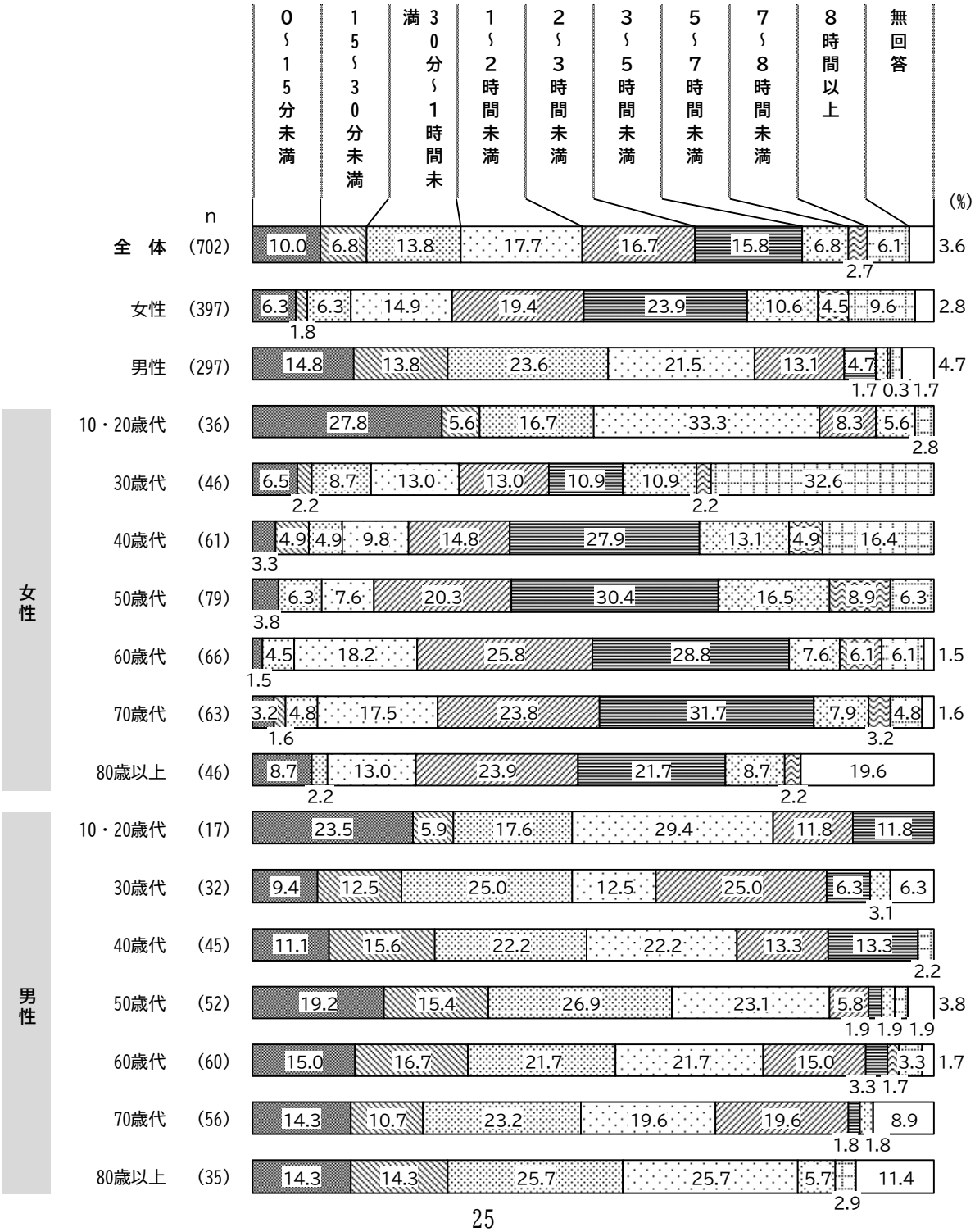


■性別、性・年代別

（１）平日

性別にみると、女性は「３～５時間未満(23.9%)」が最も多く、「２～３時間未満(19.4%)」、「１～２時間未満(14.9%)」が続いています。男性は「30分～１時間未満(23.6%)」が最も多く、「１～２時間未満(21.5%)」、「０～15分未満(14.8%)」が続いています。

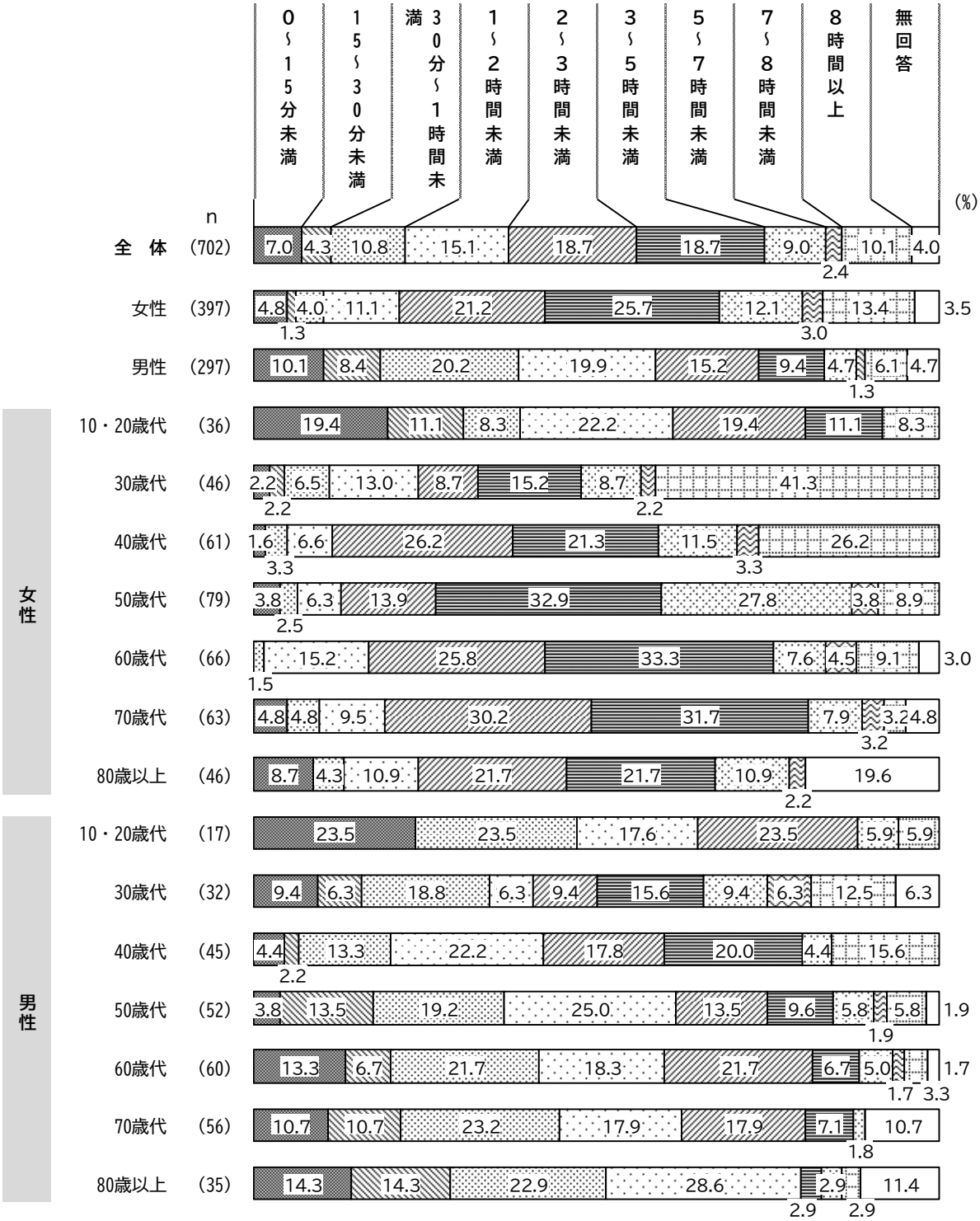
性・年代別にみると、女性では、50歳代と70歳代で「３～５時間未満」が３割台と多くなっており、全体を15ポイント程度上回っています。男性では、30歳代で「２～３時間未満（25.0%)」が他の年代と比べて多くなっています。５時間以上の回答はすべての年代で１割に満たず、「７～８時間未満」は60歳代以外で回答が見られませんでした。



（２）休日

性別にみると、女性は「３～５時間未満(25.7%)」が最も多く、「２～３時間未満(21.2%)」、「８時間以上(13.4%)」が続いています。男性は「30分～１時間未満(20.2%)」が最も多く、「１～２時間未満(19.9%)」、「２～３時間未満(15.2%)」が続いています。

性・年代別にみると、女性では、50歳代から70歳代で「３～５時間未満」が３割台と多くなっており、全体を10ポイント程度上回っています。また、「８時間以上」は30歳代で41.3%、40歳代で26.2%と多くなっています。男性では、30歳代、40歳代で「３～５時間未満」が１割台半ばから２割、「８時間以上」が１割台と多くなっています。



４．仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について

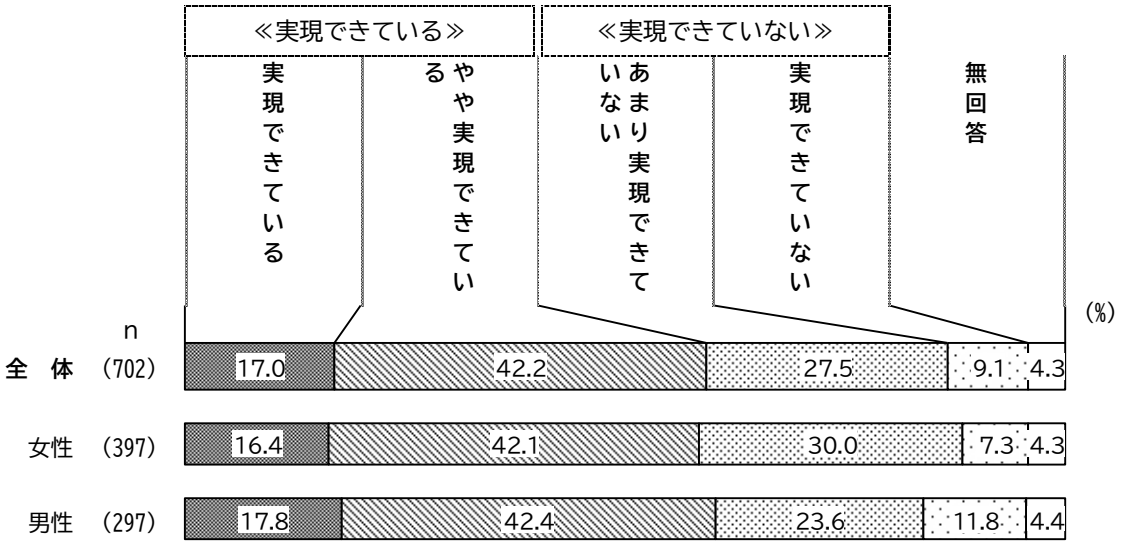
（１）仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現状況

問11　あなたはワーク・ライフ・バランスを実現できていますか。あなたの実情に近いものを選んでください。（１つに○）

○≪実現できている≫が≪実現できていない≫を大幅に上回っている。
○≪実現できている≫は男性30歳代で≪実現できていない≫との差が他の年代より小さい。

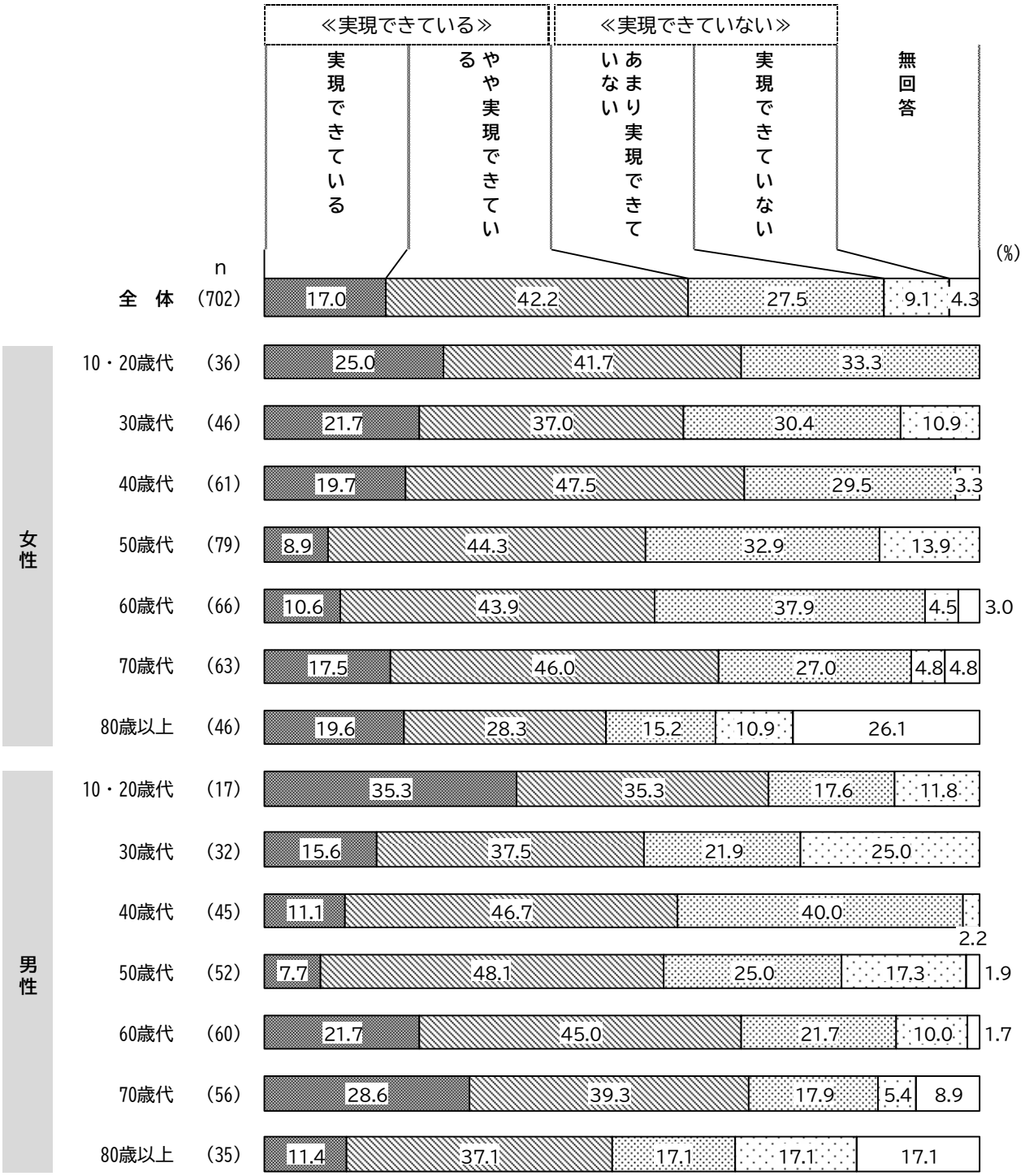
全体では、≪実現できている(59.2%)≫（「実現できている」と「やや実現できている」の合計）が≪実現できていない(36.6%)≫（「実現できていない」と「あまり実現できていない」の合計）を22.6ポイントと大幅に上回っています。

性別にみると、男女ともに全体と同様の傾向を示しており、≪実現できている(女性：58.5%、男性：60.2%)≫が６割程度となっています。



■性・年代別

性・年代別にみると、男女ともに80歳以上を除くすべての年代で≪実現できている≫が５割を超えています。女性では、50歳代で≪実現できている(53.2％)≫と≪実現できていない(46.8％)≫の差が他の年代と比べて小さくなっています。男性では、30歳代から50歳代で≪実現できていない≫が４割を超えており、特に30歳代で≪実現できている(53.1％)≫と≪実現できていない(46.9％)≫の差が他の年代と比べて小さくなっています。

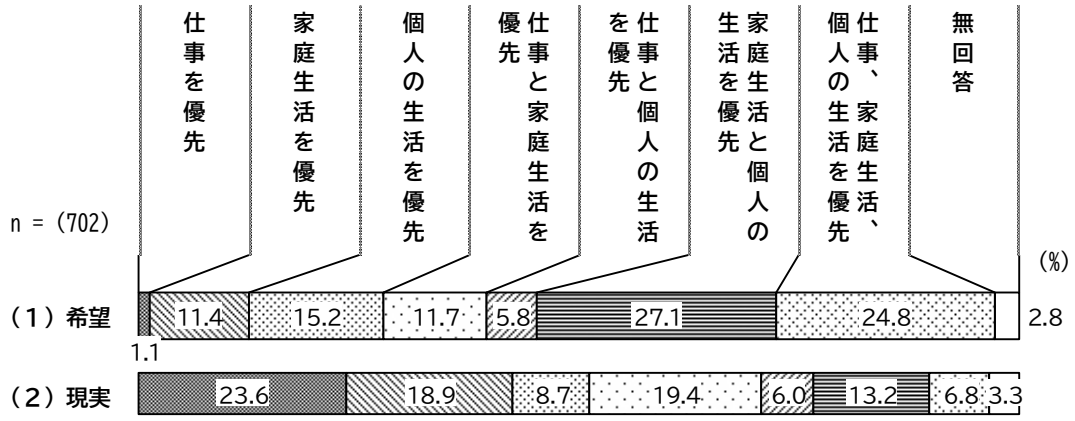


（２）生活の中の優先度（希望、現実）

問12　生活の中での、仕事、家庭生活、個人の生活（地域活動、趣味・学習等）の優先度について、あなたの希望と現実に最も近いものをそれぞれお答えください。
（それぞれについて、１つに○）

○『希望』は「家庭生活と個人の生活を優先」「仕事、家庭生活、個人の生活を優先」、『現実』は「仕事を優先」が最も多く、希望と現実に差がある。
○女性は『希望』としては「家庭生活と個人の生活を優先」が多く、『現実』は「家庭生活を優先」が多くなっている。

『希望』についてみると、全体では、「家庭生活と個人の生活を優先(27.1%)」が最も多く、「仕事、家庭生活、個人の生活を優先(24.8%)」が続いています。
『現実』についてみると、全体では、「仕事を優先(23.6%)」が最も多く、「仕事と家庭生活を優先(19.4%)」、「家庭生活を優先(18.9%)」が続いています。
『希望』で最も多い「家庭生活と個人の生活を優先(27.1%)」は、『現実』では13.2%、『現実』で最も多い「仕事を優先(23.6%)」は、『希望』では1.1%となっており、希望と現実の差が顕著になっています。

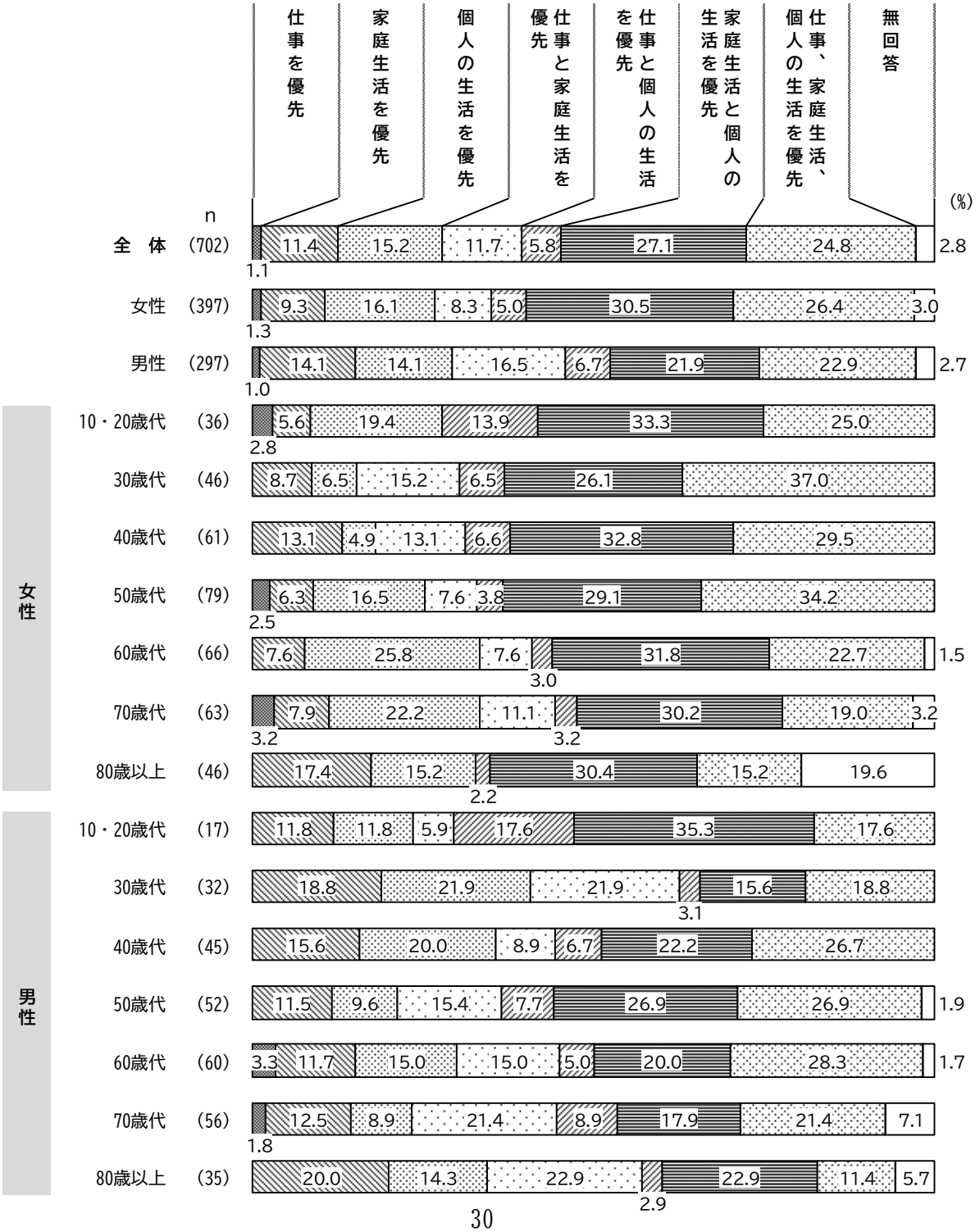


■性別、性・年代別

（１）希望

性別にみると、「家庭生活と個人の生活を優先」が女性は30.5%、男性は21.9%となっており、女性が男性を8.6ポイント上回っています。一方、「仕事と家庭生活を優先」が女性は8.3%、男性は16.5%となっており、男性が女性を8.2ポイント上回っています。

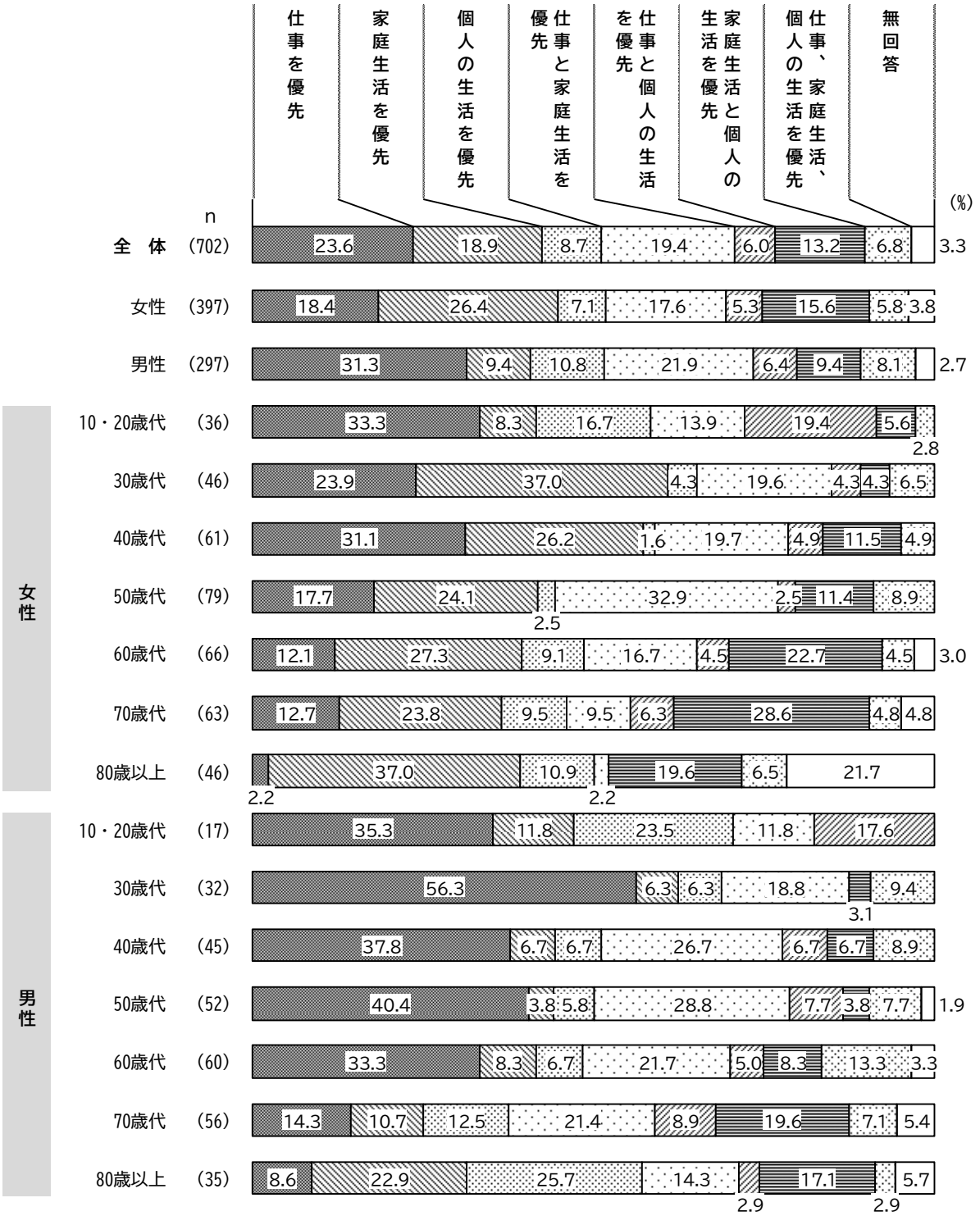
性・年代別にみると、女性では、30歳代と50歳代で「仕事、家庭生活、個人の生活を優先」が３割台と多くなっており、それ以外の年代では「家庭生活と個人の生活を優先」が３割台となっています。男性では、30歳代、70歳代、80歳以上で「仕事と家庭生活を優先」が２割台と多くなっており、全体を10ポイント程度上回っています。



（２）現実

性別にみると、「家庭生活を優先」が女性は26.4%、男性は9.4%となっており、女性が男性を17.0ポイント上回っています。一方、「仕事を優先」が女性は18.4%、男性は31.3%となっており、男性が女性を12.9ポイント上回っています。

性・年代別にみると、女性では、10・20歳代で「仕事を優先」、30歳代と80歳以上で「家庭生活を優先」、50歳代で「仕事と家庭生活を優先」が３割台と多くなっています。男性では、30歳代から60歳代で「仕事を優先」が多く、30歳代で５割台となっています。

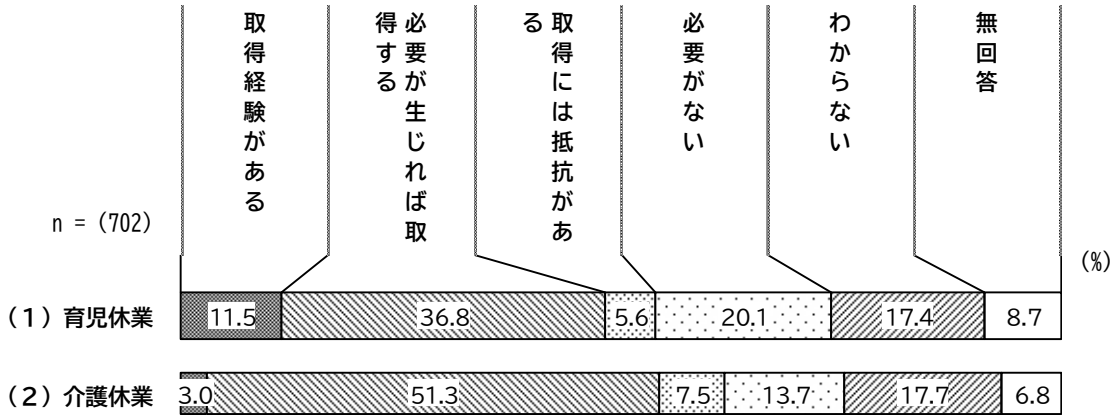


（３）育児休業、介護休業の取得経験、取得意向

問13　あなたは、育児休業や介護休業を取得した経験がありますか。または、これから先そのような状況が生じた時、どうしようと思いますか。育児休業、介護休業それぞれについてお答えください。（それぞれについて、１つに○）

○今後の取得希望者は介護休業の方が多い。
○育児休業の取得経験者は女性が男性を上回っている。

「取得経験がある」は、育児休業が11.5％、介護休業が3.0％となっています。「必要が生じれば取得する」は、介護休業が51.3％、育児休業が36.8％で、介護休業が育児休業を14.5ポイント上回っています。一方、「必要がない」は、育児休業が20.1％、介護休業が13.7％となっています。

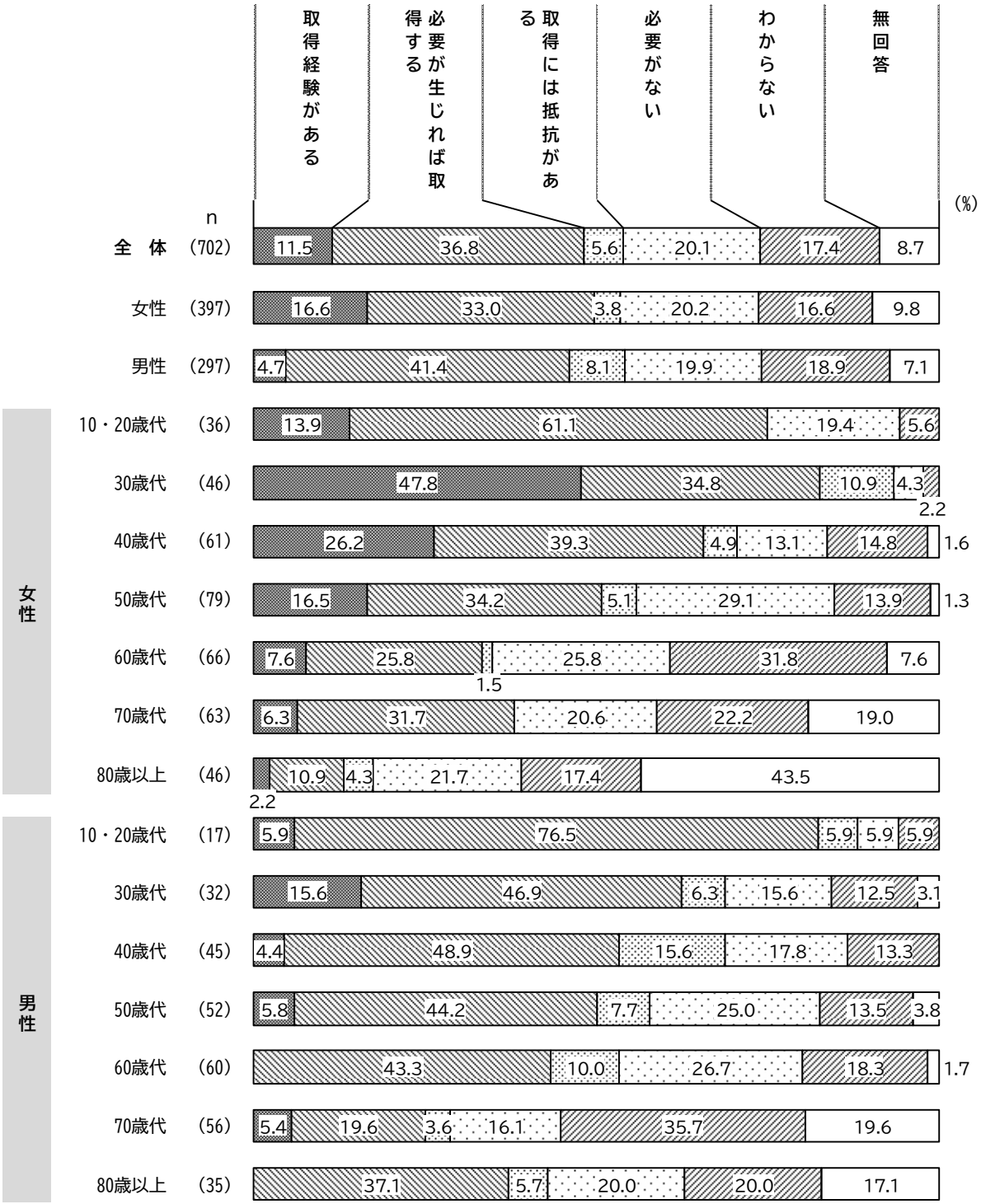


■性別、性・年代別

（１）育児休業

性別にみると、男女ともに「必要が生じれば取得する(女性：33.0%、男性：41.4%)」が最も多くなっています。女性は「取得経験がある(16.6%)」が１割台半ばとなっています。男性は「取得には抵抗がある(8.1%)」が約１割で、「取得経験がある」は4.7%にとどまっています。

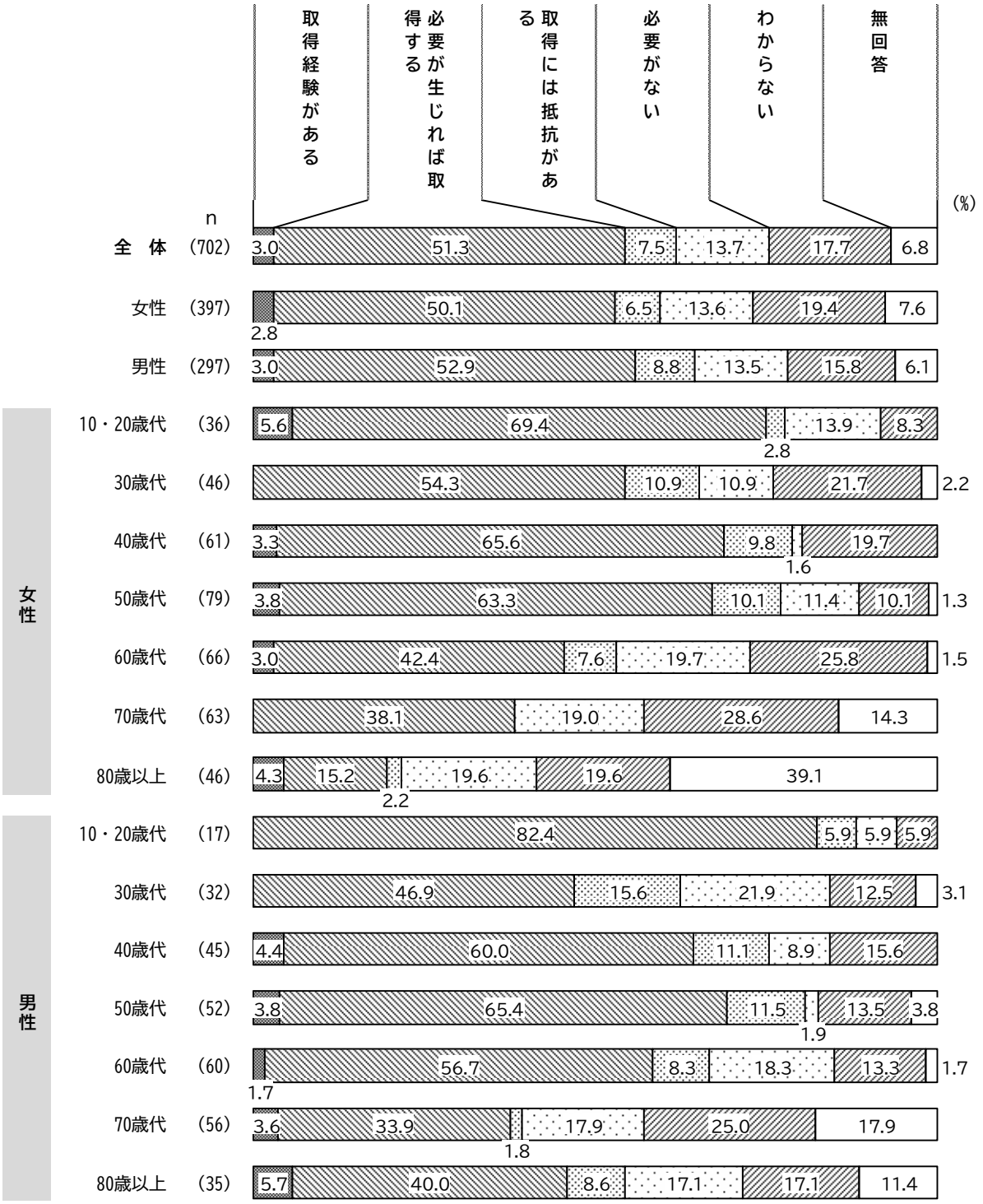
性・年代別にみると、女性では、30歳代と40歳代で「取得経験がある」が２割を超え、特に30歳代で47.8%となっています。男性では、30歳代で「取得経験がある」が15.6%と最も多く、それ以外の年代では１割未満となっています。



（２）介護休業

性別にみると、男女ともに「必要が生じれば取得する(女性：50.1%、男性：52.9%)」が最も多くなっています。「取得経験がある」は、女性は2.8%、男性は3.0%となっています。

性・年代別にみると、女性の10・20歳代から50歳代、男性の40歳代から60歳代で「必要が生じれば取得する」が５割から６割程度と最も多くなっています。



（３－１）育児休業、もしくは介護休業を取得しない理由

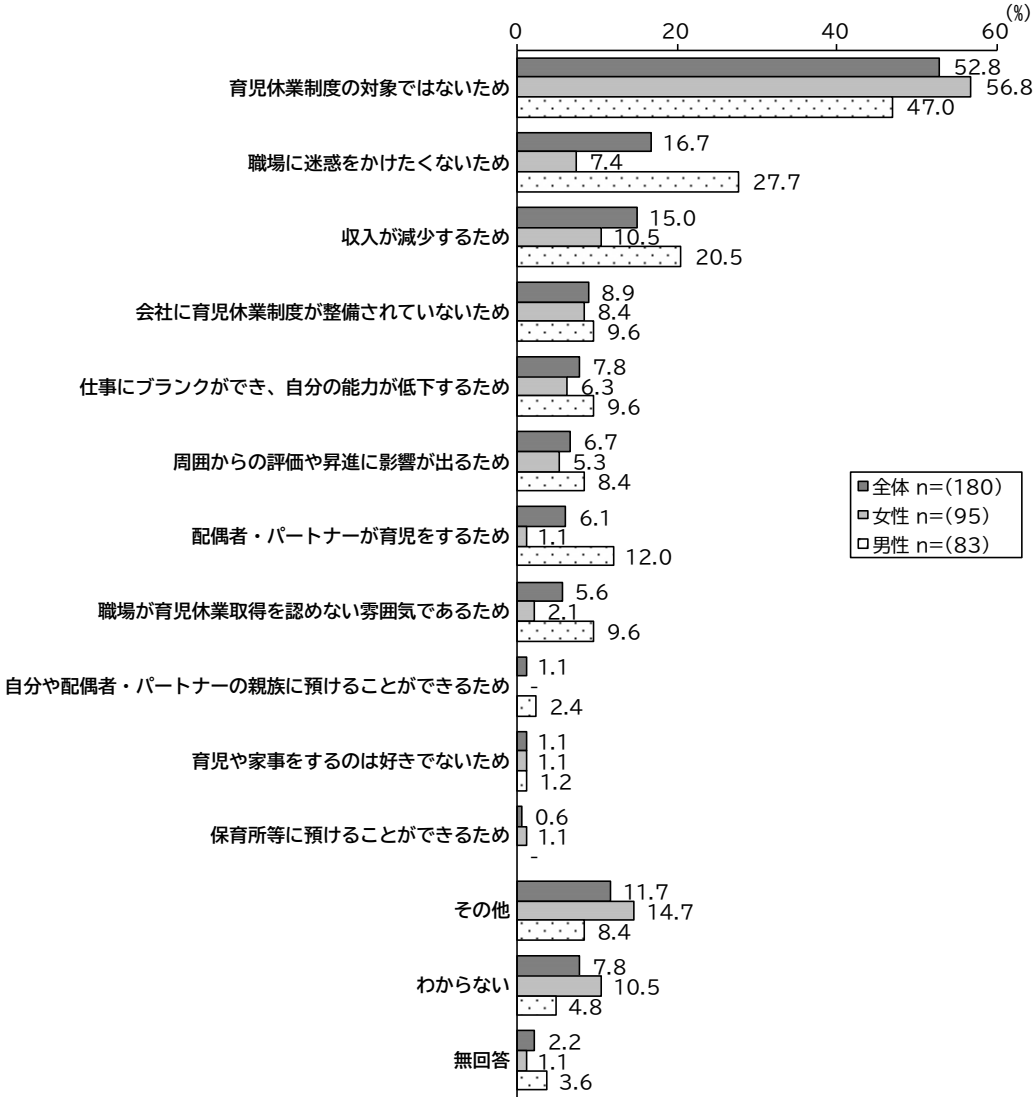
【問13でひとつでも「取得には抵抗がある」、「必要がない」と答えた方におたずねします。】
問13-１　育児休業もしくは介護休業を取得しない理由をそれぞれお答えください。

○育児休業、介護休業ともに「制度の対象ではないため」が最も多くなっている。
○「職場に迷惑をかけたくないため」、「収入が減少するため」、「配偶者・パートナーが育児をするため」は男性が女性を大幅に上回っている。

（１）育児休業（いくつでも○）

全体では、「育児休業制度の対象ではないため(52.8%)」が最も多く、「職場に迷惑をかけたくないため(16.7%)」、「収入が減少するため(15.0%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに「育児休業制度の対象ではないため(女性：56.8%、男性：47.0%)」が最も多くなっています。次いで、女性では「収入が減少するため(10.5%)」、男性では「職場に迷惑をかけたくないため(27.7%)」となっており、「職場に迷惑をかけたくないため」では男性が女性（7.4%）を20.3ポイント上回っています。また、「配偶者・パートナーが育児をするため」は女性（1.1%）では１%程度なのに対し、男性（12.0%）では１割台と差が見られます。



■性・年代別

性・年代別にみると、いずれも回答者数が 30 未満のため参考に留めますが、男女ともにすべての年代で「育児休業制度の対象ではないため」が多く、女性の 30 歳代と男性の 30 歳代と 40 歳代で「職場に迷惑をかけたくないため」も多くなっています。

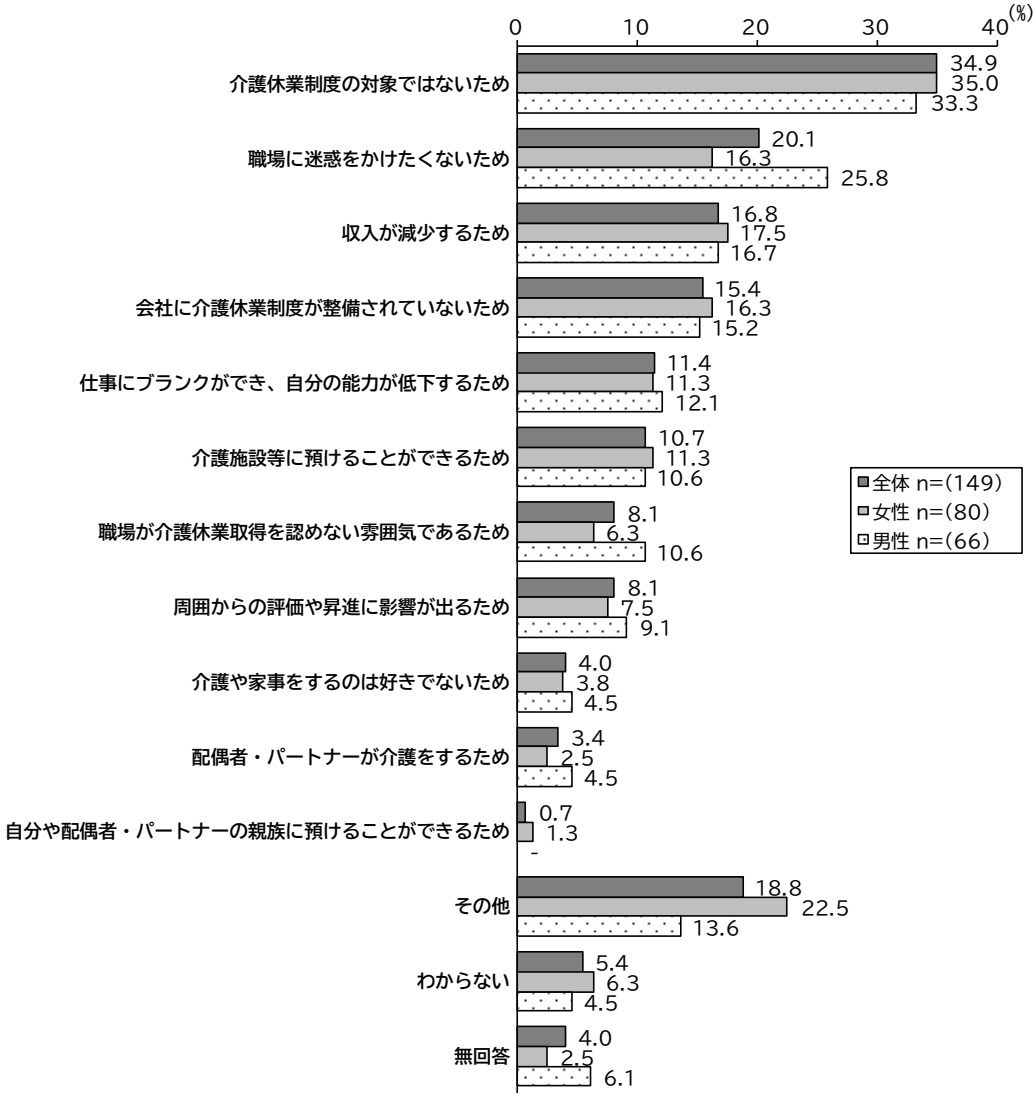
（単位:％）

			回答者数（人）	育児休業制度の対象ではないため	職場に迷惑をかけたくないため	収入が減少するため	会社に育児休業制度が整備されていないため	仕事にブランクができ、自分の能力が低下するため	周囲からの評価や昇進に影響が出るため	配偶者・パートナーが育児をするため	職場が育児休業取得を認めない雰囲気であるため	自分や配偶者・パートナーの親族に預けることができるため	育児や家事をするのは好きでないため	保育所等に預けることができるため	その他	わからない	無回答
全　体			180	52.8	16.7	15.0	8.9	7.8	6.7	6.1	5.6	1.1	1.1	0.6	11.7	7.8	2.2
性・年代別	女性	10・20歳代	7	57.1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	42.9	－
		30歳代	7	－	42.9	42.9	28.6	－	14.3	－	14.3	－	14.3	－	14.3	14.3	－
		40歳代	11	54.5	9.1	27.3	9.1	27.3	18.2	9.1	9.1	－	－	－	－	－	－
		50歳代	27	70.4	7.4	3.7	14.8	3.7	－	－	－	－	－	－	14.8	3.7	－
		60歳代	18	50.0	－	11.1	－	5.6	5.6	－	－	－	－	－	27.8	11.1	－
		70歳代	13	69.2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	7.7	15.4	7.7
		80歳以上	12	58.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	－	－	－	－	8.3	25.0	8.3	－
	男性	10・20歳代	2	50.0	50.0	－	－	－	50.0	－	－	－	50.0	－	－	－	－
		30歳代	7	42.9	57.1	28.6	14.3	－	14.3	－	－	－	－	－	－	－	－
		40歳代	15	33.3	40.0	33.3	26.7	13.3	6.7	20.0	20.0	－	－	－	－	6.7	－
		50歳代	17	41.2	23.5	29.4	11.8	5.9	5.9	23.5	－	5.9	－	－	5.9	5.9	－
		60歳代	22	63.6	22.7	22.7	－	18.2	13.6	9.1	13.6	－	－	－	－	－	9.1
		70歳代	11	18.2	18.2	－	－	－	－	－	9.1	9.1	－	－	45.5	9.1	9.1
		80歳以上	9	77.8	11.1	－	11.1	11.1	－	11.1	11.1	－	－	－	11.1	11.1	－

（２）介護休業（いくつでも○）

全体では、「介護休業制度の対象ではないため(34.9%)」が最も多く、「職場に迷惑をかけたくないため(20.1%)」、「収入が減少するため(16.8%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに「介護休業制度の対象ではないため(女性：35.0%、男性：33.3%)」が最も多くなっています。次いで、女性では「収入が減少するため(17.5%)」、「職場に迷惑をかけたくないため」「会社に介護休業制度が整備されていないため」がともに16.3%、男性では「職場に迷惑をかけたくないため(25.8%)」、「収入が減少するため(16.7%)」となっており、「職場に迷惑をかけたくないため」では男性が女性を9.5ポイント上回っています。



■性・年代別

性・年代別にみると、いずれも回答者数が30未満のため参考に留めますが、男性の30歳代から50歳代で「職場に迷惑をかけたくないため」が多くなっています。

（単位:%）

			回答者数（人）	介護休業制度の対象ではないため	職場に迷惑をかけたくないため	収入が減少するため	会社に介護休業制度が整備されていないため	仕事にブランクができ、自分の能力が低下するため	介護施設等に預けることができるため	職場が介護休業取得を認めない雰囲気であるため	周囲からの評価や昇進に影響が出るため	介護や家事をするのは好きでないため	配偶者・パートナーが介護をするため	自分や配偶者・パートナーの親族に預けることができるため	その他	わからない	無回答
全　体			149	34.9	20.1	16.8	15.4	11.4	10.7	8.1	8.1	4.0	3.4	0.7	18.8	5.4	4.0
性・年代別	女性	10・20歳代	6	16.7	-	-	-	-	-	-	-	16.7	-	-	16.7	50.0	-
		30歳代	10	30.0	10.0	20.0	40.0	-	20.0	-	10.0	10.0	-	-	10.0	10.0	-
		40歳代	7	14.3	57.1	71.4	28.6	42.9	-	28.6	28.6	-	-	-	-	-	-
		50歳代	17	41.2	23.5	11.8	23.5	17.6	23.5	11.8	11.8	5.9	-	-	17.6	-	-
		60歳代	18	27.8	16.7	22.2	11.1	16.7	5.6	5.6	5.6	-	-	-	44.4	-	5.6
		70歳代	12	50.0	-	-	-	-	8.3	-	-	-	-	-	25.0	8.3	8.3
		80歳以上	10	50.0	10.0	10.0	10.0	-	10.0	-	-	-	20.0	10.0	20.0	-	-
	男性	10・20歳代	2	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-
		30歳代	12	25.0	41.7	33.3	33.3	8.3	25.0	16.7	16.7	8.3	-	-	-	-	-
		40歳代	9	33.3	33.3	11.1	22.2	22.2	-	22.2	11.1	-	11.1	-	-	-	-
		50歳代	7	-	57.1	42.9	14.3	28.6	42.9	-	-	14.3	-	-	-	14.3	-
		60歳代	16	43.8	25.0	18.8	12.5	12.5	6.3	18.8	12.5	6.3	12.5	-	6.3	-	12.5
		70歳代	11	27.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	54.5	9.1	9.1
		80歳以上	9	66.7	11.1	-	11.1	11.1	-	-	-	-	-	-	11.1	11.1	11.1

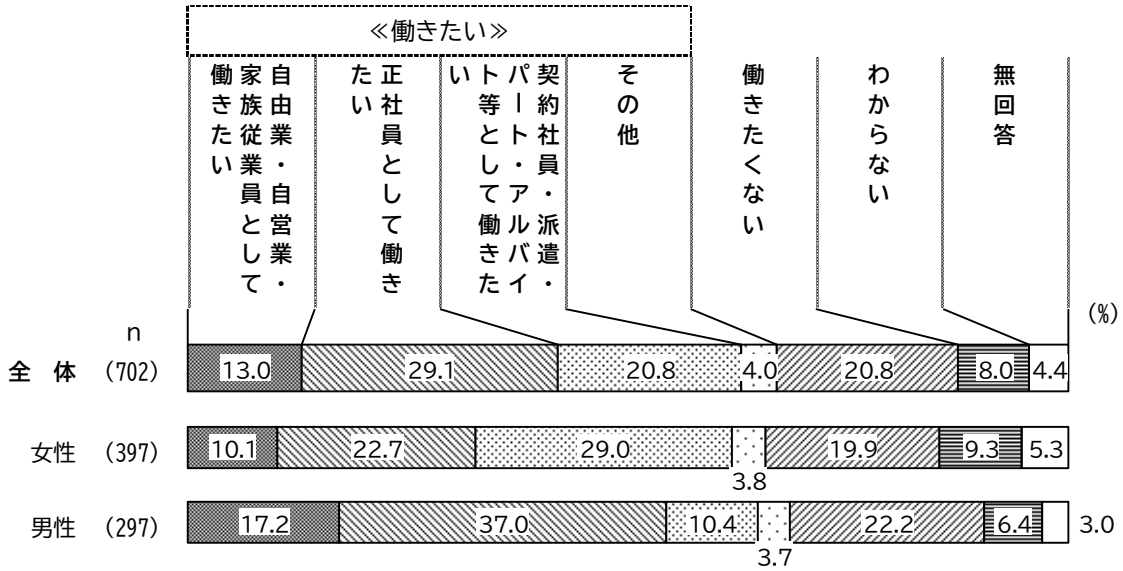
（４）今後の就労意向

問14　あなたは、今後、どのような形態で働きたいと思いますか。（１つに○）

○≪働きたい≫が「働きたくない」を大幅に上回っている。
○「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として働きたい」は女性が男性を上回り、「正社員として働きたい」は男性が女性を上回っている。

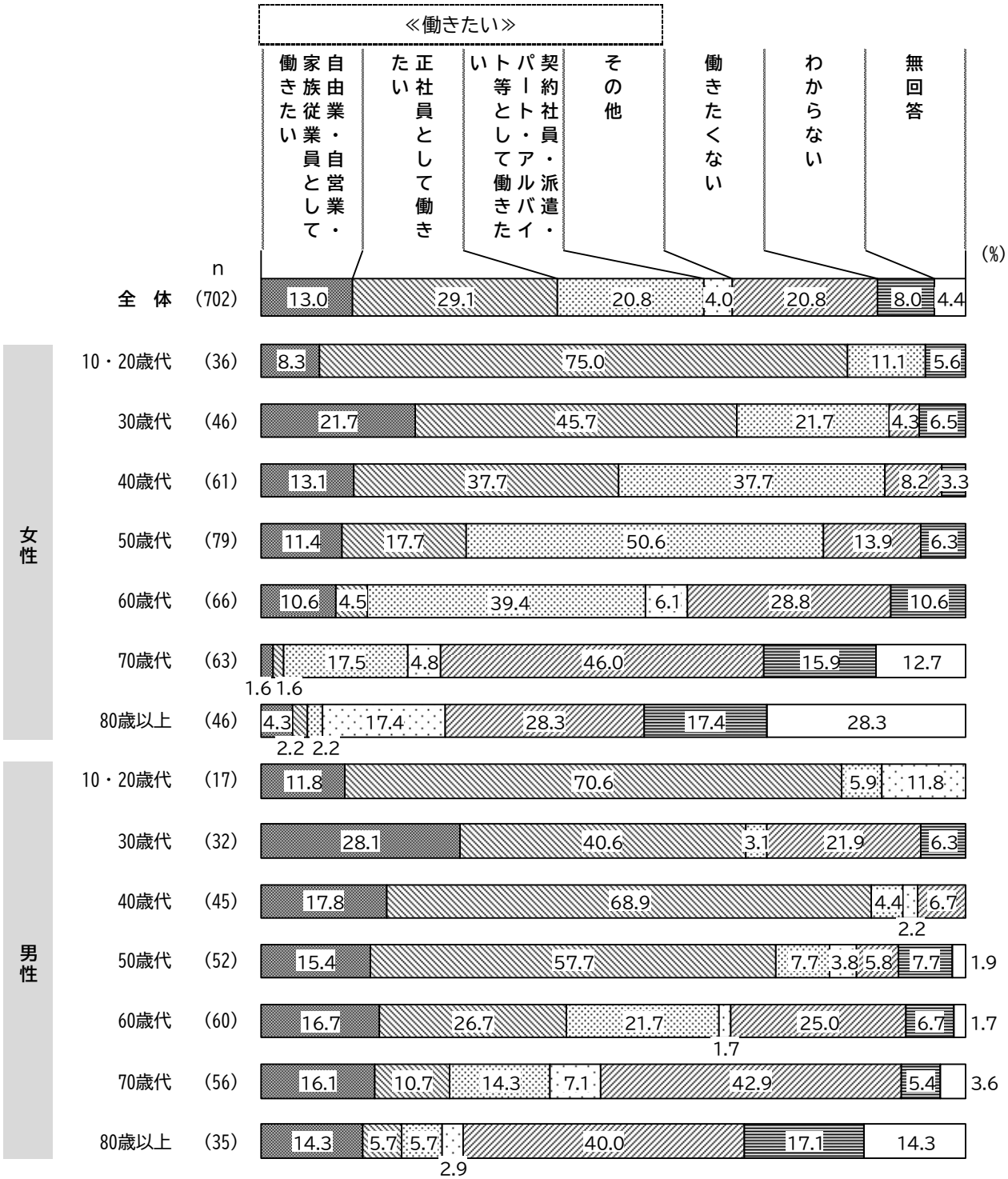
全体では、≪働きたい(66.9%)≫（「自由業・自営業・家族従業員として働きたい」「正社員として働きたい」「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として働きたい」「その他」の合計）が「働きたくない(20.8%)」を46.1ポイントと大幅に上回っています。

性別にみると、男女ともに≪働きたい(女性：65.6%、男性：68.3%)≫が６割台となっています。また、「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として働きたい」が女性は29.0%、男性は10.4%となっており、女性が男性を18.6ポイント上回っています。一方で、「正社員として働きたい」が女性は22.7%、男性は37.0%となっており、男性が女性を14.3ポイント上回っています。



■性・年代別

性・年代別にみると、女性では、≪働きたい≫が10・20歳代から40歳代で９割前後と多く、特に10・20歳代（94.4％）で９割台半ばとなっています。また、10・20歳代（75.0％）と30歳代（45.7％）で「正社員として働きたい」が最も多く、50歳代（50.6％）と60歳代（39.4％）で「契約社員・派遣・パート・アルバイト等として働きたい」が最も多くなっています。男性では、≪働きたい≫が40歳代（93.3％）で最も多くなっており、以降は年代が上がるほど少なくなっています。30歳代で≪働きたい≫が71.8％、「働きたくない」が21.9％、「自由業・自営業・家族従業員として働きたい」が28.1％となっています。



５．女性の活躍について

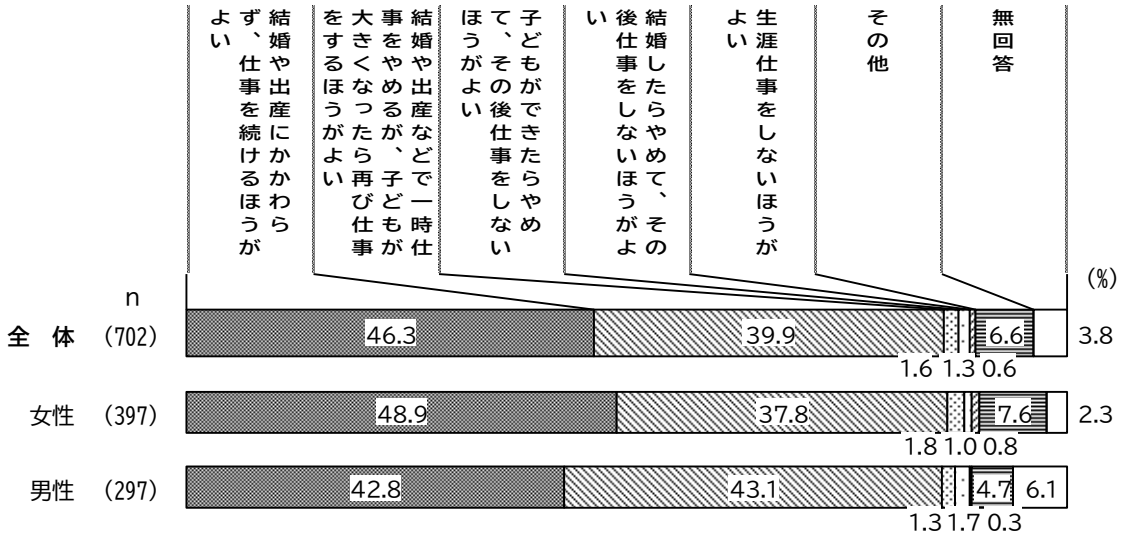
（１）女性の働き方について

問15　あなたは、一般的に女性の働き方について、どのようにお考えですか。（１つに○）

○「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるほうがよい」が４割台半ばを占めている。
○「結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をするほうがよい」は男性が女性を上回っている。

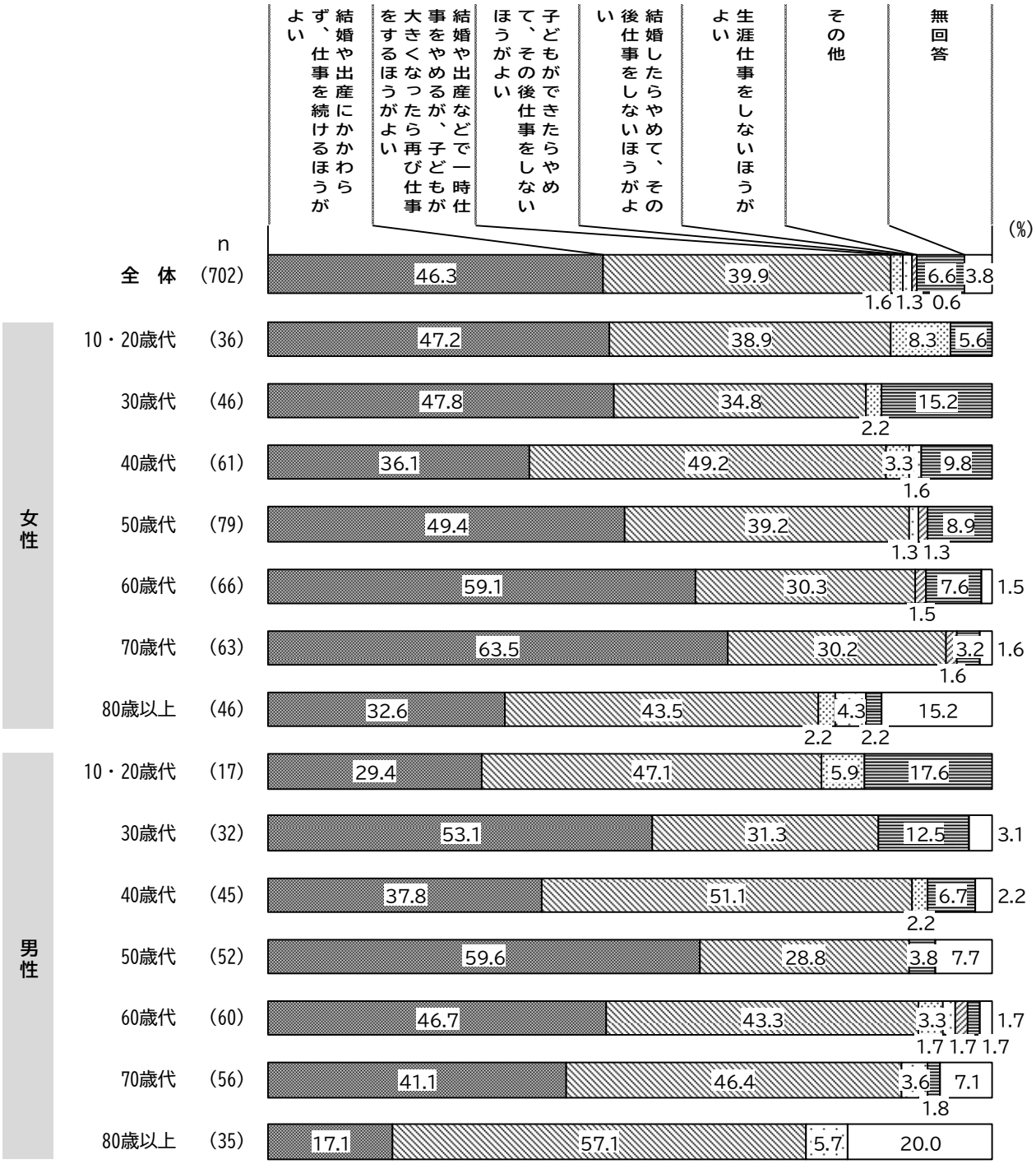
全体では、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるほうがよい(46.3%)」が最も多く、「結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をするほうがよい(39.9%)」が続いています。

性別にみると、女性は「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるほうがよい（48.9%)」が約５割、「結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をするほうがよい(37.8%)」が約４割となっています。男性は「結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をするほうがよい（43.1%)」と「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるほうがよい（42.8%)」が４割台と同程度となっています。



■性・年代別

性・年代別にみると、女性では、40歳代と80歳以上を除くすべての年代で「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるほうがよい」が最も多く、60歳代と70歳代で５割を超えて多くなっています。男性では、30歳代と50歳代で「結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるほうがよい」が５割台と多く、40歳代と80歳以上では「結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をするほうがよい」が５割台と多くなっています。



（２）一時期仕事をやめた女性が再就職を希望する際に役立つもの

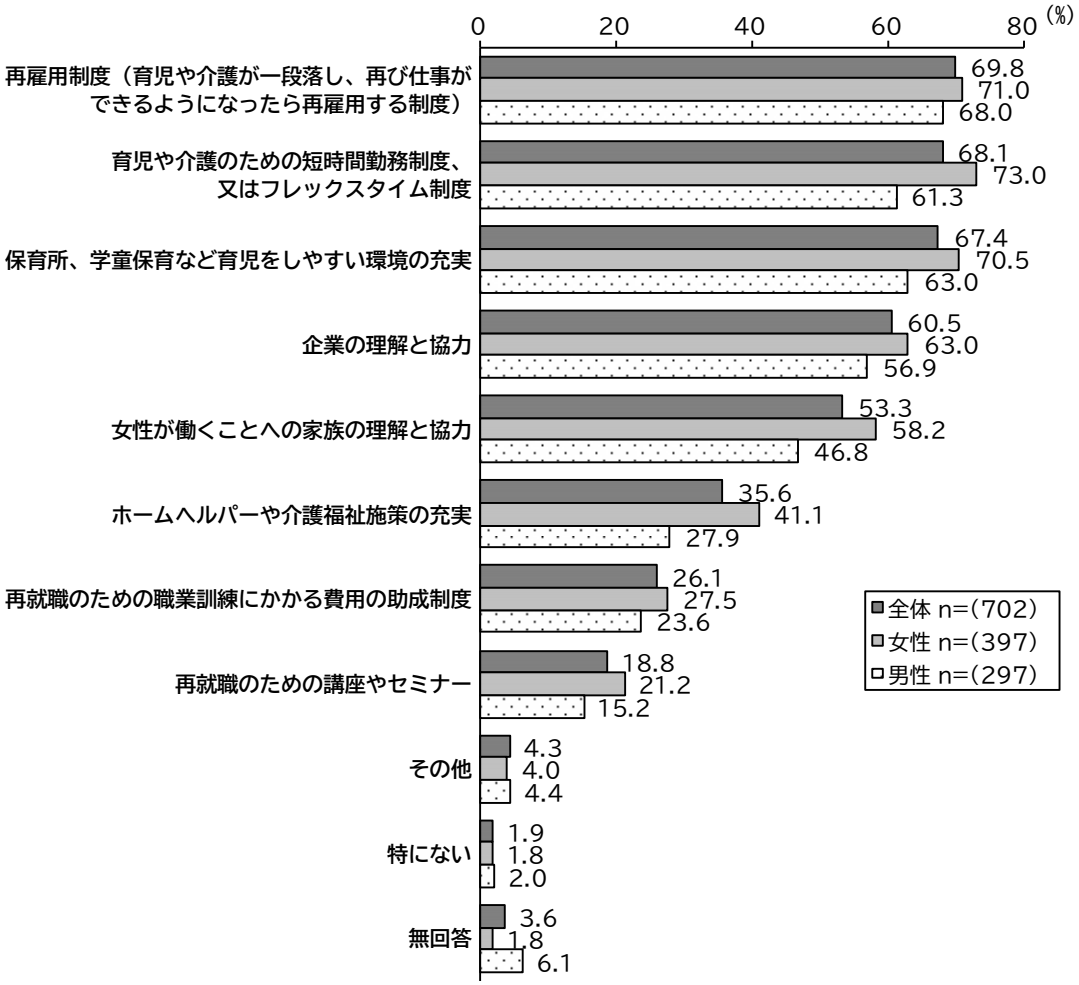
問16　家事、妊娠・出産、育児、介護などのために一時期仕事をやめた女性が再就職を希望する場合、役立つものは何だと思いますか。（いくつでも○）

○「再雇用制度（育児や介護が一段落し、再び仕事ができるようになったら再雇用する制度）」が最も多くなっている。

○女性の30歳代で「企業の理解と協力」と「女性が働くことへの家族の理解と協力」が多くなっている。

全体では、「再雇用制度（育児や介護が一段落し、再び仕事ができるようになったら再雇用する制度）(69.8%)」が最も多く、「育児や介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度(68.1%)」、「保育所、学童保育など育児をしやすい環境の充実(67.4%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに順位の入れ替わりはあるものの上位３項目は全体と同じですが、「育児や介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度(女性：73.0%、男性：61.3%)」は女性が男性を11.7ポイント上回っています。また、「女性が働くことへの家族の理解と協力(女性：58.2%、男性：46.8%)」と「ホームヘルパーや介護福祉施策の充実(女性：41.1%、男性：27.9%)」も女性が男性をそれぞれ11.4ポイント、13.2ポイント上回っています。



■性・年代別

性・年代別にみると、女性では、10・20歳代と40歳代で「育児や介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度」、30歳代で「保育所、学童保育など育児をしやすい環境の充実」が８割を超えて多くなっています。また、30歳代で「企業の理解と協力（73.9%）」、「女性が働くことへの家族の理解と協力（76.1%）」が７割台半ばと他の年代と比べて多くなっています。男性では、40歳代、50歳代、70歳代、80歳以上で「再雇用制度（育児や介護が一段落し、再び仕事ができるようになったら再雇用する制度）」が最も多くなっており、特に40歳代と50歳代で７割を超えています。30歳代で「育児や介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度（62.5%）」が最も多くなっていますが、40歳代から60歳代でも７割前後となっています。

（単位:%）

		回答者数（人）	再雇用制度（育児や介護が一段落し、再び仕事ができるようになったら再雇用する制度）	育児や介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度	保育所、学童保育など育児をしやすい環境の充実	企業の理解と協力	女性が働くことへの家族の理解と協力	ホームヘルパーや介護福祉施策の充実	再就職のための職業訓練にかかる費用の助成制度	再就職のための講座やセミナー	その他	特にない	無回答
全　体		702	69.8	68.1	67.4	60.5	53.3	35.6	26.1	18.8	4.3	1.9	3.6
性・年代別	女性	10・20歳代	36	72.2	86.1	77.8	61.1	52.8	41.7	16.7	22.2	－	2.8	－
		30歳代	46	73.9	78.3	80.4	73.9	76.1	39.1	32.6	21.7	6.5	－	－
		40歳代	61	67.2	82.0	70.5	59.0	50.8	41.0	26.2	11.5	4.9	－	－
		50歳代	79	68.4	79.7	62.0	69.6	59.5	45.6	31.6	21.5	5.1	2.5	－
		60歳代	66	78.8	75.8	74.2	65.2	65.2	43.9	33.3	27.3	1.5	1.5	1.5
		70歳代	63	79.4	68.3	74.6	63.5	61.9	41.3	28.6	27.0	4.8	－	1.6
		80歳以上	46	54.3	37.0	58.7	43.5	37.0	30.4	15.2	15.2	4.3	6.5	10.9
	男性	10・20歳代	17	70.6	64.7	70.6	70.6	76.5	47.1	41.2	23.5	5.9	－	－
		30歳代	32	56.3	62.5	53.1	56.3	37.5	12.5	12.5	6.3	6.3	－	3.1
		40歳代	45	75.6	71.1	66.7	55.6	44.4	33.3	31.1	22.2	6.7	2.2	2.2
		50歳代	52	71.2	67.3	65.4	53.8	48.1	32.7	17.3	13.5	3.8	3.8	5.8
		60歳代	60	68.3	70.0	73.3	65.0	56.7	25.0	23.3	11.7	8.3	3.3	1.7
		70歳代	56	67.9	50.0	62.5	48.2	42.9	28.6	26.8	23.2	－	1.8	8.9
		80歳以上	35	62.9	40.0	42.9	57.1	31.4	22.9	20.0	5.7	－	－	20.0

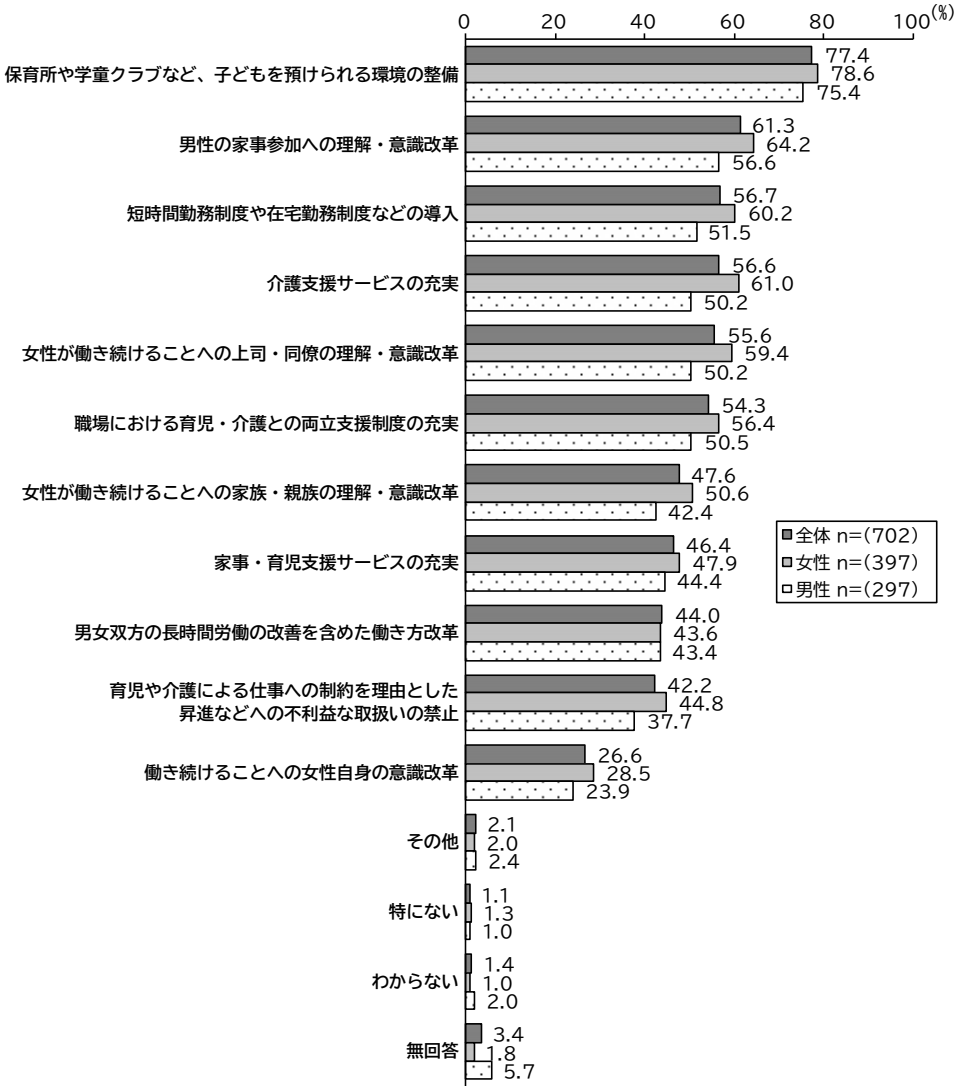
（３）女性が離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なこと

問17　あなたは、女性が妊娠・出産、育児、介護などを理由に離職せずに同じ職場で働き続けるために家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。（いくつでも○）

○「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も多くなっている。
○「介護支援サービスの充実」は女性が男性を10ポイント以上上回っている。

全体では、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備(77.4%)」が最も多く、「男性の家事参加への理解・意識改革(61.3%)」、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入(56.7%)」が続いています。

性別にみると、女性、男性ともに上位２位は全体と同じですが、女性では「介護支援サービスの充実(61.0%)」が３番目に多く、男性（50.2%）を10.8ポイント上回っています。また、「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入(女性：60.2%、男性：51.5%)」と「女性が働き続けることへの上司・同僚の理解・意識改革(女性：59.4%、男性：50.2%)」も女性が男性をそれぞれ8.7ポイント、9.2ポイント上回っています。



■性・年代別

性・年代別にみると、女性では、40歳代を除くすべての年代で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も多くなっており、特に70歳代で９割を超えています。30歳代で「男性の家事参加への理解・意識改革」、30歳代と40歳代で「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」も７割を超えて多くなっています。また、70歳代で「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が73.0％と多く、全体を18.7ポイント上回っています。男性では、すべての年代で「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が最も多くなっています。30歳代で「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」が、60歳代で「女性が働き続けることへの上司・同僚の理解・意識改革」が他の年代と比べて多くなっています。

（単位:％）

		回答者数（人）	保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備	男性の家事参加への理解・意識改革	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	介護支援サービスの充実	女性が働き続けることへの上司・同僚の理解・意識改革	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	女性が働き続けることへの家族・親族の理解・意識改革	家事・育児支援サービスの充実	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	働き続けることへの女性自身の意識改革	その他	特にない	わからない	無回答
全　体		702	77.4	61.3	56.7	56.6	55.6	54.3	47.6	46.4	44.0	42.2	26.6	2.1	1.1	1.4	3.4
性・年代別	女性	10・20歳代	36	88.9	69.4	66.7	61.1	61.1	47.2	38.9	55.6	50.0	50.0	33.3	－	2.8	－	－
		30歳代	46	82.6	76.1	76.1	50.0	63.0	58.7	58.7	54.3	58.7	56.5	15.2	4.3	－	－	－
		40歳代	61	68.9	63.9	70.5	57.4	55.7	50.8	42.6	54.1	49.2	49.2	27.9	3.3	－	－	－
		50歳代	79	77.2	68.4	67.1	69.6	62.0	51.9	51.9	44.3	41.8	39.2	20.3	2.5	2.5	－	－
		60歳代	66	77.3	65.2	53.0	63.6	65.2	62.1	54.5	47.0	39.4	48.5	31.8	1.5	3.0	1.5	－
		70歳代	63	93.7	68.3	52.4	68.3	63.5	73.0	60.3	47.6	47.6	44.4	42.9	－	－	1.6	1.6
		80歳以上	46	63.0	34.8	34.8	47.8	41.3	45.7	41.3	34.8	19.6	28.3	28.3	2.2	－	4.3	13.0
	男性	10・20歳代	17	76.5	70.6	64.7	47.1	58.8	82.4	41.2	70.6	70.6	52.9	35.3	5.9	－	－	－
		30歳代	32	71.9	53.1	68.8	25.0	40.6	25.0	43.8	34.4	50.0	37.5	34.4	6.3	－	3.1	3.1
		40歳代	45	82.2	71.1	57.8	53.3	44.4	51.1	40.0	51.1	42.2	37.8	33.3	2.2	－	2.2	2.2
		50歳代	52	80.8	63.5	50.0	57.7	44.2	50.0	34.6	46.2	42.3	40.4	23.1	－	1.9	1.9	5.8
		60歳代	60	80.0	63.3	55.0	58.3	66.7	58.3	51.7	45.0	50.0	43.3	16.7	5.0	3.3	－	1.7
		70歳代	56	71.4	42.9	42.9	50.0	46.4	46.4	44.6	44.6	39.3	32.1	19.6	－	－	5.4	8.9
		80歳以上	35	60.0	34.3	31.4	45.7	48.6	51.4	37.1	28.6	22.9	25.7	17.1	－	－	－	17.1

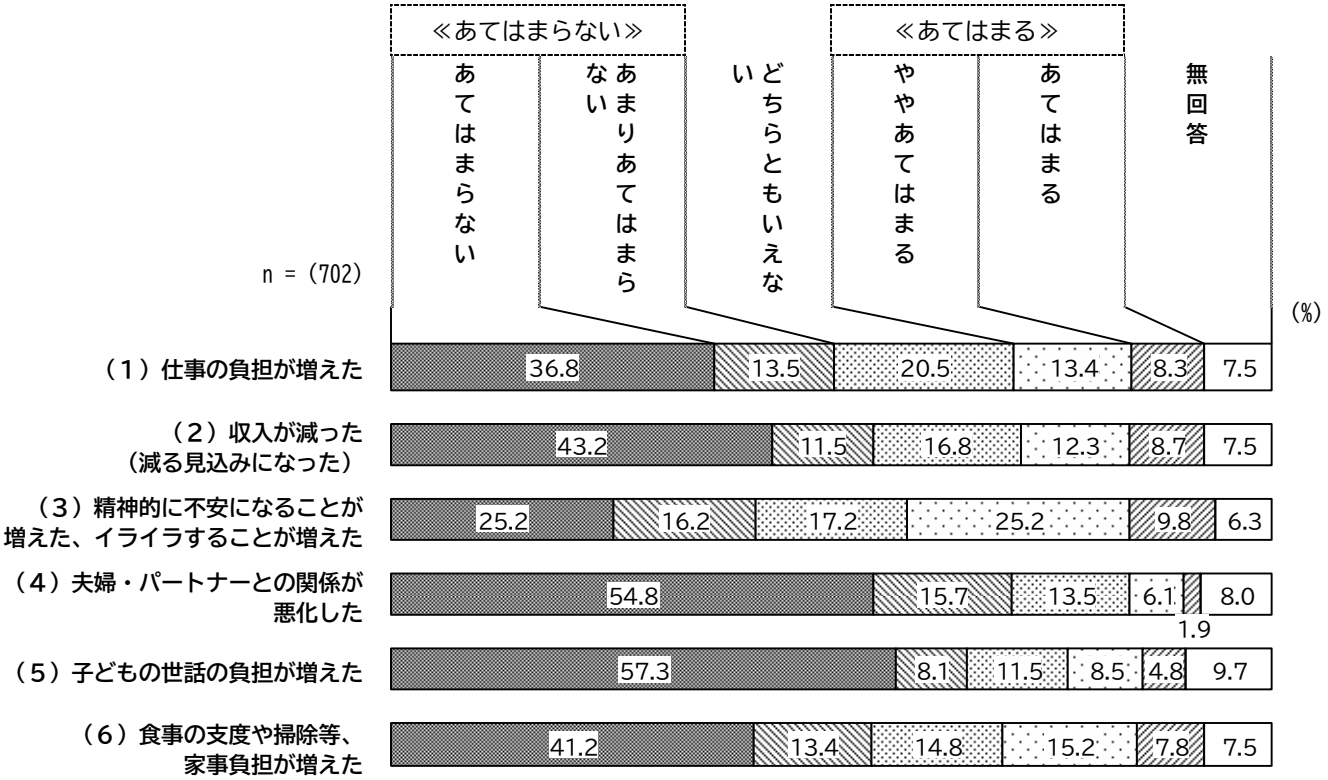
６．コロナ下での行動変化について

（１）コロナによる生活や行動の変化

問18　新型コロナウイルス感染症拡大により、生活や行動に次のような変化がありましたか。
（それぞれについて、１つに○）

○『精神的に不安になることが増えた、イライラすることが増えた』で≪あてはまる≫が３割台を占めており、『仕事の負担が増えた』『収入が減った』『食事の支度や掃除等、家事負担が増えた』が２割台となっている。
○『食事の支度や掃除等、家事負担が増えた』で女性が男性を大幅に上回る。

全体では、≪あてはまる≫（「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計）が『精神的に不安になることが増えた、イライラすることが増えた(35.0%)』で３割台と多くなっています。一方、≪あてはまらない≫（「あてはまらない」と「ややあてはまらない」の合計）が『夫婦・パートナーとの関係が悪化した（70.5%)』で７割台となっており、６つの変化の中では『精神的に不安になることが増えた、イライラすることが増えた(41.4%)』以外はいずれも５割を超えています。

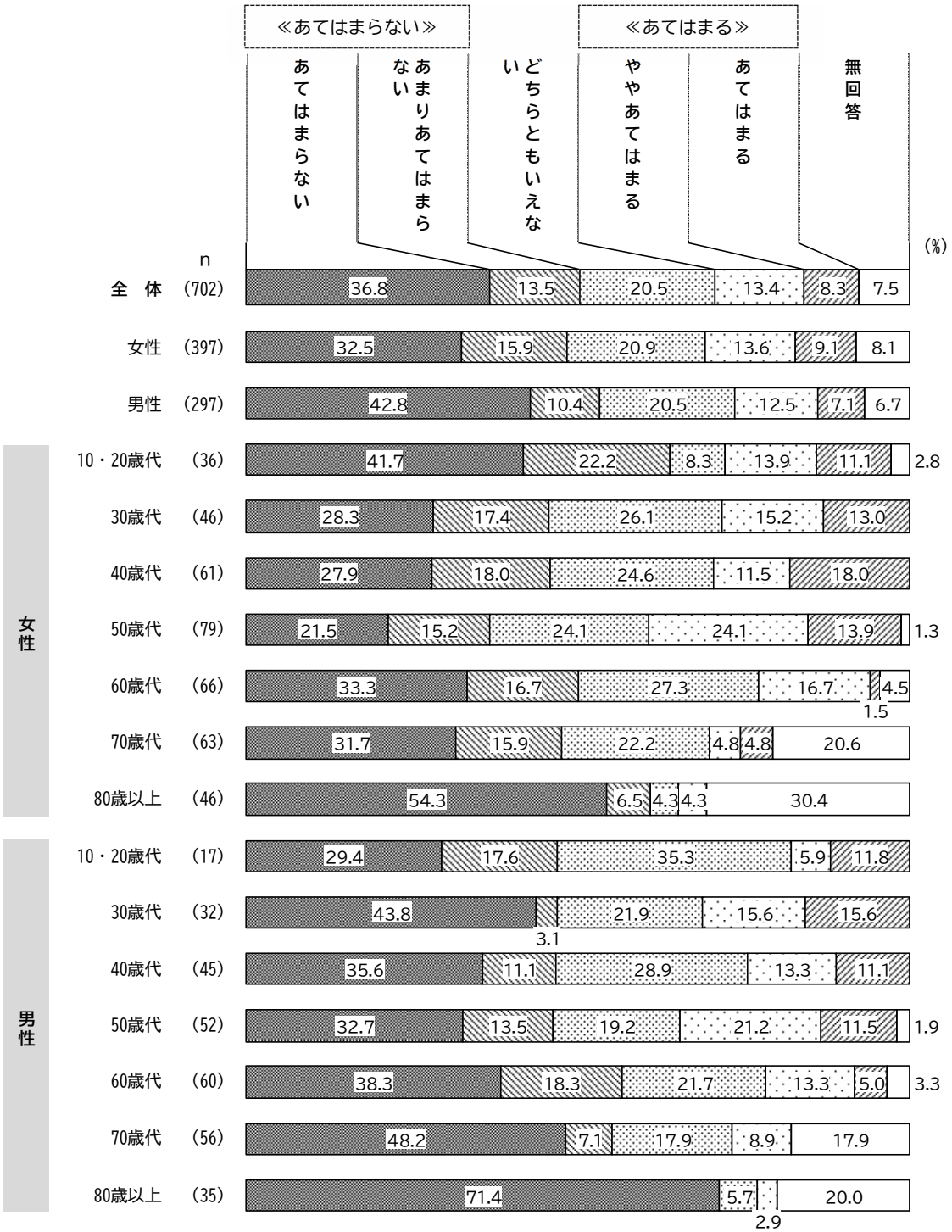


■性別、性・年代別

（１）仕事の負担が増えた

性別にみると、男女ともに≪あてはまらない(女性：48.4%、男性：53.2%)≫が最も多くなっており、男性が女性を4.8ポイント上回っています。一方で、≪あてはまる≫が女性は22.7%、男性は19.6%となっており、女性が男性を3.1ポイント上回っています。

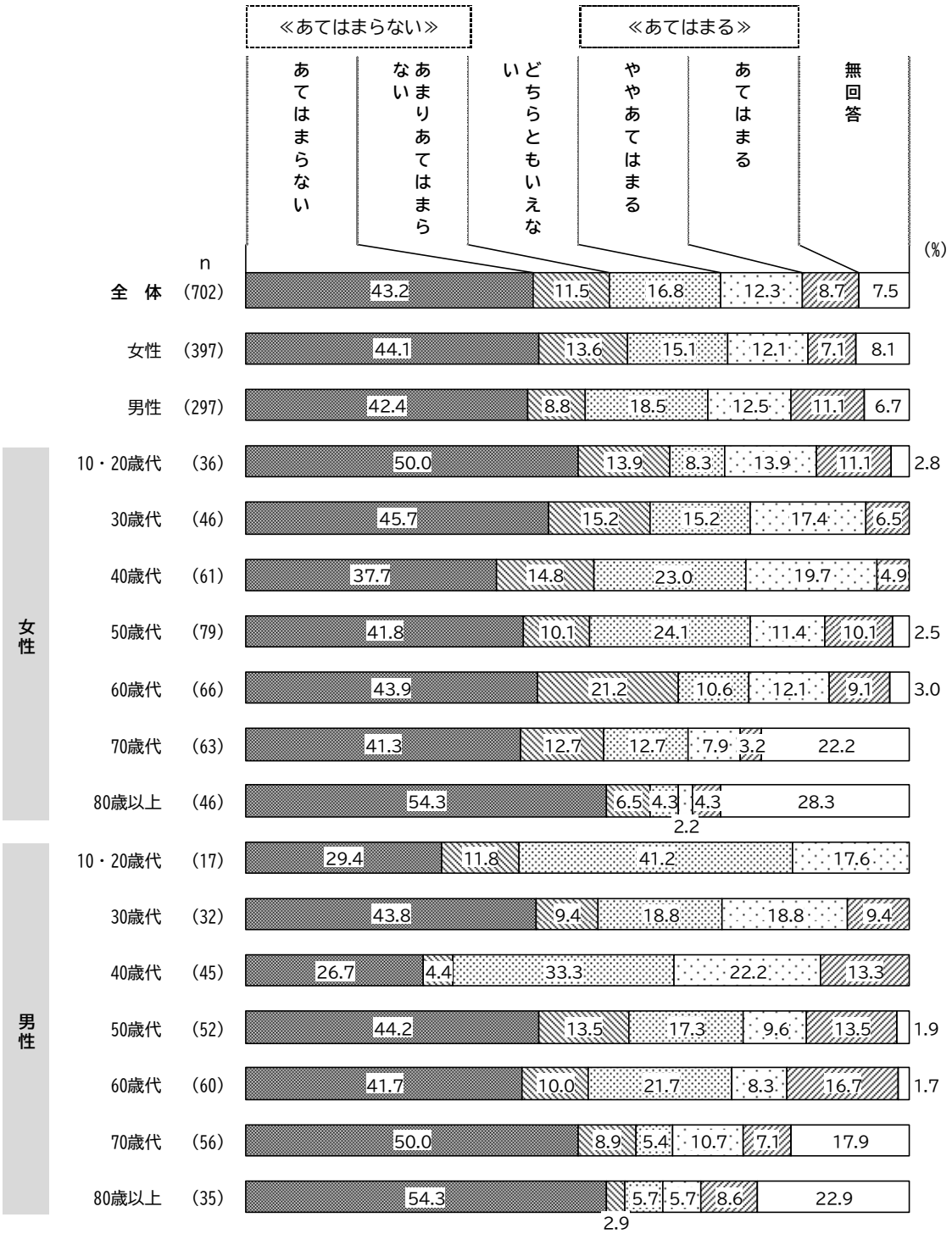
性・年代別にみると、男女ともに50歳代で≪あてはまる≫が３割台となっており、全体より10から15ポイント程度上回っています。男性では、30歳代でも≪あてはまる≫が31.2%と３割台となっています。



（２）収入が減った（減る見込みになった）

性別にみると、男女ともに≪あてはまらない(女性：57.7%、男性：51.2%)≫が５割台となっており、女性が男性を6.5ポイント上回っています。一方で、≪あてはまる≫が女性は19.2%、男性は23.6%となっており、男性が女性を4.4ポイント上回っています。

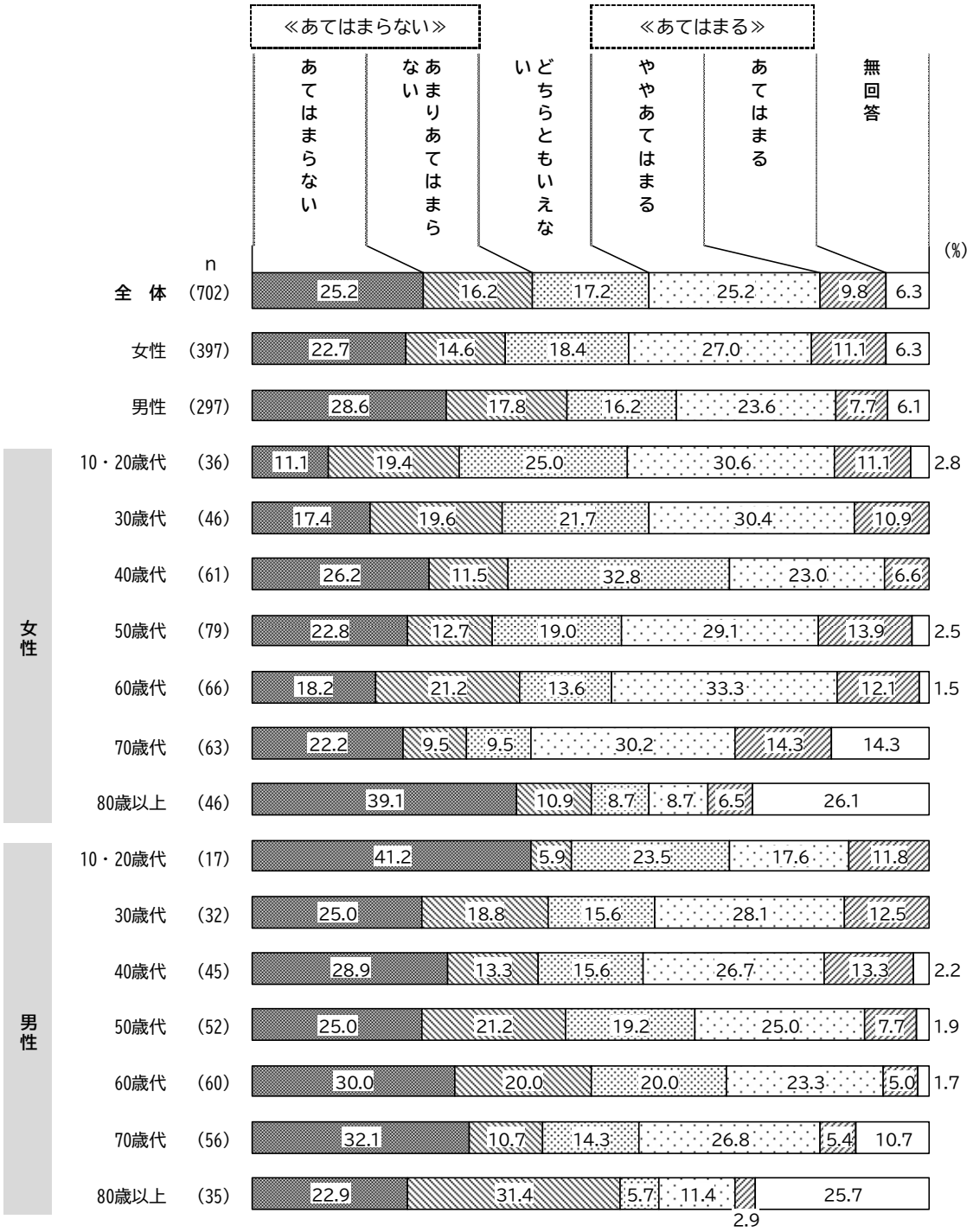
性・年代別にみると、≪あてはまる≫が男性の40歳代で35.5%となっており、全体より14.5ポイント上回っています。≪あてはまらない≫が女性の60歳代で65.1%となっており、全体より10.4ポイント上回っています。



（３）精神的に不安になることが増えた、イライラすることが増えた

性別にみると、男女ともに≪あてはまる(女性：38.1%、男性：31.3%)≫が３割台となっており、女性が男性を6.8ポイント上回っています。≪あてはまらない≫が女性は37.3%、男性は46.4%となっており、男性が女性を9.1ポイント上回っています。

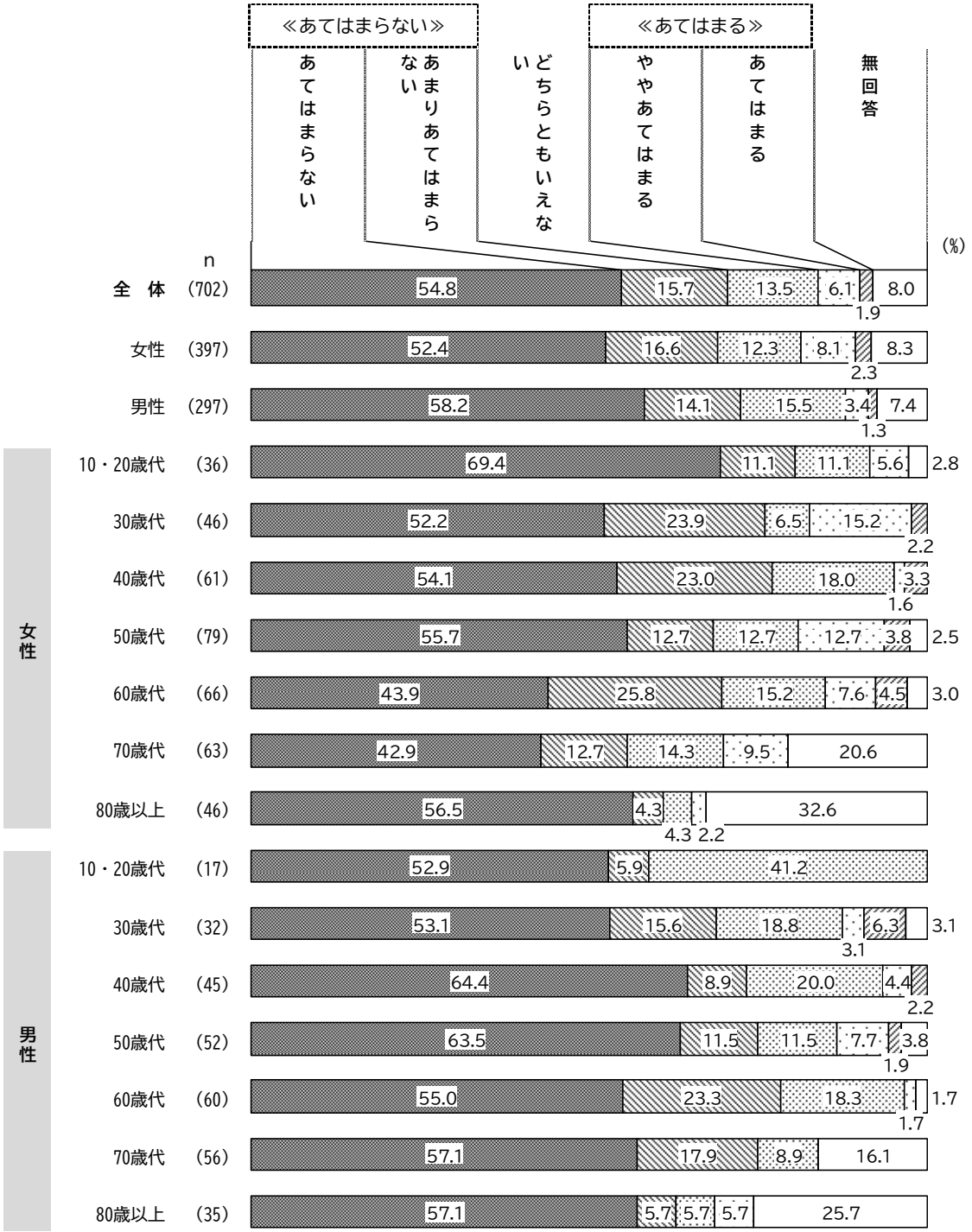
性・年代別にみると、女性は40歳代と80歳以上を除くすべての年代で≪あてはまる≫が４割台となっています。男性では、30歳代と40歳代で≪あてはまる≫が４割台となっています。



（４）夫婦・パートナーとの関係が悪化した

性別にみると、男女ともに≪あてはまらない(女性：69.0%、男性：72.3%)≫が最も多くなっており、男性が女性を3.3ポイント上回っています。一方で、≪あてはまる≫が女性は10.4%、男性は4.7%となっており、女性が男性を5.7ポイント上回っています。

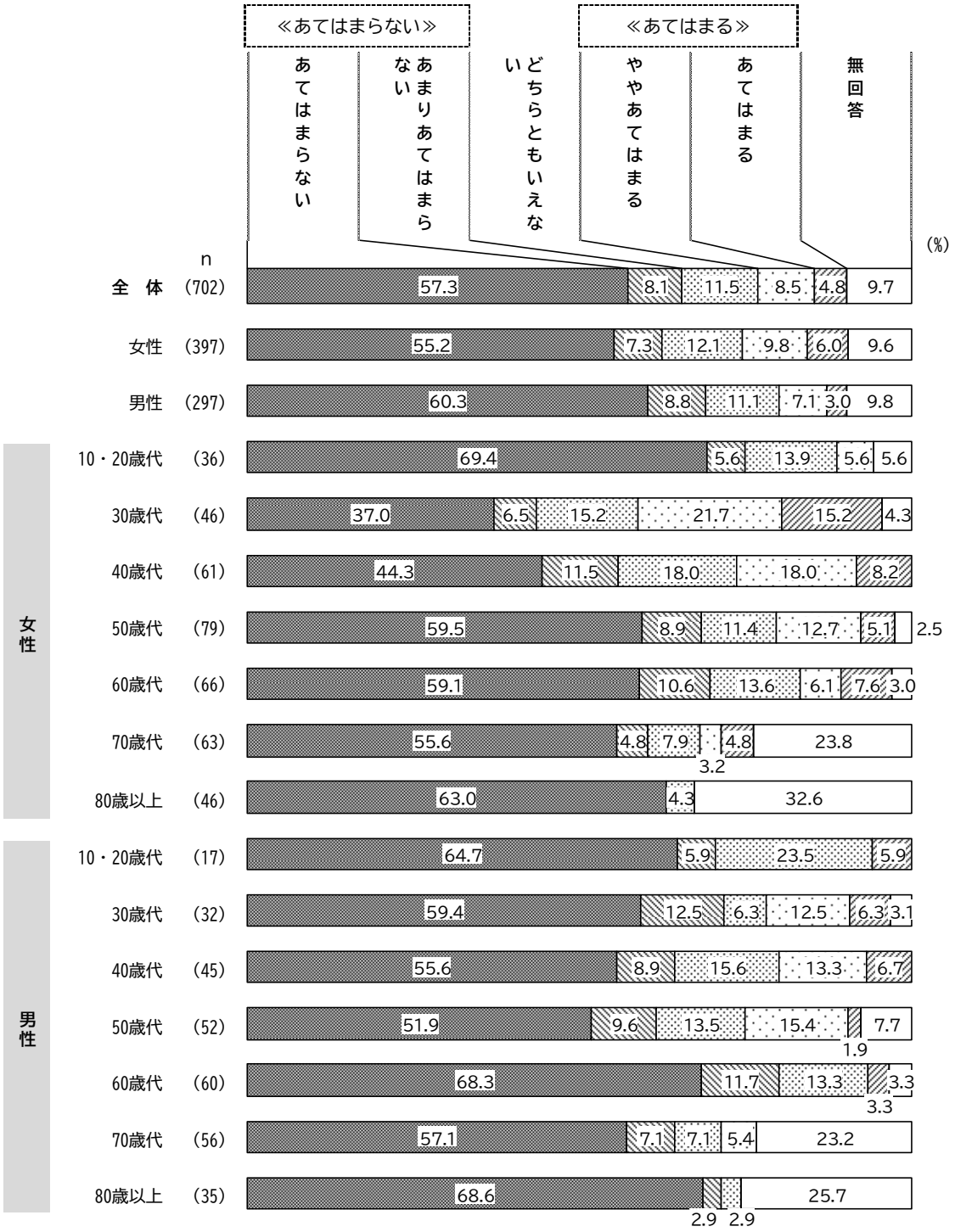
性・年代別にみると、女性では、30歳代、50歳代、60歳代で≪あてはまる≫が１割台となっており、全体より５から10ポイント程度上回っています。男性では、30歳代と50歳代で≪あてはまる≫が約１割となっています。



（５）子どもの世話の負担が増えた

性別にみると、男女ともに≪あてはまらない(女性62.5%、男性：69.1%)≫が６割台となっており、男性が女性を6.6ポイント上回っています。一方で、≪あてはまる≫が女性は15.8%、男性は10.1%となっており、女性が男性を5.7ポイント上回っています。

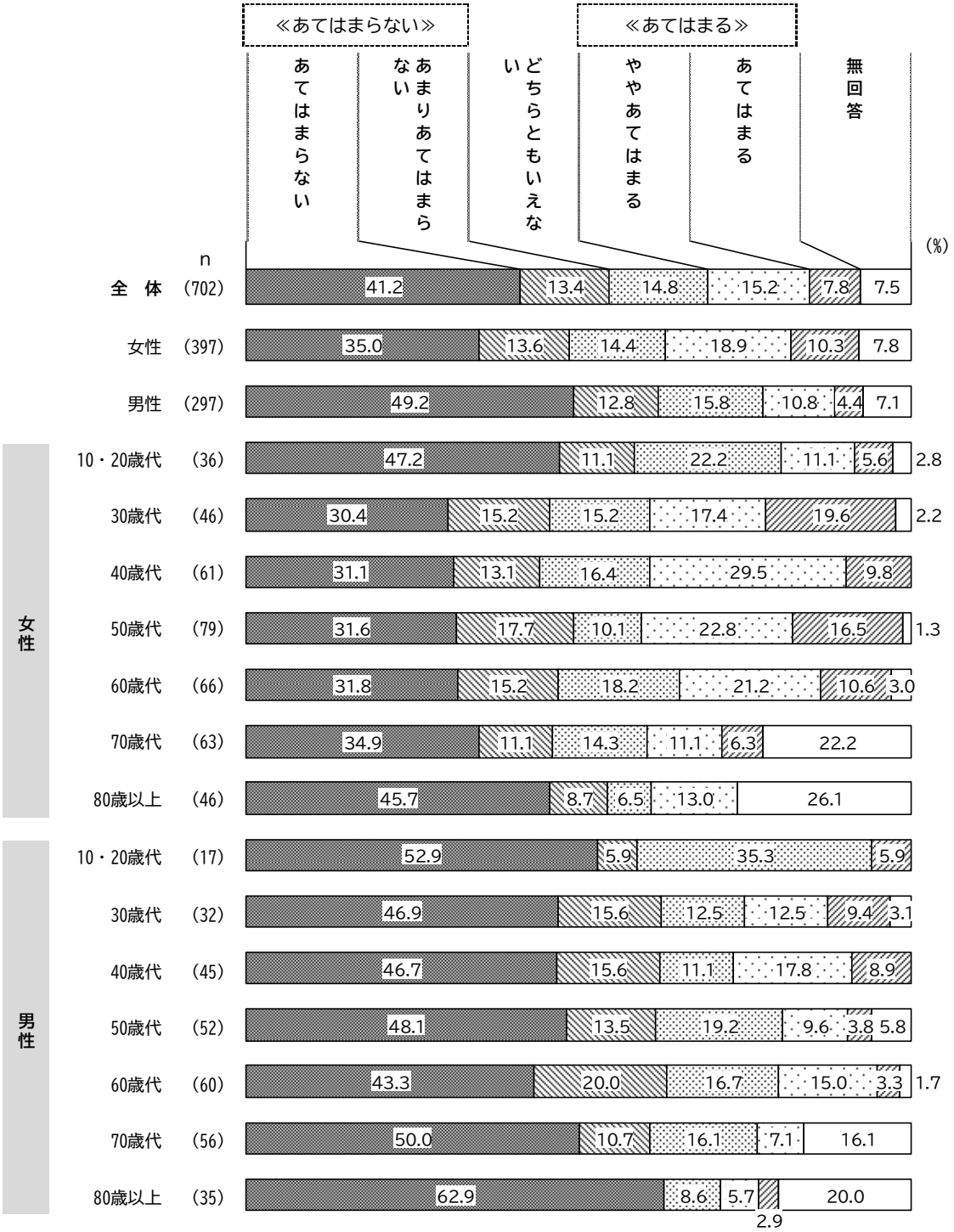
性・年代別にみると、女性は30歳代から40歳代、男性は30歳代から50歳代で≪あてはまる≫が多く、特に女性の30歳代で36.9%と全体より23.6ポイント上回っています。



（６）食事の支度や掃除等、家事負担が増えた

性別にみると、男女ともに≪あてはまらない(女性：48.6%、男性：62.0%)≫が最も多くなっており、男性が女性を13.4ポイント上回っています。一方で、≪あてはまる≫が女性は29.2%、男性は15.2%となっており、女性が男性を14.0ポイント上回っています。

性・年代別にみると、女性では、30歳代から60歳代で≪あてはまる≫が３割台と多くなっています。男性では、30歳代、40歳代で≪あてはまる≫が２割台と他の年代と比べて多くなっています。



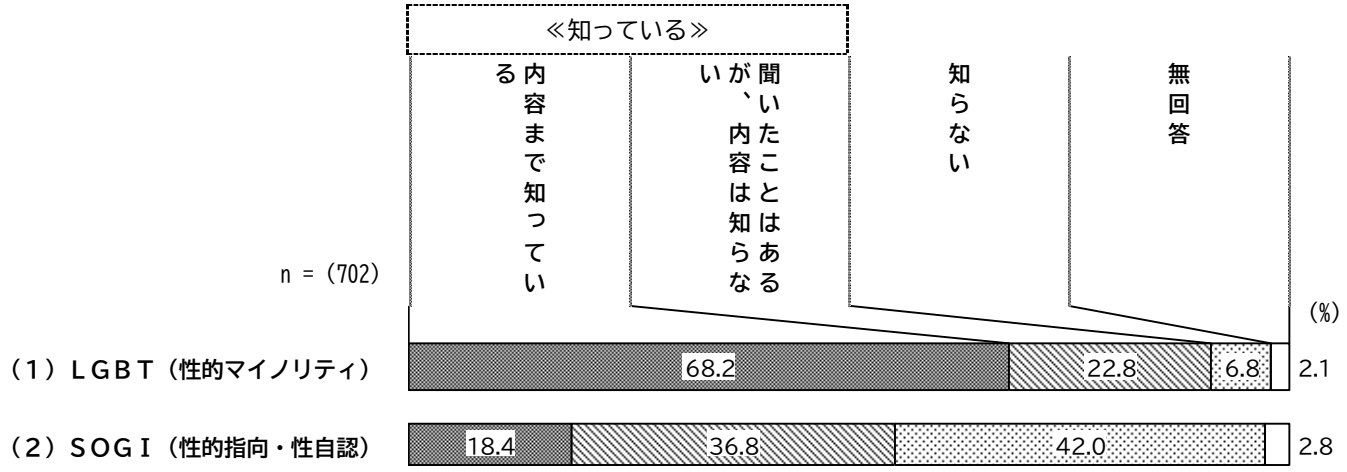
７．性の多様性について

（１）性の多様性に関する言葉の認知度

問19　次の言葉について知っていますか。（それぞれについて、１つに○）

○≪知っている≫は『ＬＧＢＴ（性的マイノリティ）』が９割台、『ＳＯＧＩ（性的指向・性自認）』が５割台と共に過半数を占めている。
○『ＳＯＧＩ（性的指向・性自認）』を「知らない」が４割台を占めている。

全体では、≪知っている≫（「内容まで知っている」と「聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計）が『ＬＧＢＴ（性的マイノリティ）（91.0％）』で９割台と多く、「内容まで知っている」も68.2％となっています。『ＳＯＧＩ（性的指向・性自認）』は、≪知っている≫が55.2％ですが、「内容まで知っている」が18.4％にとどまっています。また、「知らない」が42.0％となっています。

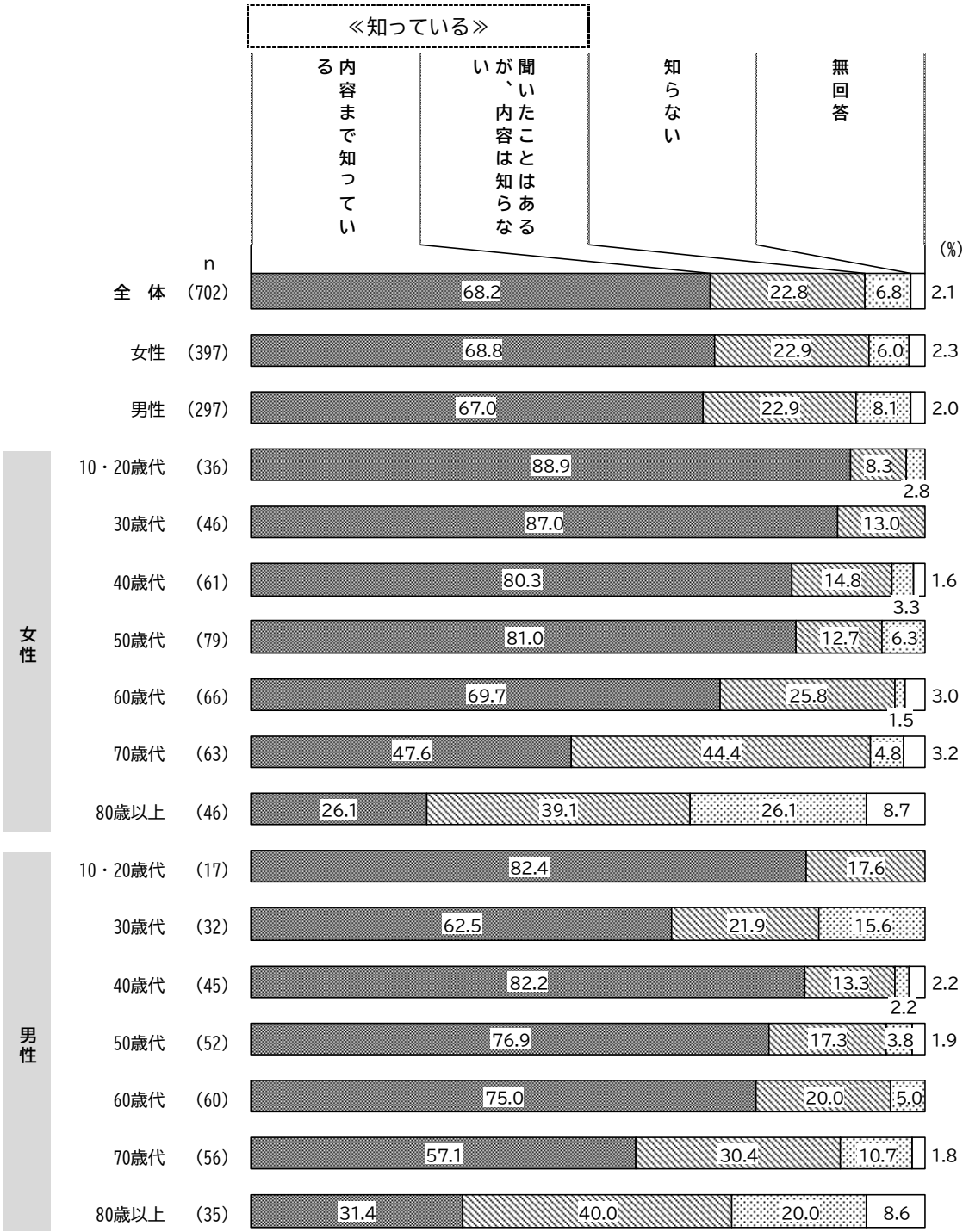


■性別、性・年代別

（１）ＬＧＢＴ（性的マイノリティ）

性別にみると、男女ともに≪知っている(女性：91.7%、男性：89.9%)≫が最も多くなっています。

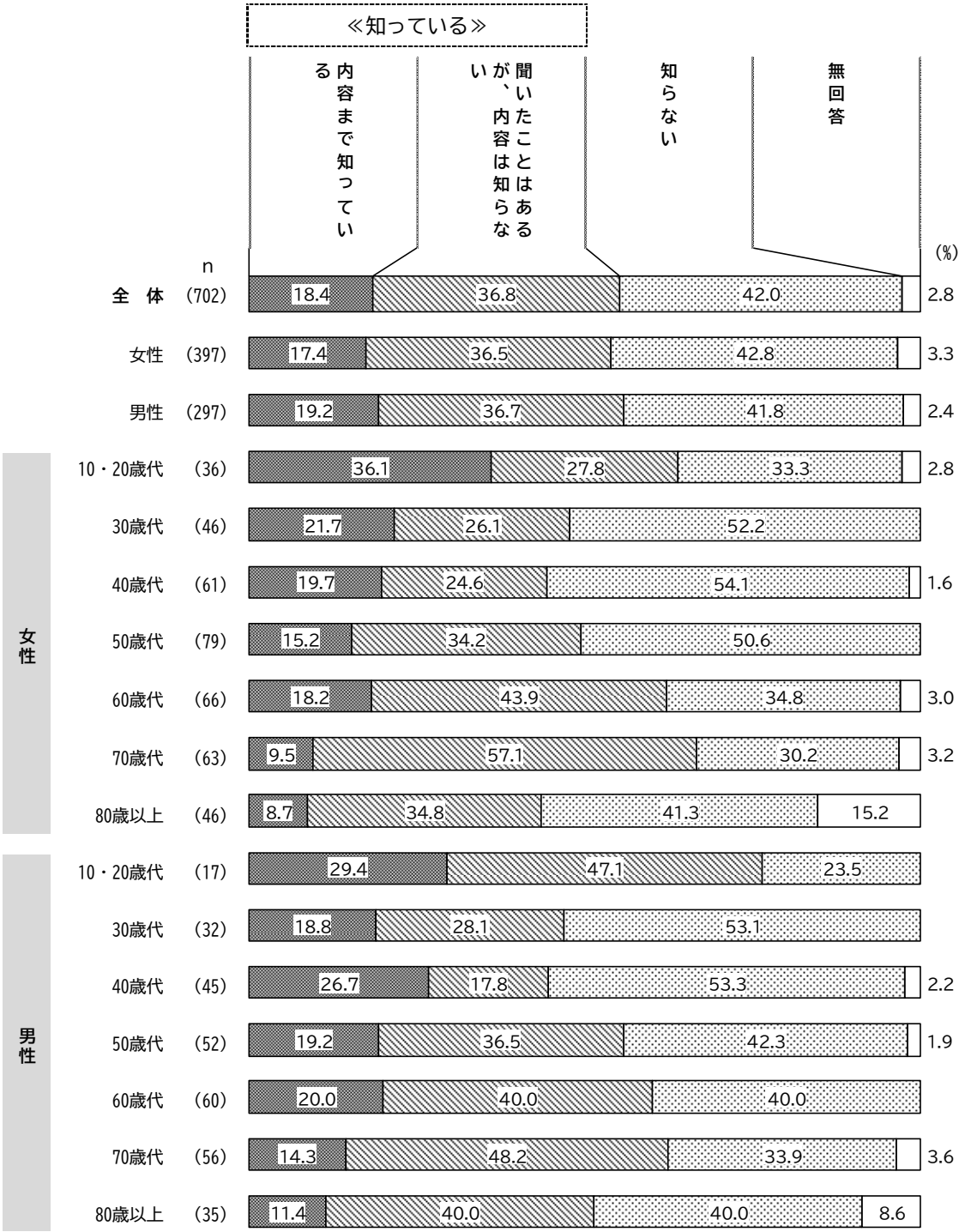
性・年代別にみると、男女ともに80歳以上を除くすべての年代で≪知っている≫が８割を超えており、女性の10・20歳代から50歳代では「内容まで知っている」が８割台となっています。男女ともに80歳以上で「知らない」が２割台となっており、全体より20ポイント程度上回っています。



（２）ＳＯＧＩ（性的指向・性自認）

性別にみると、男女ともに≪知っている(女性：53.9%、男性：55.9%)≫が５割台となっています。

性・年代別にみると、女性の10・20歳代、男女の60歳代と70歳代で≪知っている≫が６割を超えています。女性の50歳代、男女の30歳代と40歳代で「知らない」が５割台となっており、全体より10ポイント程度上回っています。「内容まで知っている」は女性の10・20歳代で36.1%と最も多く、女性の30歳代、男性の40歳代、60歳代でも２割台となっています。



（２）性の多様性への取り組みについての考え

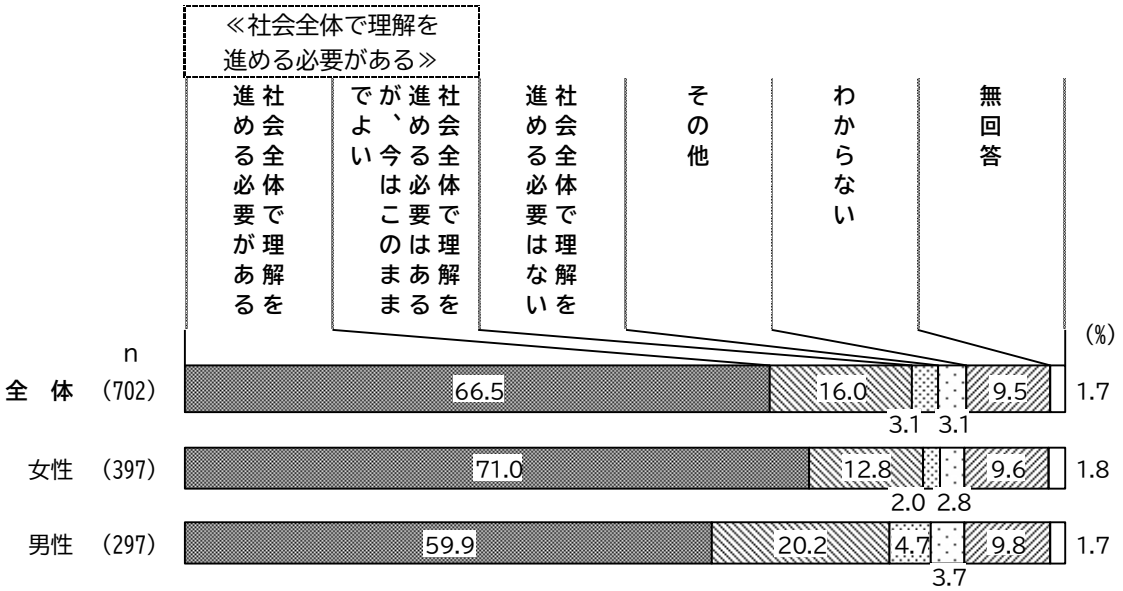
問20　西東京市では、性自認や性的指向の多様なあり方、性別にとらわれない多様な生き方を認める人権尊重の意識づくりを進めています。あなたは、性の多様性について、どのようにお考えですか。（１つに○）

○≪社会全体で理解を進める必要がある≫が「社会全体で理解を進める必要はない」を大幅に上回っている。

○「社会全体で理解を進める必要はあるが、今はこのままでよい」は男性が女性を上回っている。

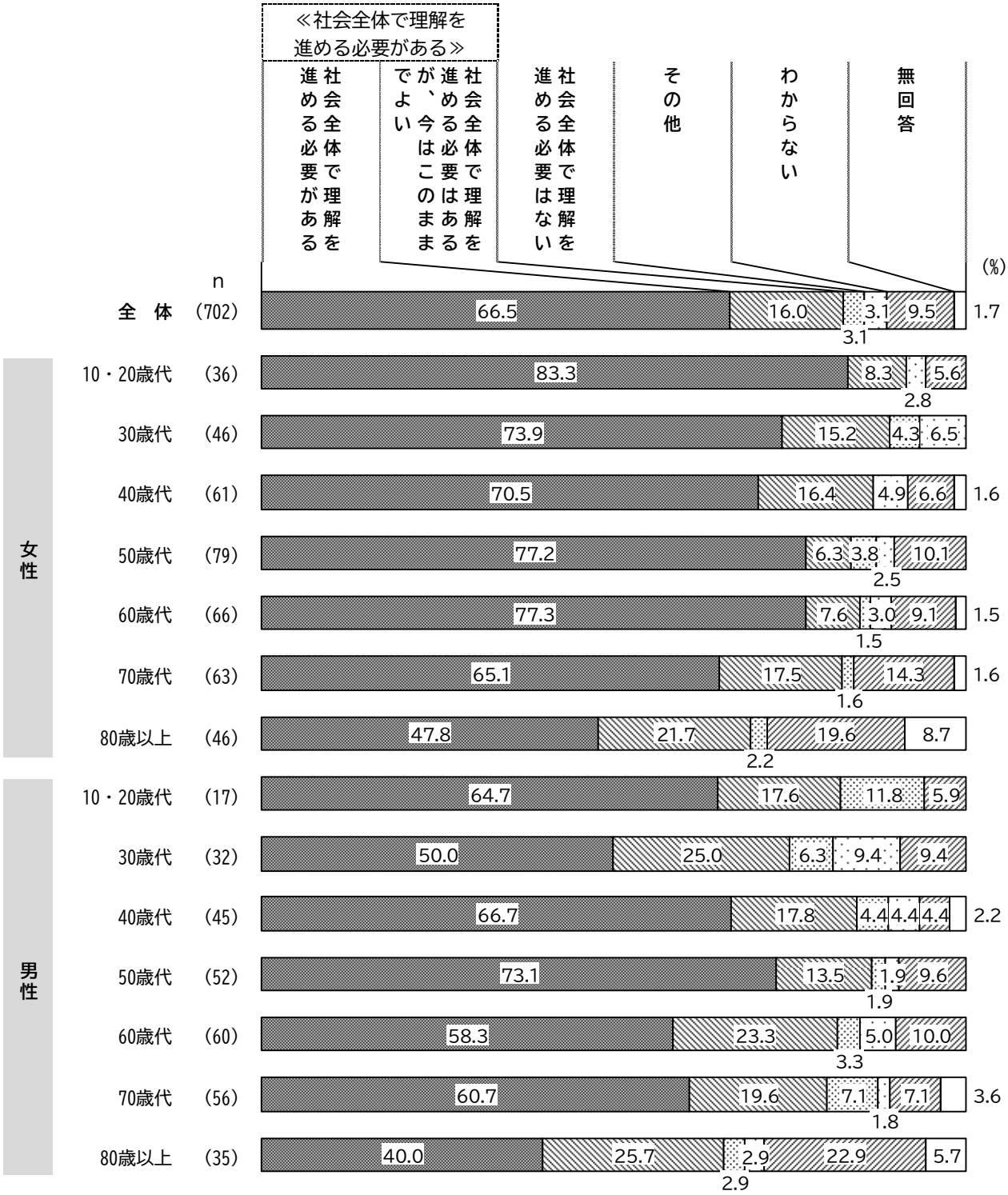
全体では、≪社会全体で理解を進める必要がある(82.5%)≫（「社会全体で理解を進める必要がある」と「社会全体で理解を進める必要はあるが、今はこのままでよい」の合計）が「社会全体で理解を進める必要はない(3.1%)」を79.4ポイントと大幅に上回っています。

性別にみると、男女ともに≪社会全体で理解を進める必要がある(女性：83.8%、男性：80.1%)≫が８割台となっていますが、一方で、「社会全体で理解を進める必要はあるが、今はこのままでよい」が女性は12.8%、男性は20.2%となっており、男性が女性を7.4ポイント上回っています。



■性・年代別

性・年代別にみると、女性では、80歳以上を除くすべての年代で≪社会全体で理解を進める必要がある≫が８割を超えており、特に10・20歳代で91.6％と最も多くなっています。男性では、40歳代から70歳代で≪社会全体で理解を進める必要がある≫が８割を超えています。一方で、「社会全体で理解を進める必要はあるが、今はこのままでよい」は男女ともに80歳以上と男性の30歳代、60歳代で２割台となっています。



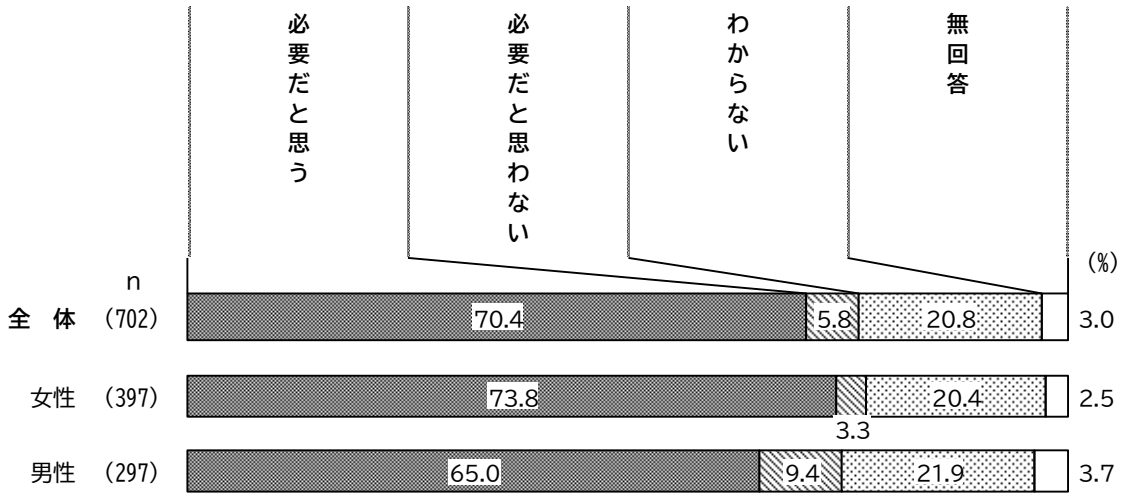
（３）性的マイノリティへの取り組みについての考え方

問21　近年、性的マイノリティへの対応が求められており、取り組みが進められている自治体もみられます。あなたは、このような動きがあることについて、どう思いますか。
（１つに○）

○「必要だと思う」が「必要だと思わない」を大幅に上回っている。
○「必要だと思わない」は男性が女性を上回っている。

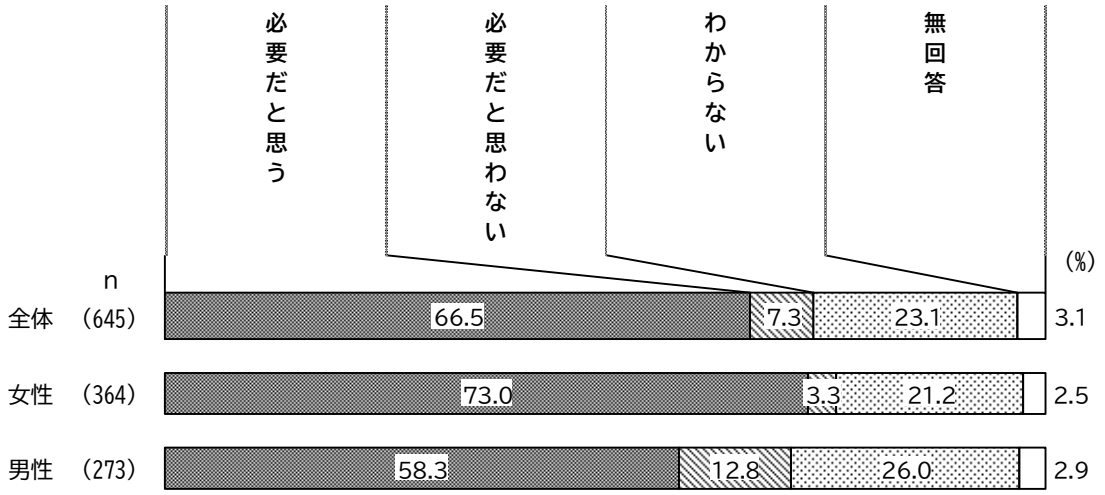
全体では、「必要だと思う(70.4%)」が「必要だと思わない(5.8%)」を64.6ポイントと大幅に上回っています。

性別にみると、男女ともに「必要だと思わない(女性：3.3%、男性：9.4%)」が１割未満となっており、男性が女性を6.1ポイント上回っています。



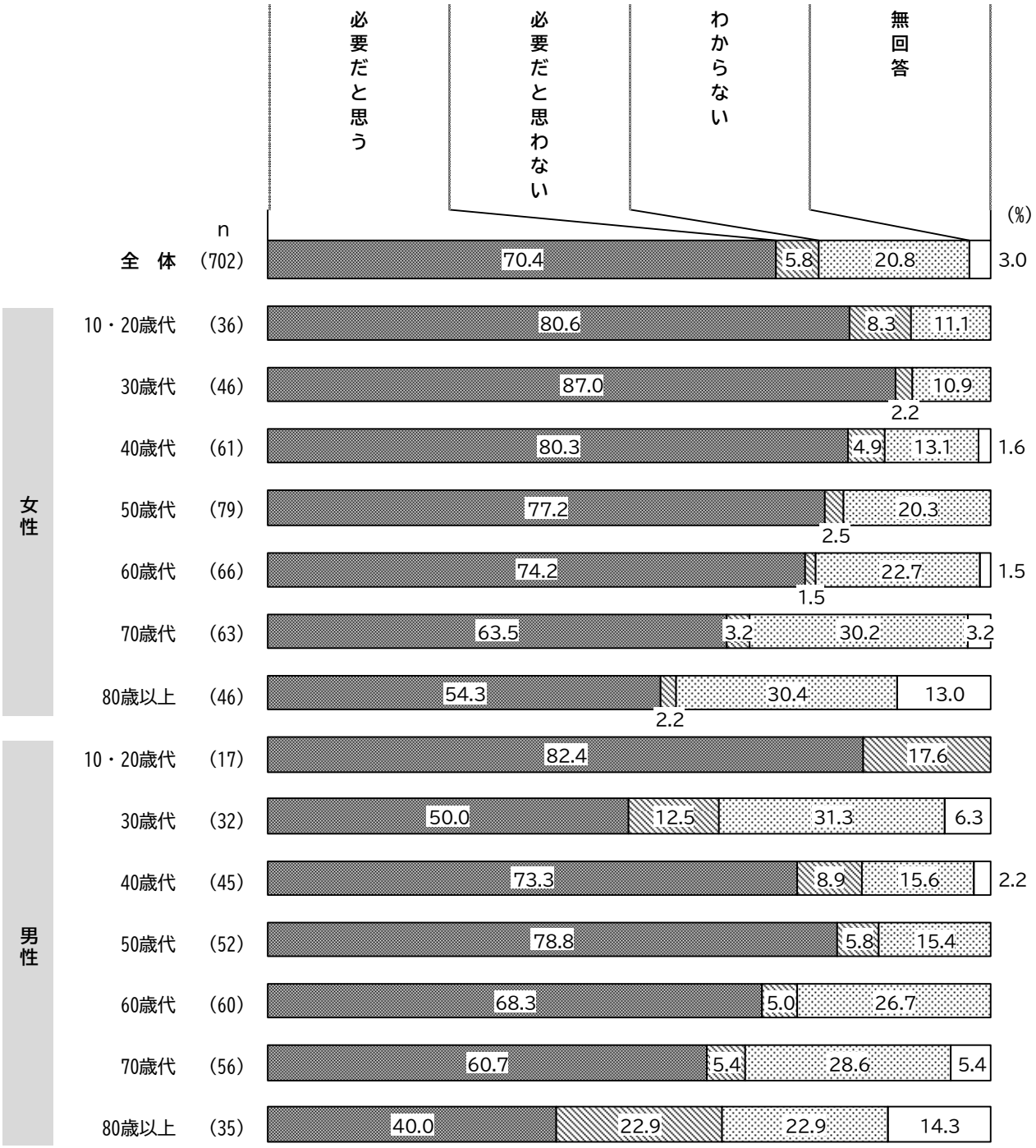
■前回調査との比較

前回調査と比較すると、「必要だと思う」が今回調査は70.4%、前回調査は66.5%となっており、前回調査から3.9ポイント増加しています。



■性・年代別

性・年代別にみると、女性では、10・20歳代から40歳代で「必要だと思う」が８割を超えています。男性では、40歳代と50歳代で「必要だと思う」が７割を超えています。男性の80歳以上で「必要だと思わない（22.9%）」が２割台となっています。



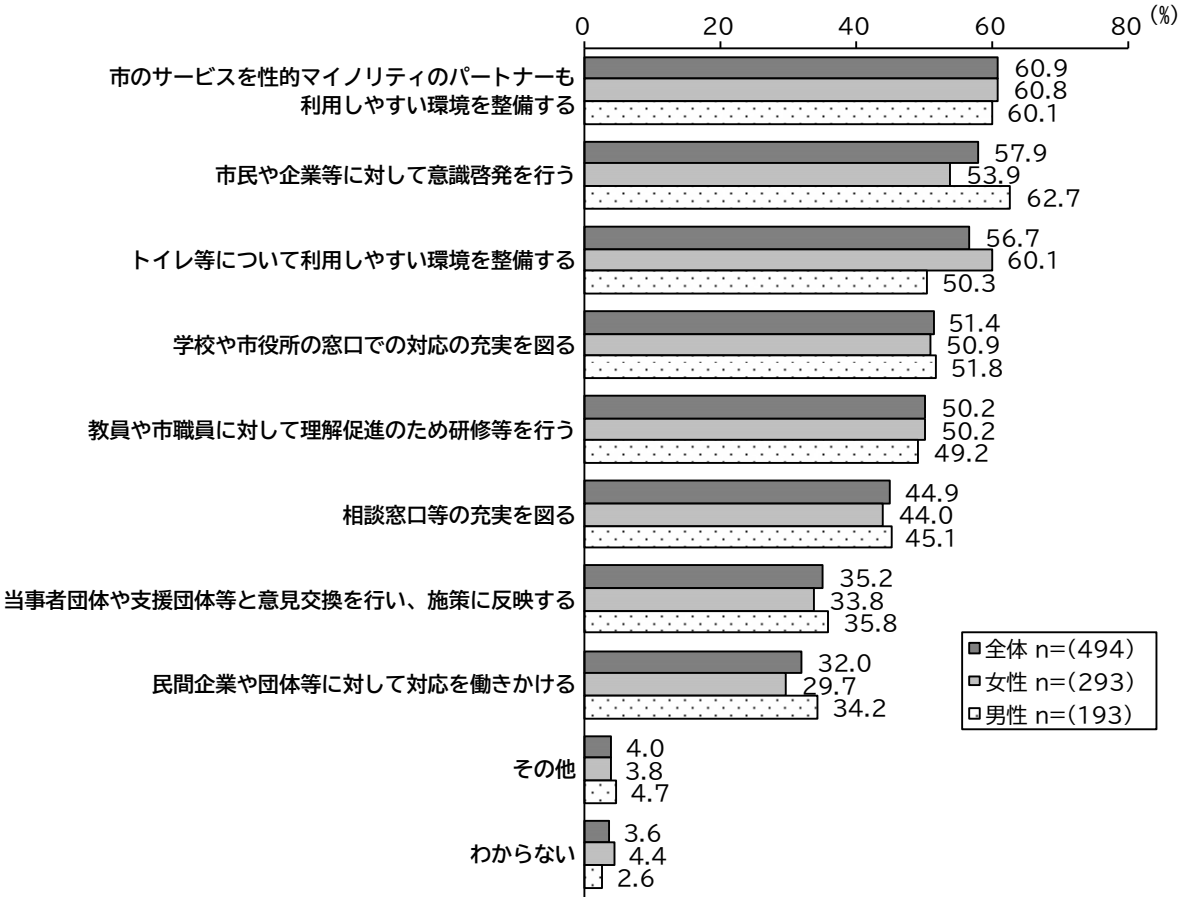
（４）性的マイノリティの人が生活しやすくなるために必要な対策

【問21で「必要だと思う」と答えた方におたずねします。】
問21-１　性的マイノリティの人が生活しやすくなるために、あなたは、自治体の取り組みとしてどのような対策が必要だと思いますか。（いくつでも○）

○「市のサービスを性的マイノリティのパートナーも利用しやすい環境を整備する」が全体で最も多くなっている。
○「トイレ等について利用しやすい環境を整備する」は女性が男性を、「市民や企業等に対して意識啓発を行う」は男性が女性を上回っている。

全体では、「市のサービスを性的マイノリティのパートナーも利用しやすい環境を整備する(60.9%)」が最も多く、「市民や企業等に対して意識啓発を行う(57.9%)」、「トイレ等について利用しやすい環境を整備する(56.7%)」が続いています。

性別にみると、女性では「市のサービスを性的マイノリティのパートナーも利用しやすい環境を整備する」が60.8%と最も多く、次いで、「トイレ等について利用しやすい環境を整備する(60.1%)」、「市民や企業等に対して意識啓発を行う(53.9%)」となっており、「トイレ等について利用しやすい環境を整備する」は女性が男性（50.3%）を9.8ポイント上回っています。男性では「市民や企業等に対して意識啓発を行う」が62.7%と最も多く、次いで、「市のサービスを性的マイノリティのパートナーも利用しやすい環境を整備する(60.1%)」、「学校や市役所の窓口での対応の充実を図る(51.8%)」となっています。



■性・年代別

性・年代別にみると、女性では、50歳代で「市のサービスを性的マイノリティのパートナーも利用しやすい環境を整備する」、70歳代で「市民や企業等に対して意識啓発を行う」が７割台と多くなっています。

男性では、40歳代と50歳代で「市のサービスを性的マイノリティのパートナーも利用しやすい環境を整備する」が６割台と最も多くなっています。60歳代と70歳代では「市民や企業等に対して意識啓発を行う」が７割台と多くなっています。

（単位:％）

			回答者数（人）	市のサービスを性的マイノリティのパートナーも利用しやすい環境を整備する	市民や企業等に対して意識啓発を行う	トイレ等について利用しやすい環境を整備する	学校や市役所の窓口での対応の充実を図る	教員や市職員に対して理解促進のため研修等を行う	相談窓口等の充実を図る	当事者団体や支援団体等と意見交換を行い、施策に反映する	民間企業や団体等に対して対応を働きかける	その他	わからない
全　体			494	60.9	57.9	56.7	51.4	50.2	44.9	35.2	32.0	4.0	3.6
性・年代別	女性	10・20歳代	29	69.0	48.3	62.1	55.2	69.0	48.3	31.0	31.0	－	3.4
		30歳代	40	52.5	42.5	42.5	45.0	37.5	35.0	37.5	27.5	5.0	5.0
		40歳代	49	49.0	51.0	59.2	49.0	57.1	34.7	32.7	30.6	6.1	12.2
		50歳代	61	70.5	52.5	62.3	62.3	57.4	41.0	34.4	31.1	8.2	－
		60歳代	49	63.3	57.1	69.4	44.9	55.1	44.9	34.7	30.6	2.0	2.0
		70歳代	40	62.5	70.0	65.0	52.5	37.5	60.0	37.5	27.5	－	－
		80歳以上	25	56.0	56.0	56.0	40.0	28.0	52.0	24.0	28.0	－	12.0
	男性	10・20歳代	14	50.0	35.7	57.1	57.1	42.9	64.3	42.9	35.7	14.3	－
		30歳代	16	50.0	68.8	25.0	43.8	37.5	25.0	25.0	25.0	－	－
		40歳代	33	66.7	45.5	54.5	51.5	39.4	42.4	27.3	21.2	12.1	3.0
		50歳代	41	65.9	58.5	51.2	53.7	48.8	31.7	26.8	34.1	2.4	7.3
		60歳代	41	56.1	75.6	56.1	53.7	68.3	58.5	43.9	36.6	2.4	－
		70歳代	34	58.8	76.5	44.1	52.9	44.1	38.2	41.2	44.1	2.9	2.9
		80歳以上	14	64.3	64.3	57.1	42.9	50.0	71.4	50.0	42.9	－	－

８．地域・防災について

（１）地域活動への参加状況

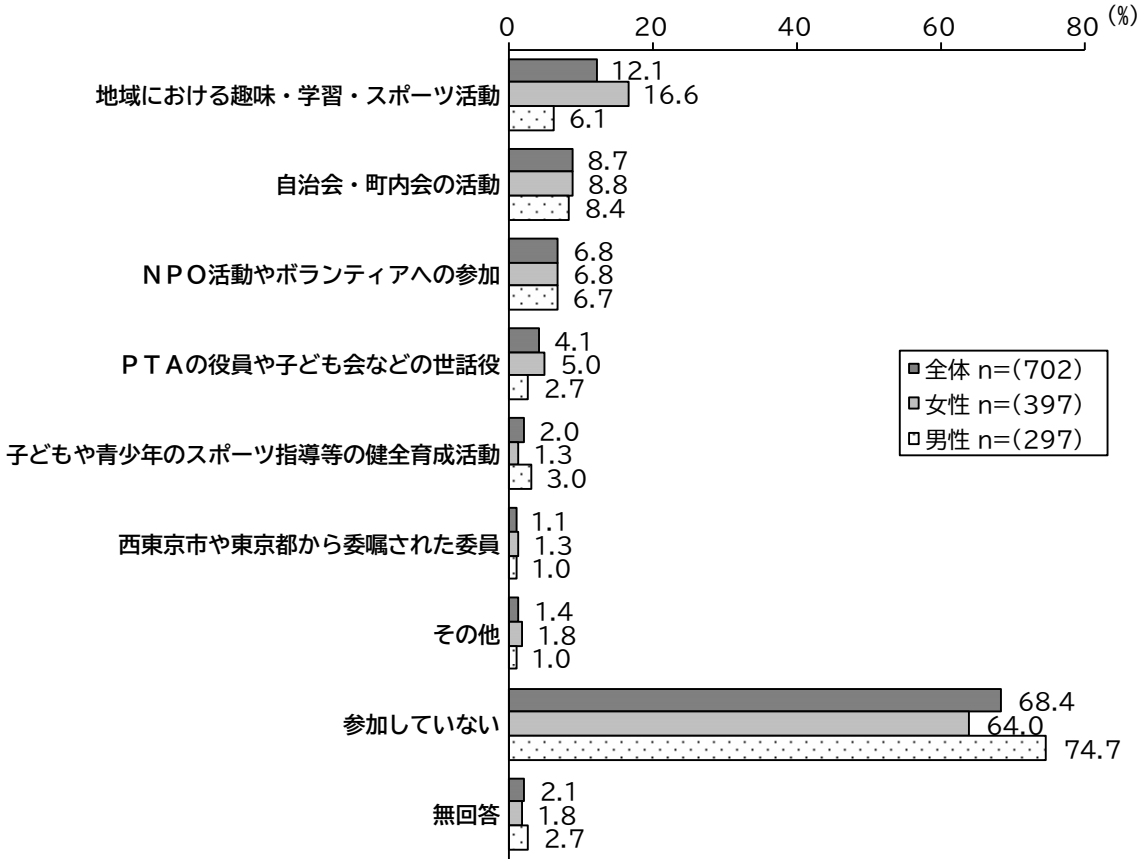
問22　あなたは現在、どのような地域活動に参加していますか。（いくつでも○）

○参加している地域活動は「地域における趣味・学習・スポーツ活動」が最も多くなっている。

○「参加していない」は男性が女性を上回っている。

全体では、現在参加している割合は、「地域における趣味・学習・スポーツ活動(12.1%)」が最も多く、「自治会・町内会の活動(8.7%)」、「ＮＰＯ活動やボランティアへの参加(6.8%)」が続いています。一方で、「参加していない」が68.4%となっています。

性別にみると、現在参加している活動は、男女ともに順位の入れ替わりはあるものの上位３項目は全体と同じですが、女性は「地域における趣味・学習・スポーツ活動(女性：16.6%、男性：6.1%)」で男性を10.5ポイント上回っています。また、「参加していない(女性：64.0%、男性：74.7%)」は、男性が女性を10.7ポイント上回っています。



■性・年代別

性・年代別にみると、男女ともにすべての年代で「参加していない」が最も多く、特に女性の10・20歳代と30歳代、男性の60歳代で８割台と多くなっています。

参加している地域活動では、女性では、40歳代で「ＰＴＡの役員や子ども会などの世話役」が２割台と最も多く、70歳代と80歳以上では「地域における趣味・学習・スポーツ活動」が２割台と多くなっています。男性では、80歳以上で「地域における趣味・学習・スポーツ活動」が１割台半ばと多くなっています。

（単位:％）

			回答者数（人）	地域における趣味・学習・スポーツ活動	自治会・町内会の活動	ＮＰＯ活動やボランティアへの参加	ＰＴＡの役員や子ども会などの世話役	子どもや青少年のスポーツ指導等の健全育成活動	西東京市や東京都から委嘱された委員	その他	参加していない	無回答
全　体			702	12.1	8.7	6.8	4.1	2.0	1.1	1.4	68.4	2.1
性・年代別	女性	10・20歳代	36	11.1	－	2.8	－	－	－	－	86.1	2.8
		30歳代	46	10.9	4.3	4.3	2.2	－	－	－	84.8	－
		40歳代	61	4.9	13.1	1.6	21.3	1.6	3.3	－	60.7	1.6
		50歳代	79	13.9	6.3	6.3	5.1	2.5	－	5.1	67.1	－
		60歳代	66	18.2	13.6	9.1	3.0	3.0	－	3.0	56.1	3.0
		70歳代	63	28.6	9.5	17.5	－	－	3.2	1.6	50.8	1.6
		80歳以上	46	28.3	10.9	2.2	－	－	2.2	－	54.3	4.3
	男性	10・20歳代	17	11.8	5.9	－	－	－	－	－	82.4	－
		30歳代	32	－	9.4	6.3	9.4	3.1	－	－	78.1	3.1
		40歳代	45	4.4	6.7	2.2	8.9	6.7	2.2	－	71.1	4.4
		50歳代	52	5.8	5.8	9.6	1.9	7.7	1.9	－	73.1	1.9
		60歳代	60	1.7	5.0	6.7	－	－	－	1.7	86.7	－
		70歳代	56	8.9	14.3	10.7	－	1.8	－	3.6	66.1	3.6
		80歳以上	35	14.3	11.4	5.7	－	－	2.9	－	68.6	5.7

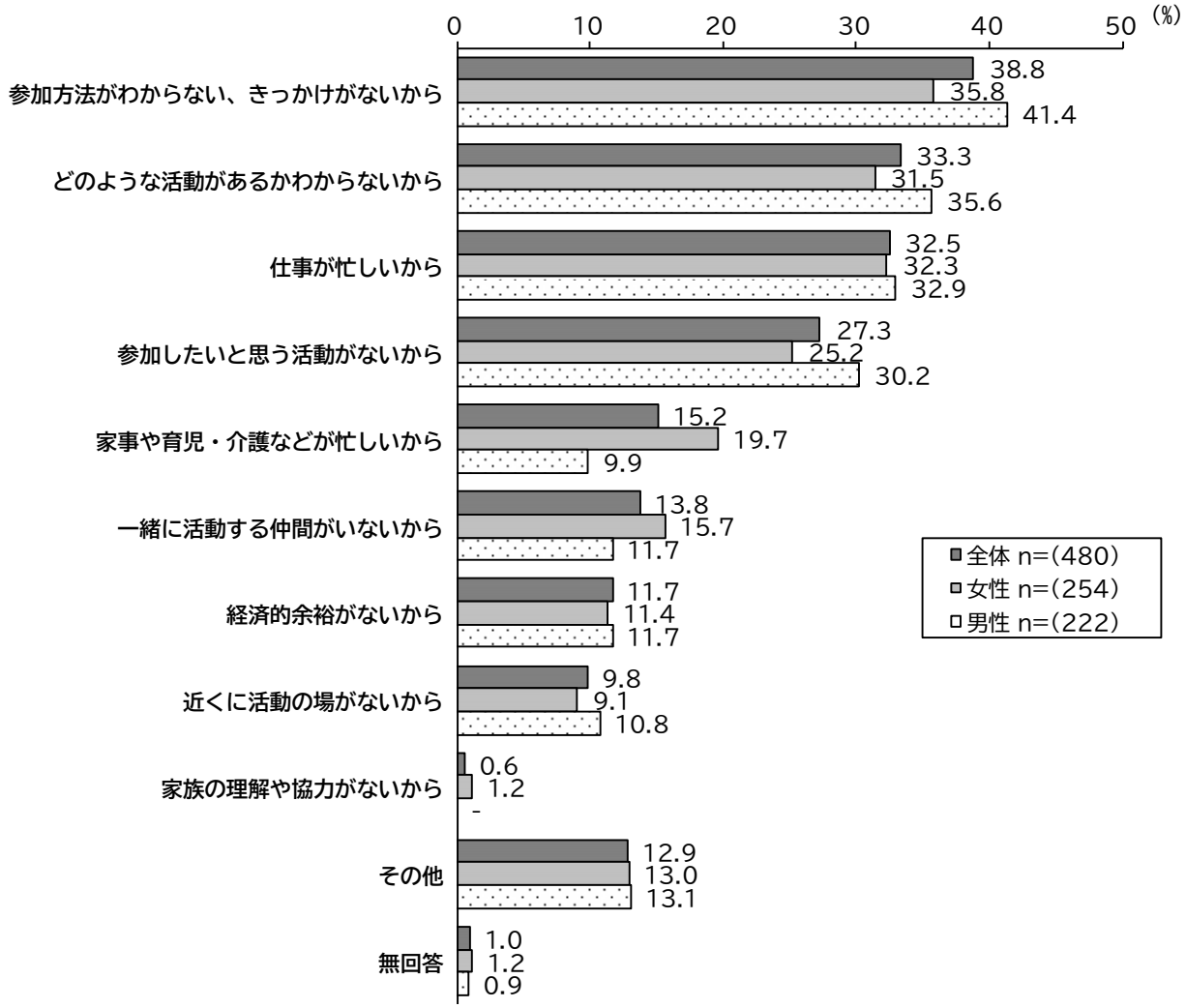
（２）地域活動に参加していない理由

【問22で「参加していない」と答えた方におたずねします。】
問22-１　あなたが参加できていないのは何故ですか。（いくつでも○）

○「参加方法がわからない、きっかけがないから」が最も多くなっている。
○「家事や育児・介護などが忙しいから」は女性が男性を上回っている。

全体では、「参加方法がわからない、きっかけがないから(38.8%)」が最も多く、「どのような活動があるかわからないから(33.3%)」、「仕事が忙しいから(32.5%)」が続いています。

性別にみると、参加していない理由は、男女ともに順位の入れ替わりはあるものの上位３項目は全体と同じですが、男性は「参加方法がわからない、きっかけがないから(女性：35.8%、男性：41.4%)」で女性を5.6ポイント上回っています。また、女性は「家事や育児・介護などが忙しいから(女性：19.7%、男性：9.9%)」で男性を9.8ポイント上回っています。



■性・年代別

性・年代別にみると、女性では、10・20歳代から40歳代で「仕事が忙しいから」が４割を超えて多くなっています。また、30歳代と50歳代で「参加方法がわからない、きっかけがないから」が４割を超えて多く、特に30歳代で５割を超えています。

男性では、30歳代、50歳代、60歳代で「参加方法がわからない、きっかけがないから」が最も多くなっており、特に50歳代で５割を超えています。40歳代では「仕事が忙しいから」も５割を超えて多くなっています。

（単位:%）

			回答者数（人）	参加方法がわからない、きっかけがないから	どのような活動があるかわからないから	仕事が忙しいから	参加したいと思う活動がないから	家事や育児・介護などが忙しいから	一緒に活動する仲間がいないから	経済的余裕がないから	近くに活動の場がないから	家族の理解や協力がないから	その他	無回答
全　体			480	38.8	33.3	32.5	27.3	15.2	13.8	11.7	9.8	0.6	12.9	1.0
性・年代別	女性	10・20歳代	31	38.7	29.0	41.9	38.7	3.2	22.6	16.1	22.6	－	6.5	－
		30歳代	39	51.3	48.7	43.6	15.4	48.7	30.8	15.4	2.6	－	2.6	－
		40歳代	37	29.7	27.0	45.9	21.6	27.0	8.1	10.8	10.8	－	8.1	2.7
		50歳代	53	43.4	34.0	37.7	28.3	15.1	15.1	11.3	5.7	1.9	11.3	－
		60歳代	37	29.7	29.7	18.9	35.1	21.6	13.5	13.5	8.1	2.7	16.2	－
		70歳代	32	21.9	21.9	25.0	21.9	6.3	15.6	6.3	6.3	－	25.0	－
		80歳以上	25	28.0	24.0	－	12.0	8.0	－	4.0	12.0	4.0	28.0	8.0
	男性	10・20歳代	14	35.7	42.9	42.9	57.1	14.3	28.6	28.6	21.4	－	14.3	－
		30歳代	25	48.0	40.0	36.0	40.0	16.0	16.0	24.0	20.0	－	12.0	－
		40歳代	32	31.3	31.3	56.3	34.4	18.8	12.5	15.6	3.1	－	3.1	－
		50歳代	38	55.3	47.4	44.7	23.7	13.2	5.3	7.9	10.5	－	－	－
		60歳代	52	44.2	38.5	36.5	21.2	5.8	13.5	11.5	13.5	－	15.4	－
		70歳代	37	32.4	24.3	8.1	37.8	2.7	10.8	5.4	8.1	－	13.5	2.7
		80歳以上	24	37.5	25.0	4.2	16.7	4.2	4.2	－	4.2	－	41.7	4.2

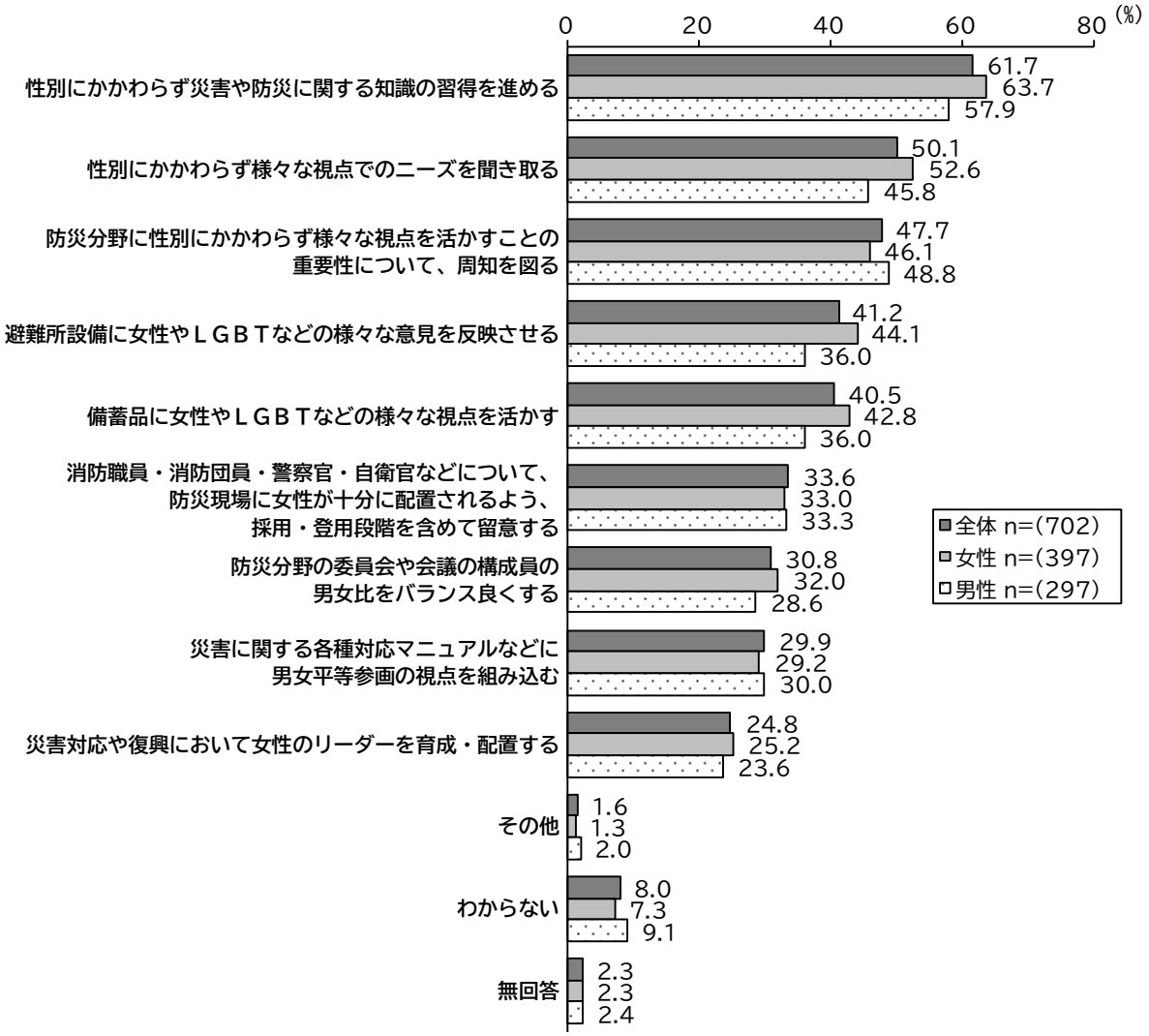
（３）防災分野で男女平等の視点を活かすために重要だと思うこと

問23　あなたは、防災分野で男女平等の視点を活かすためには、どのようなことが重要だと思いますか。（いくつでも○）

○「性別にかかわらず災害や防災に関する知識の習得を進める」が最も多くなっている。
○「避難所設備に女性やＬＧＢＴなどの様々な意見を反映させる」は女性が男性を上回っている。

全体では、「性別にかかわらず災害や防災に関する知識の習得を進める(61.7%)」が最も多く、「性別にかかわらず様々な視点でのニーズを聞き取る(50.1%)」、「防災分野に性別にかかわらず様々な視点を活かすことの重要性について、周知を図る(47.7%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに順位の入れ替わりはあるものの上位３項目は全体と同じですが、女性は「性別にかかわらず様々な視点でのニーズを聞き取る(女性：52.6%、男性：45.8%)」で男性を6.8ポイント上回っています。また、「避難所設備に女性やＬＧＢＴなどの様々な意見を反映させる(女性：44.1%、男性：36.0%)」でも男性を8.1ポイント上回っています。



■性・年代別

性・年代別にみると、男女ともにすべての年代で「性別にかかわらず災害や防災に関する知識の習得を進める」が５割を超えて多く、特に女性の70歳代で７割を超えています。また、女性では、50歳代と80歳以上を除くすべての年代で「性別にかかわらず様々な視点でのニーズを聞き取る」が５割を超えて多く、特に60歳代で62.1％となっています。男性では、60歳代で「防災分野に性別にかかわらず様々な視点を活かすことの重要性について、周知を図る」が最も多く、30歳代、70歳代でも５割を超えています。

（単位:％）

			回答者数（人）	性別にかかわらず災害や防災に関する知識の習得を進める	性別にかかわらず様々な視点でのニーズを聞き取る	防災分野に性別にかかわらず様々な視点を活かすことの重要性について、周知を図る	避難所設備に女性やＬＧＢＴなどの様々な意見を反映させる	備蓄品に女性やＬＧＢＴなどの様々な視点を活かす	消防職員・消防団員・警察官・自衛官などについて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する	防災分野の委員会や会議の構成員の男女比をバランス良くする	災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等参画の視点を組み込む	災害対応や復興において女性のリーダーを育成・配置する	その他	わからない	無回答
全　体			702	61.7	50.1	47.7	41.2	40.5	33.6	30.8	29.9	24.8	1.6	8.0	2.3
性・年代別	女性	10・20歳代	36	66.7	55.6	55.6	47.2	47.2	38.9	41.7	30.6	27.8	－	2.8	－
		30歳代	46	52.2	52.2	41.3	34.8	54.3	32.6	32.6	17.4	28.3	6.5	4.3	－
		40歳代	61	67.2	54.1	39.3	36.1	39.3	23.0	18.0	18.0	21.3	1.6	6.6	3.3
		50歳代	79	60.8	48.1	46.8	50.6	50.6	39.2	34.2	32.9	27.8	－	11.4	1.3
		60歳代	66	65.2	62.1	40.9	56.1	47.0	37.9	37.9	36.4	25.8	－	4.5	－
		70歳代	63	73.0	55.6	54.0	44.4	34.9	33.3	34.9	38.1	22.2	1.6	6.3	4.8
		80歳以上	46	58.7	39.1	47.8	32.6	23.9	23.9	26.1	26.1	23.9	－	13.0	6.5
	男性	10・20歳代	17	64.7	47.1	70.6	41.2	47.1	41.2	29.4	29.4	35.3	5.9	－	－
		30歳代	32	56.3	43.8	50.0	9.4	9.4	15.6	31.3	18.8	21.9	6.3	9.4	6.3
		40歳代	45	60.0	42.2	37.8	33.3	35.6	24.4	24.4	26.7	15.6	2.2	15.6	－
		50歳代	52	53.8	50.0	46.2	48.1	48.1	40.4	32.7	32.7	32.7	－	9.6	－
		60歳代	60	51.7	48.3	53.3	45.0	46.7	33.3	36.7	31.7	26.7	3.3	6.7	3.3
		70歳代	56	60.7	44.6	53.6	33.9	35.7	37.5	25.0	32.1	23.2	－	7.1	3.6
		80歳以上	35	65.7	42.9	40.0	31.4	20.0	40.0	17.1	34.3	11.4	－	11.4	2.9

９．暴力（ＤＶ、ハラスメント）について

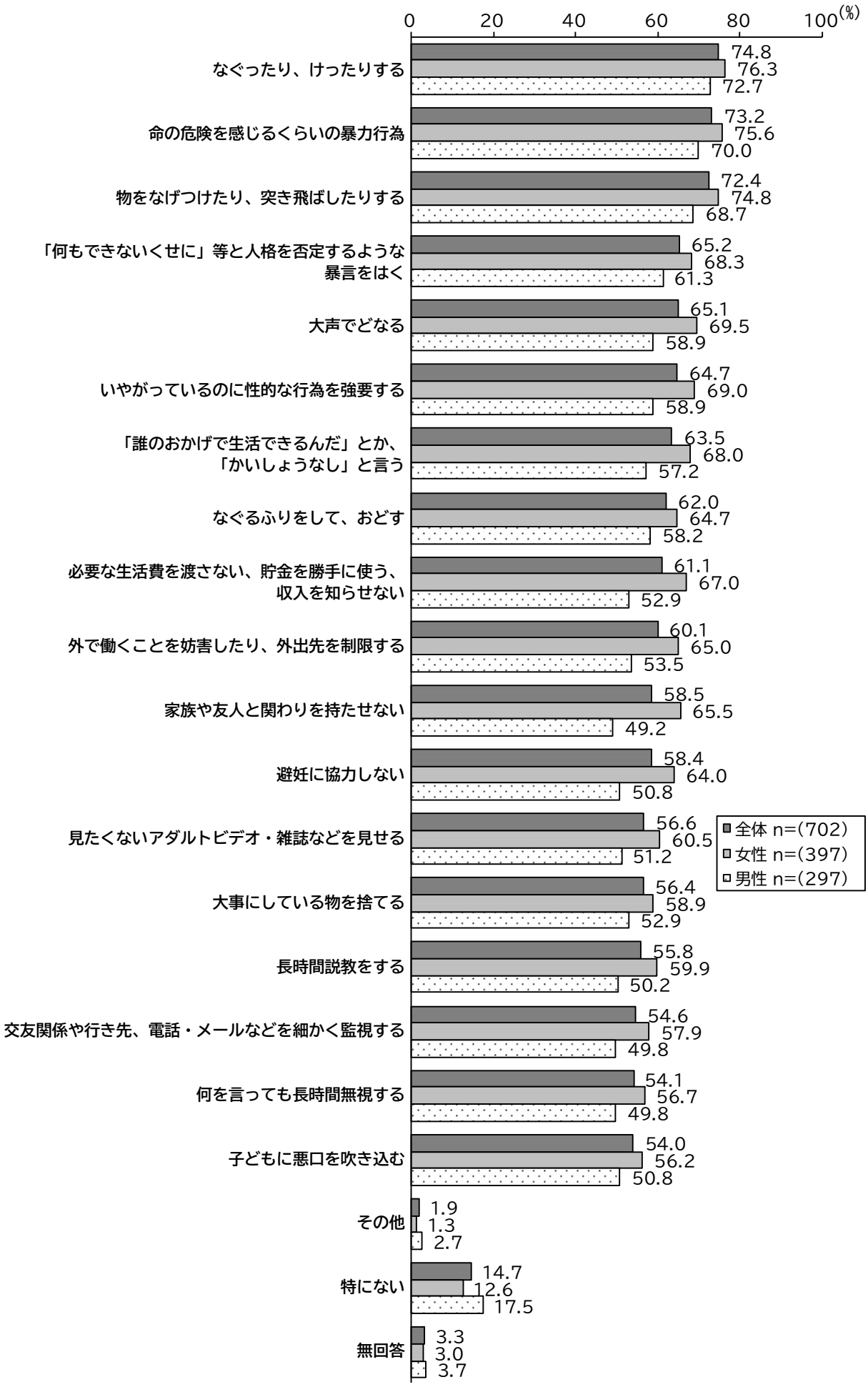
（１）配偶者等からの暴力だと思うもの

問24　あなたが、パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力だと思うものはどれですか。（いくつでも○）

○「なぐったり、けったりする」が最も多くなっている。
○すべての項目で女性が男性を上回っている。

全体では、「なぐったり、けったりする(74.8%)」が最も多く、「命の危険を感じるくらいの暴力行為(73.2%)」、「物をなげつけたり、突き飛ばしたりする(72.4%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに上位３項目は全体と同じです。また、すべての項目で女性は男性を３ポイント～10ポイント程度上回っており、特に「家族や友人と関わりを持たせない(女性：65.5%、男性：49.2%)」、「避妊に協力しない(女性：64.0%、男性：50.8%)」、「外で働くことを妨害したり、外出先を制限する(女性：65.0%、男性：53.5%)」で男性をそれぞれ16.3ポイント、13.2ポイント、11.5ポイント上回っています。


0
20
40
60
80
100(%)
なぐったり、けったりする
74.8
76.3
72.7
命の危険を感じるくらいの暴力行為
73.2
75.6
70.0
物をなげつけたり、突き飛ばしたりする
72.4
74.8
68.7
「何もできないくせに」等と人格を否定するような暴言をはく
65.2
68.3
61.3
大声でどなる
65.1
69.5
58.9
いやがっているのに性的な行為を強要する
64.7
69.0
58.9
「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う
63.5
68.0
57.2
なぐるふりをして、おどす
62.0
64.7
58.2
必要な生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、収入を知らせない
61.1
67.0
52.9
外で働くことを妨害したり、外出先を制限する
60.1
65.0
53.5
家族や友人と関わりを持たせない
58.5
65.5
49.2
避妊に協力しない
58.4
64.0
50.8
見たくないアダルトビデオ・雑誌などを見せる
56.6
60.5
51.2
全体 n=(702)
女性 n=(397)
男性 n=(297)
大事にしている物を捨てる
56.4
58.9
52.9
長時間説教をする
55.8
59.9
50.2
交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する
54.6
57.9
49.8
何を言っても長時間無視する
54.1
56.7
49.8
子どもに悪口を吹き込む
54.0
56.2
50.8
その他
1.9
1.3
2.7
特にない
14.7
12.6
17.5
無回答
3.3
3.0
3.7

■性・年代別

性・年代別にみると、女性では、10・20歳代から50歳代で「なぐったり、けったりする」、「命の危険を感じるくらいの暴力行為」、「物をなげつけたり、突き飛ばしたりする」、「いやがっているのに性的な行為を強要する」、「「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う」が８割を超えて多くなっています。また、10・20歳代で「見たくないアダルトビデオ・雑誌などを見せる」、「長時間説教をする」も８割を超えて多くなっています。

男性では、30歳代と40歳代で「なぐったり、けったりする」と「命の危険を感じるくらいの暴力行為」が８割を超えています。

（単位:％）

			回答者数（人）	なぐったり、けったりする	命の危険を感じるくらいの暴力行為	物をなげつけたり、突き飛ばしたりする	「何もできないくせに」等と人格を否定するような暴言をはく	大声でどなる	いやがっているのに性的な行為を強要する	「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う	なぐるふりをして、おどす	必要な生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、収入を知らせない	外で働くことを妨害したり、外出先を制限する	家族や友人と関わりを持たせない
全　体			702	74.8	73.2	72.4	65.2	65.1	64.7	63.5	62.0	61.1	60.1	58.5
性・年代別	女性	10・20歳代	36	94.4	91.7	91.7	91.7	83.3	88.9	91.7	86.1	80.6	80.6	80.6
		30歳代	46	87.0	82.6	87.0	82.6	76.1	80.4	80.4	78.3	73.9	76.1	78.3
		40歳代	61	90.2	90.2	90.2	82.0	85.2	85.2	83.6	83.6	82.0	78.7	82.0
		50歳代	79	88.6	88.6	88.6	79.7	86.1	82.3	86.1	86.1	81.0	82.3	81.0
		60歳代	66	65.2	71.2	65.2	63.6	66.7	63.6	62.1	51.5	63.6	57.6	60.6
		70歳代	63	66.7	65.1	61.9	52.4	52.4	54.0	47.6	47.6	54.0	50.8	49.2
		80歳以上	46	41.3	34.8	37.0	26.1	30.4	26.1	21.7	15.2	28.3	23.9	21.7
	男性	10・20歳代	17	94.1	88.2	88.2	88.2	82.4	82.4	88.2	88.2	76.5	88.2	82.4
		30歳代	32	84.4	84.4	78.1	65.6	56.3	71.9	59.4	75.0	56.3	50.0	50.0
		40歳代	45	82.2	84.4	80.0	68.9	75.6	71.1	66.7	68.9	60.0	66.7	64.4
		50歳代	52	76.9	73.1	69.2	67.3	69.2	63.5	61.5	71.2	55.8	59.6	53.8
		60歳代	60	73.3	75.0	71.7	68.3	63.3	63.3	63.3	63.3	56.7	58.3	55.0
		70歳代	56	67.9	62.5	64.3	53.6	50.0	50.0	50.0	42.9	55.4	50.0	42.9
		80歳以上	35	40.0	28.6	37.1	25.7	20.0	20.0	22.9	11.4	14.3	11.4	5.7

			回答者数（人）	避妊に協力しない	見たくないアダルトビデオ・雑誌などを見せる	大事にしている物を捨てる	長時間説教をする	交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	何を言っても長時間無視する	子どもに悪口を吹き込む	その他	特にない	無回答
全　体			702	58.4	56.6	56.4	55.8	54.6	54.1	54.0	1.9	14.7	3.3
性・年代別	女性	10・20歳代	36	86.1	80.6	75.0	86.1	63.9	63.9	77.8	2.8	2.8	－
		30歳代	46	80.4	76.1	71.7	71.7	63.0	69.6	67.4	2.2	8.7	－
		40歳代	61	80.3	73.8	70.5	78.7	63.9	67.2	67.2	－	3.3	－
		50歳代	79	77.2	75.9	74.7	70.9	72.2	72.2	67.1	－	3.8	2.5
		60歳代	66	57.6	51.5	51.5	54.5	56.1	50.0	53.0	－	16.7	1.5
		70歳代	63	46.0	46.0	44.4	42.9	54.0	44.4	41.3	3.2	20.6	3.2
		80歳以上	46	19.6	17.4	21.7	15.2	23.9	23.9	19.6	2.2	34.8	15.2
	男性	10・20歳代	17	82.4	88.2	76.5	76.5	76.5	70.6	82.4	5.9	5.9	－
		30歳代	32	62.5	53.1	62.5	50.0	46.9	53.1	59.4	9.4	3.1	9.4
		40歳代	45	62.2	62.2	66.7	57.8	57.8	53.3	68.9	4.4	8.9	－
		50歳代	52	51.9	57.7	63.5	59.6	59.6	65.4	53.8	－	15.4	－
		60歳代	60	55.0	55.0	55.0	53.3	56.7	53.3	51.7	1.7	13.3	5.0
		70歳代	56	46.4	44.6	42.9	50.0	46.4	46.4	42.9	1.8	28.6	－
		80歳以上	35	8.6	11.4	11.4	8.6	8.6	8.6	11.4	－	40.0	14.3

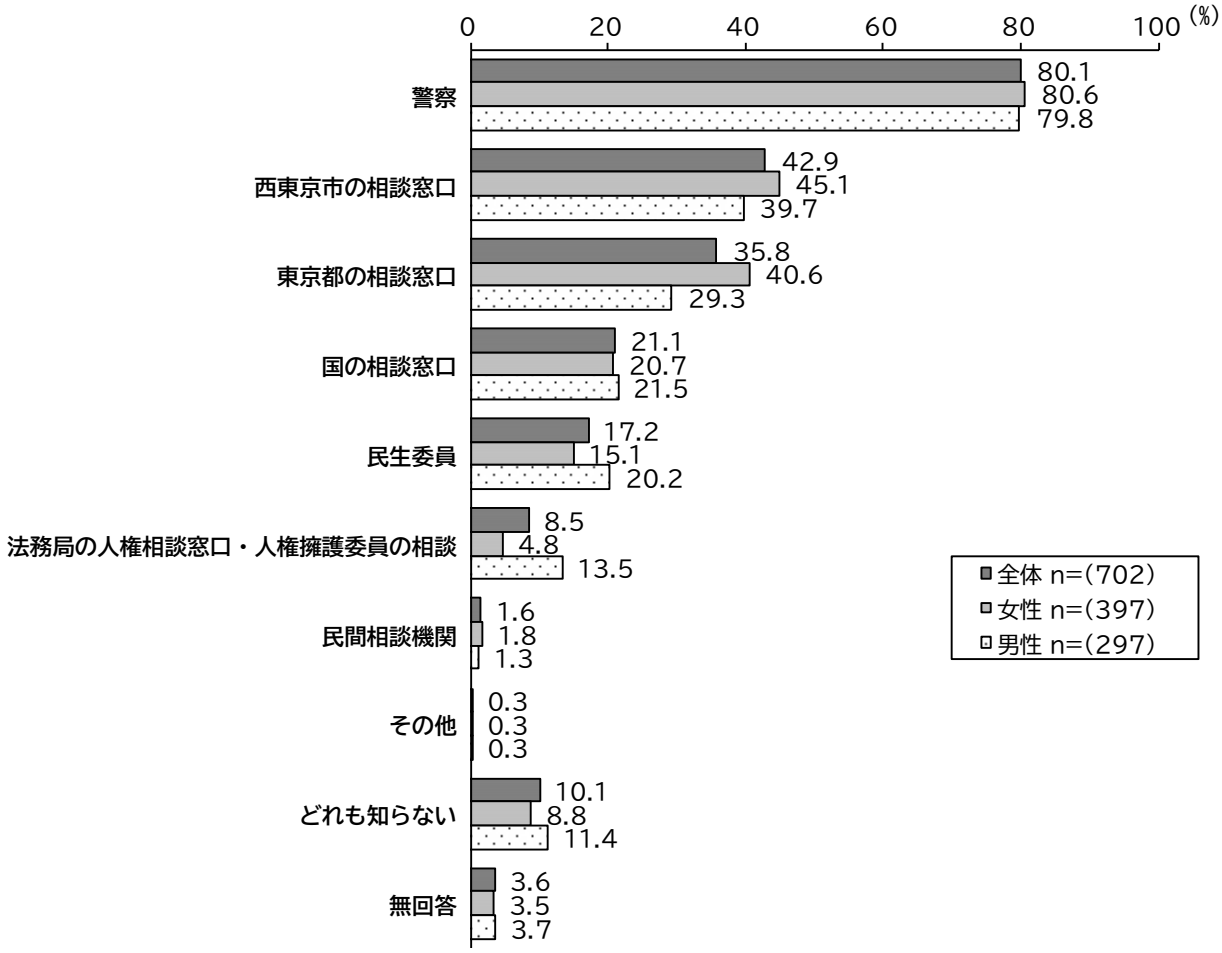
（２）配偶者等から暴力を受けた際の相談機関の認知度

問25　パートナー（配偶者や交際相手など）から暴力を受けた場合、相談ができる機関があります。あなたは、下記の相談機関を知っていますか。（いくつでも○）

○「警察」が最も多くなっている。
○「東京都の相談窓口」は女性が男性を上回っている。

全体では、「警察(80.1%)」が最も多く、「西東京市の相談窓口(42.9%)」、「東京都の相談窓口(35.8%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに全体の上位３項目と同じです。「東京都の相談窓口(女性：40.6%、男性：29.3%)」は、女性が男性を11.3ポイント上回っています。「法務局の人権相談窓口・人権擁護委員の相談(女性：4.8%、男性：13.5%)」は、男性が女性を8.7ポイント上回っています。「どれも知らない」は、女性は8.8%、男性は11.4%となっています。



■性・年代別

性・年代別にみると、男女ともにすべての年代で「警察」が５割を超えて最も多く、特に女性10・20歳代と男性50歳代で９割を超えています。一方で、「どれも知らない」は女性で40歳代、60歳代、80歳以上、男性で50歳代を除くすべての年代で１割台となっています。

（単位:％）

			回答者数（人）	警察	西東京市の相談窓口	東京都の相談窓口	国の相談窓口	民生委員	法務局の人権相談窓口・人権擁護委員の相談	民間相談機関	その他	どれも知らない	無回答
全　体			702	80.1	42.9	35.8	21.1	17.2	8.5	1.6	0.3	10.1	3.6
性・年代別	女性	10・20歳代	36	91.7	30.6	33.3	25.0	2.8	－	－	－	8.3	－
		30歳代	46	89.1	41.3	43.5	30.4	6.5	2.2	2.2	－	8.7	－
		40歳代	61	82.0	45.9	45.9	29.5	4.9	1.6	－	1.6	11.5	－
		50歳代	79	89.9	46.8	51.9	26.6	17.7	10.1	5.1	－	5.1	－
		60歳代	66	78.8	50.0	42.4	18.2	19.7	7.6	－	－	10.6	－
		70歳代	63	77.8	60.3	41.3	11.1	25.4	4.8	3.2	－	4.8	6.3
		80歳以上	46	52.2	28.3	13.0	2.2	21.7	2.2	－	－	15.2	21.7
	男性	10・20歳代	17	94.1	47.1	47.1	29.4	－	－	5.9	－	－	－
		30歳代	32	75.0	37.5	34.4	21.9	12.5	9.4	－	－	18.8	3.1
		40歳代	45	77.8	37.8	28.9	28.9	13.3	11.1	－	－	15.6	2.2
		50歳代	52	92.3	42.3	32.7	19.2	26.9	9.6	－	－	5.8	1.9
		60歳代	60	80.0	33.3	28.3	23.3	16.7	15.0	3.3	1.7	11.7	6.7
		70歳代	56	75.0	44.6	32.1	17.9	30.4	26.8	1.8	－	12.5	－
		80歳以上	35	68.6	40.0	8.6	14.3	25.7	8.6	－	－	11.4	11.4

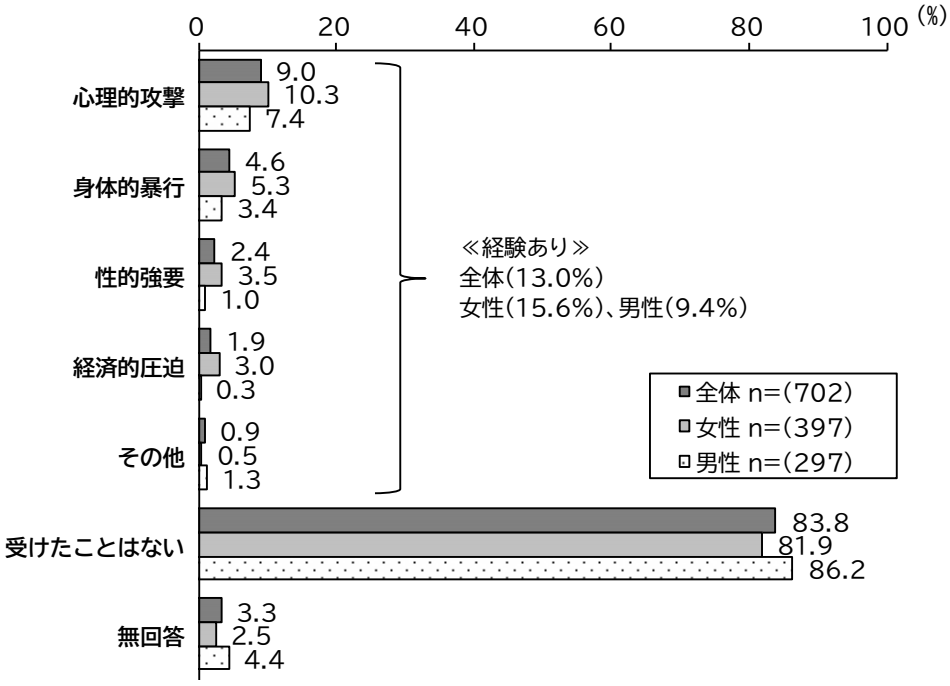
（３）配偶者等から暴力を受けた経験

問26　配偶者や交際相手などの男女間で起こる暴力をドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）と言います。あなたは、配偶者や交際相手などから次のような暴力を受けたことがありますか。（いくつでも○）

○受けた暴力は「心理的攻撃」が最も多くなっている。
○女性で１割台半ば、男性で約１割が暴力を受けた経験がある。

全体では、暴力を受けた経験がある割合は、「心理的攻撃(9.0%、63人)」が最も多く、「身体的暴行(4.6%、32人)」、「性的強要(2.4%、17人)」、「経済的圧迫(1.9%、13人)」が続いています。「受けたことはない」は、83.8%となっています。

性別にみると、男女ともに全体の上位３項目と同じになっており、配偶者等から暴力を受けた≪経験あり≫は、女性は15.6%、男性は9.4%となっています。「受けたことはない」は、女性は81.9%、男性は86.2%となっています。



※≪経験あり≫は、「受けたことはない」と「無回答」を除いています。

■性・年代別

性・年代別にみると、男女ともにすべての年代で「受けたことはない」が最も多く、特に男性の30歳代と70歳代で９割台と多くなっています。

受けたことのある暴力では、男女ともにすべての年代で「心理的攻撃」が最も多く、女性の40歳代から60歳代、男性の40歳代と60歳代で１割台となっています。また、女性の60歳代では「身体的暴行」が9.1％となっています。

（単位:％）

			回答者数（人）	心理的攻撃	身体的暴行	性的強要	経済的圧迫	その他	受けたことはない	無回答
全　体			702	9.0	4.6	2.4	1.9	0.9	83.8	3.3
性・年代別	女性	10・20歳代	36	5.6	－	5.6	－	－	88.9	－
		30歳代	46	8.7	2.2	6.5	－	－	87.0	－
		40歳代	61	13.1	6.6	－	1.6	－	83.6	－
		50歳代	79	15.2	6.3	5.1	7.6	－	79.7	－
		60歳代	66	12.1	9.1	4.5	3.0	1.5	78.8	－
		70歳代	63	7.9	4.8	3.2	3.2	1.6	81.0	6.3
		80歳以上	46	4.3	4.3	－	2.2	－	78.3	13.0
	男性	10・20歳代	17	－	－	－	－	－	100.0	－
		30歳代	32	3.1	－	－	－	3.1	90.6	3.1
		40歳代	45	15.6	6.7	2.2	2.2	4.4	82.2	－
		50歳代	52	9.6	3.8	1.9	－	－	86.5	1.9
		60歳代	60	11.7	5.0	－	－	1.7	81.7	3.3
		70歳代	56	－	－	－	－	－	92.9	7.1
		80歳以上	35	5.7	5.7	2.9	－	－	77.1	14.3

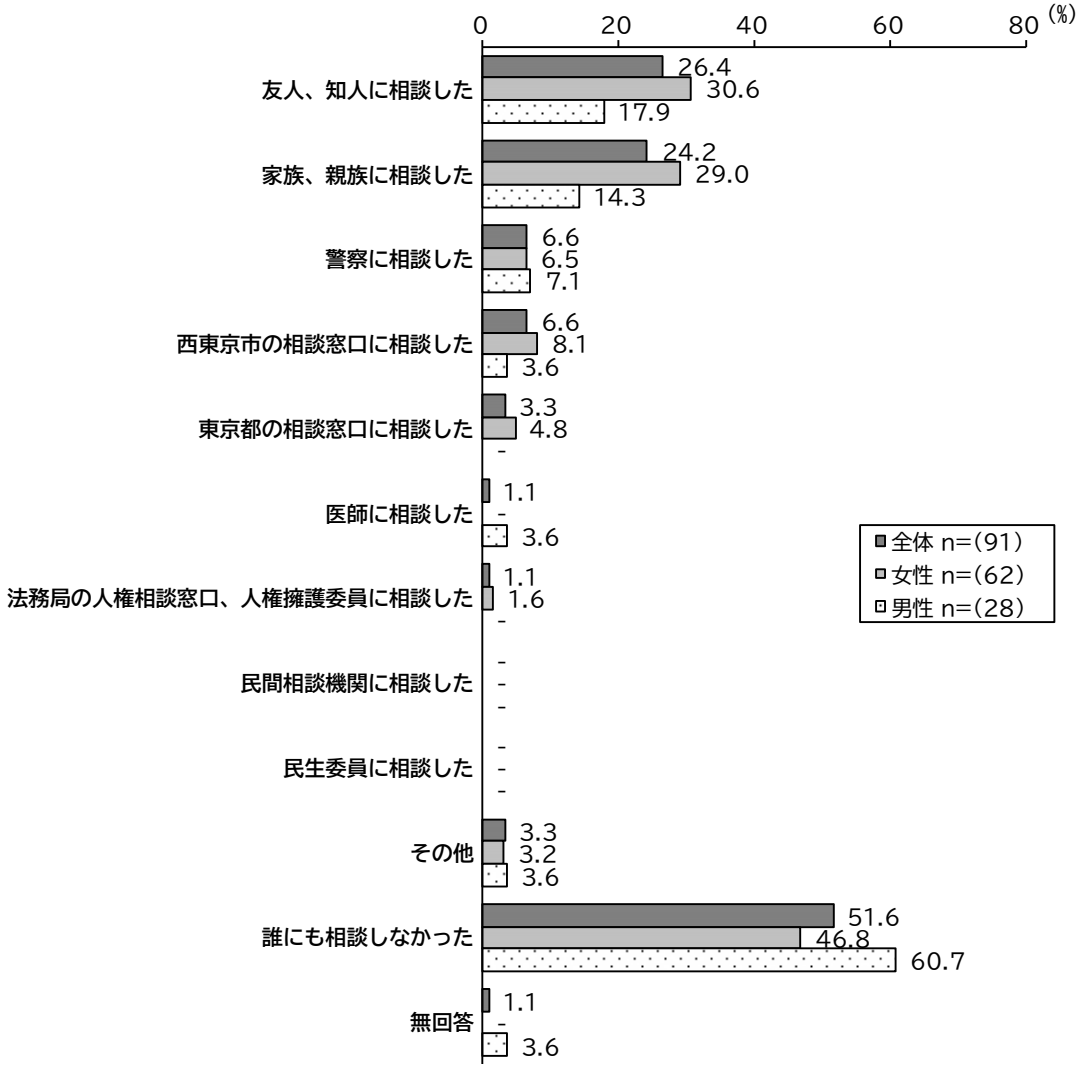
（３－１）配偶者等から暴力を受けた時の相談経験

【問26で何らかのＤＶ経験があるという項目に、１つでも○をつけた方におたずねします。】
問26-１　あなたが受けた暴力について、相談した方はどなたですか。（いくつでも○）

○「誰にも相談しなかった」が最も多くなっている。
○相談した人の相談先は、「友人、知人に相談した」「家族、親族に相談した」が多い

全体では、「誰にも相談しなかった(51.6%)」が最も多くなっています。相談した人の相談先は、「友人、知人に相談した(26.4%)」が最も多く、「家族、親族に相談した(24.2%)」、「警察に相談した(6.6%)」が続いています。

性別にみると、男性で回答者数が30未満のため参考に留めますが、男女ともに「誰にも相談しなかった(女性：46.8%、男性：60.7%)」が最も多く、男性は女性を13.9ポイント上回っています。相談した人の相談先は、男女ともに「友人、知人に相談した(女性：30.6%、男性17.9%)」が最も多く、女性は「家族、親族に相談した(29.0%)」、「西東京市の相談窓口に相談した(8.1%)」が続いています。



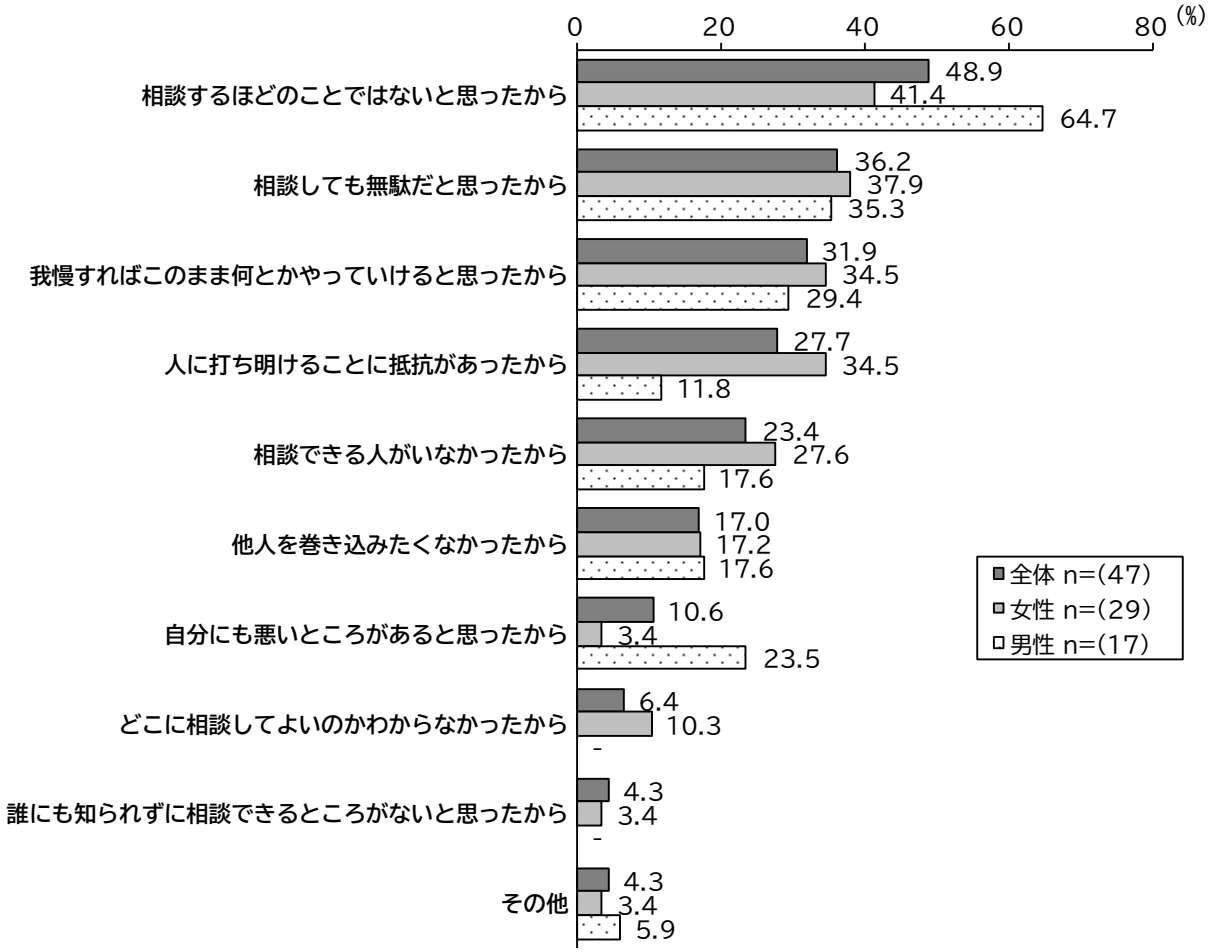
（３－２）誰にも相談しなかった理由

【問26-１で「誰にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。】
問26-２　誰にも相談しなかった理由は何ですか。（いくつでも○）

○「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多くなっている。
○「人に打ち明けることに抵抗があったから」は女性が男性を上回っている。

全体では、「相談するほどのことではないと思ったから(48.9%)」が最も多く、「相談しても無駄だと思ったから(36.2%)」、「我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから(31.9%)」が続いています。

性別にみると、いずれも回答者数が30未満のため参考に留めますが、男女ともに全体の上位３項目と同じになっています。女性は「人に打ち明けることに抵抗があったから(34.5%)」も３位となっており、男性（11.8%）を22.7ポイント上回っています。「相談するほどのことではないと思ったから(女性：41.4%、男性：64.7%)」、「自分にも悪いところがあると思ったから(女性：3.4%、男性：23.5%)」は男性が女性をそれぞれ23.3ポイント、20.1ポイント上回っています。



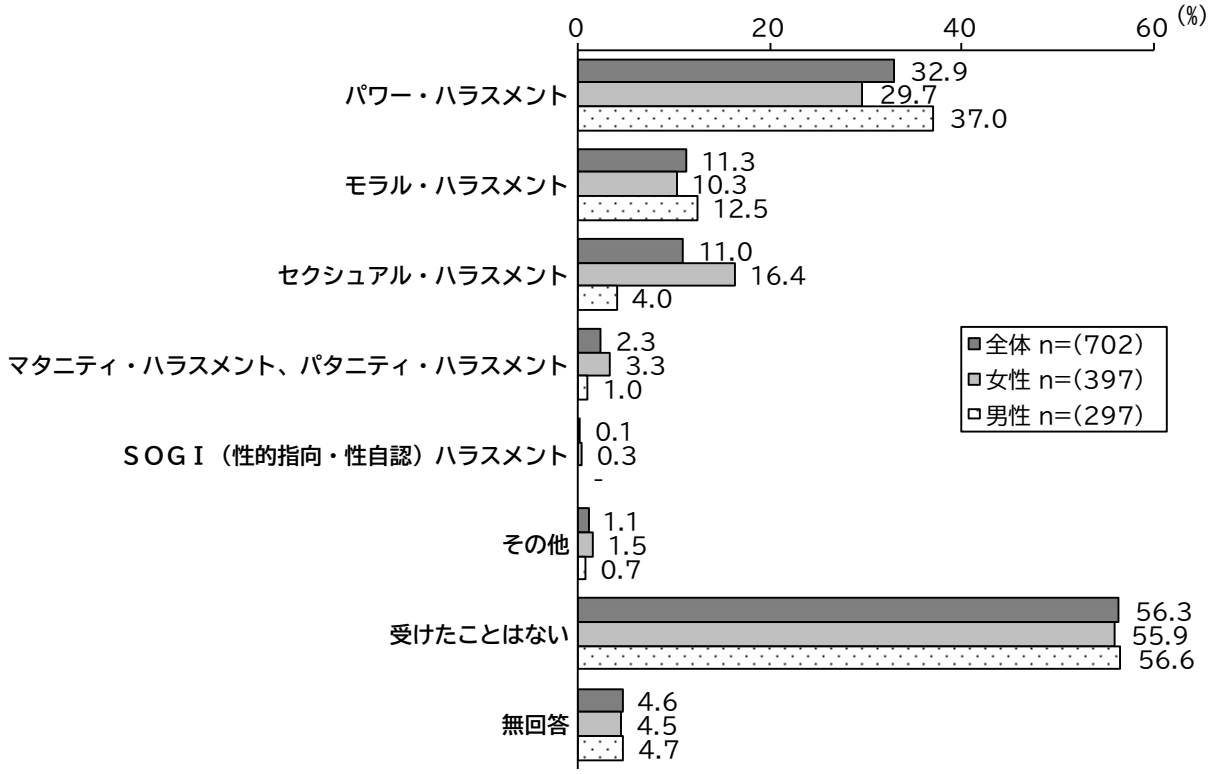
（４）職場等でハラスメントを受けた経験

問27　あなたは、職場等で次にあげるようなハラスメントを受けたことがありますか。
（いくつでも○）

○受けたハラスメントとしては「パワー・ハラスメント」が多い。
○「セクシュアル・ハラスメント」は女性のほうが男性より受けたことがある。

全体では、「受けたことはない(56.3%)」が最も多くなっています。経験した人のハラスメント内容は、「パワー・ハラスメント(32.9%)」が最も多く、「モラル・ハラスメント(11.3%)」、「セクシュアル・ハラスメント(11.0%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに「受けたことはない(女性：55.9%、男性：56.6%)」が最も多くなっています。ハラスメント内容は、男女ともに「パワー・ハラスメント(女性：29.7%、男性37.0%)」が最も多くなっていますが、男性が女性を7.3ポイント上回っています。また、「セクシュアル・ハラスメント(女性：16.4%、男性4.0%)」では女性が男性を12.4ポイント上回っています。



※「パタニティ・ハラスメント」：男性が育児休業や子育てのための短時間勤務を取得することを妨げるなどの行為のこと。

■性・年代別

性・年代別にみると、女性では、すべての年代で「受けたことはない」が最も多くなっていますが、30歳代で「パワー・ハラスメント」が43.5％と同値となっています。受けたことのあるハラスメントは30歳代から60歳代で「パワー・ハラスメント」が３割台から４割台、30歳代から50歳代で「セクシュアル・ハラスメント」が２割台と多くなっています。

男性では、50歳代を除くすべての年代で「受けたことはない」が最も多くなっています。受けたことのあるハラスメントはすべての年代で「パワー・ハラスメント」が最も多く、特に50歳代で50.0％となっています。また、30歳代と50歳代では「モラル・ハラスメント」が２割台となっています。

（単位:％）

			回答者数（人）	パワー・ハラスメント	モラル・ハラスメント	セクシュアル・ハラスメント	マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント	SOGI（性的指向・性自認）ハラスメント	その他	受けたことはない	無回答
全　体			702	32.9	11.3	11.0	2.3	0.1	1.1	56.3	4.6
性・年代別	女性	10・20歳代	36	22.2	16.7	13.9	－	－	2.8	63.9	－
		30歳代	46	43.5	13.0	26.1	15.2	－	－	43.5	－
		40歳代	61	39.3	3.3	21.3	6.6	1.6	－	47.5	1.6
		50歳代	79	43.0	17.7	21.5	2.5	－	2.5	46.8	2.5
		60歳代	66	33.3	13.6	16.7	－	－	－	53.0	3.0
		70歳代	63	11.1	3.2	11.1	－	－	4.8	71.4	6.3
		80歳以上	46	6.5	4.3	－	－	－	－	71.7	19.6
	男性	10・20歳代	17	35.3	11.8	－	－	－	－	64.7	－
		30歳代	32	43.8	25.0	3.1	3.1	－	－	46.9	3.1
		40歳代	45	44.4	13.3	13.3	－	－	4.4	53.3	－
		50歳代	52	50.0	23.1	9.6	－	－	－	46.2	－
		60歳代	60	45.0	11.7	－	3.3	－	－	53.3	1.7
		70歳代	56	28.6	3.6	－	－	－	－	64.3	7.1
		80歳以上	35	2.9	－	－	－	－	－	74.3	22.9

10. 男女平等参画を進めるために必要な施策について

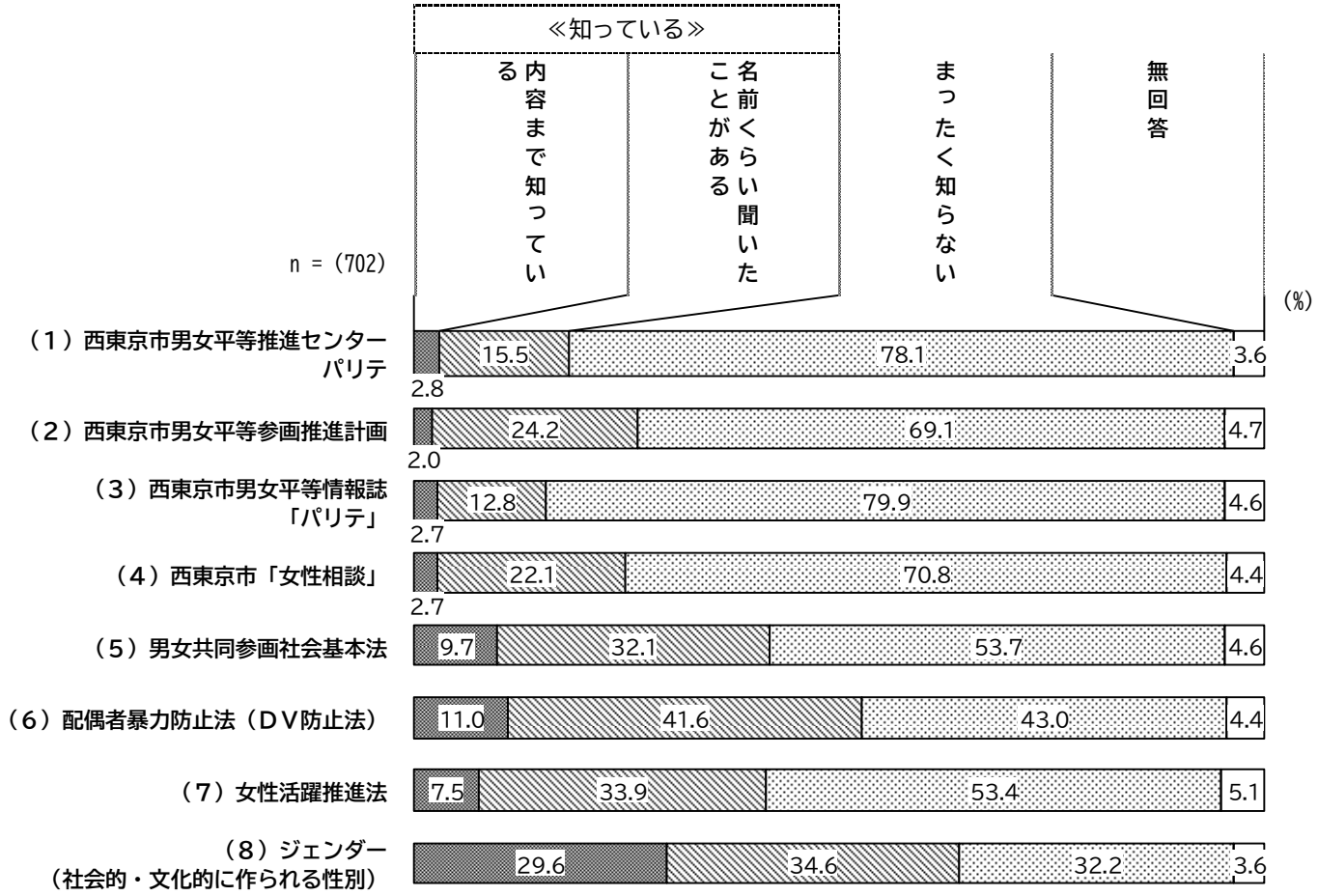
（１）西東京市の取り組み、男女平等に関する法律等の認知度

問28　あなたは、以下のことがらを知っていますか。（１）から（８）までのそれぞれについて、お答えください。（それぞれについて、１つに○）

○『ジェンダー（社会的・文化的に作られる性別）』、『配偶者暴力防止法（ＤＶ防止法）』の２項目で≪知っている≫が過半数を占めている。

○『西東京市男女平等情報誌「パリテ」』、『西東京市男女平等推進センター　パリテ』、『西東京市「女性相談」』で「まったく知らない」が７割台を占めている。

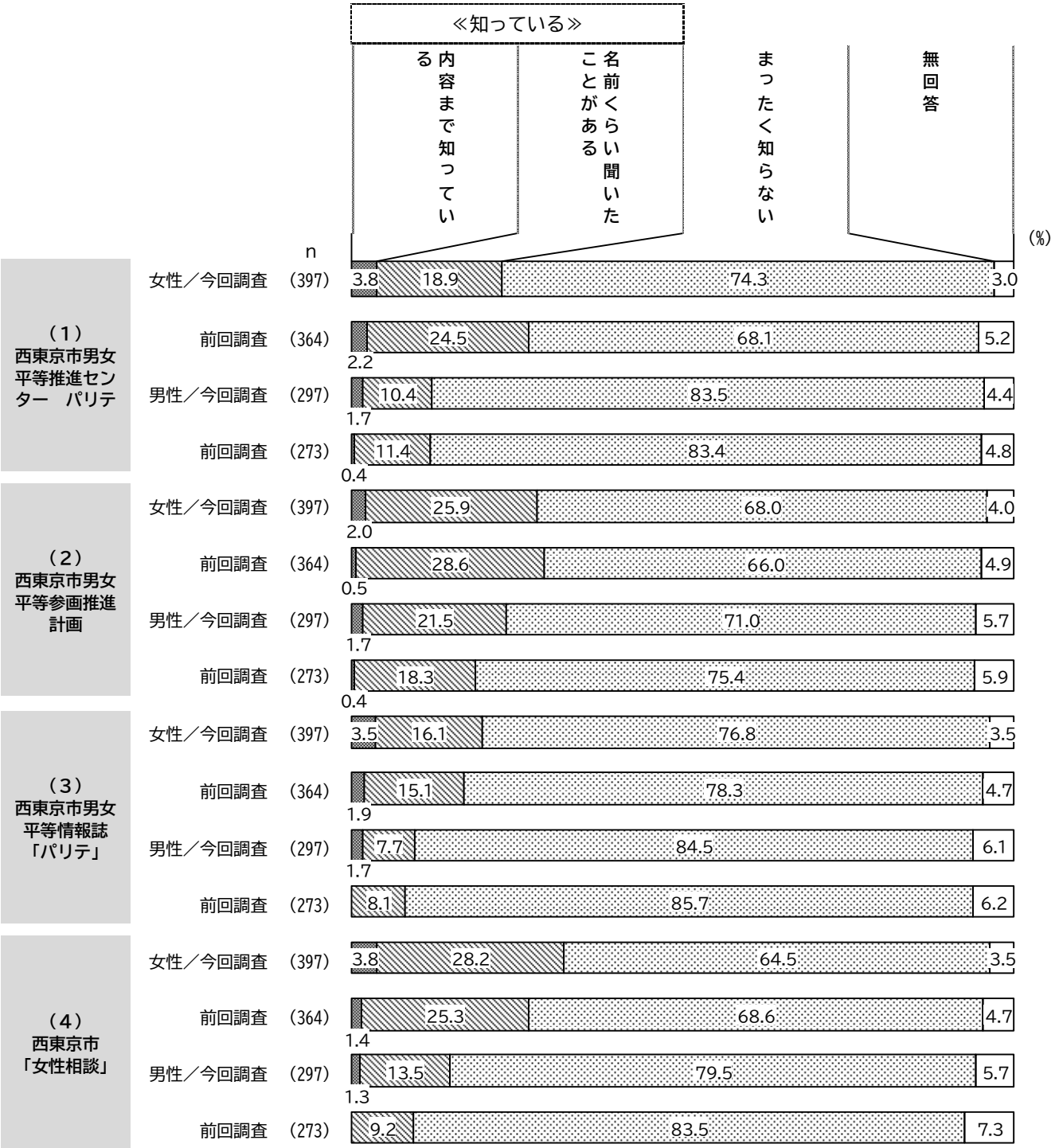
全体では、≪知っている≫（「内容まで知っている」と「名前くらい聞いたことがある」の合計）が『ジェンダー（社会的・文化的に作られる性別）（64.2%）』、『配偶者暴力防止法（ＤＶ防止法）（52.6%）』で過半数と多くなっています。一方、「まったく知らない」は、『西東京市男女平等情報誌「パリテ」（79.9%）』、『西東京市男女平等推進センター　パリテ(78.1%)』、『西東京市「女性相談」（70.8%）』で７割台と多くなっています。

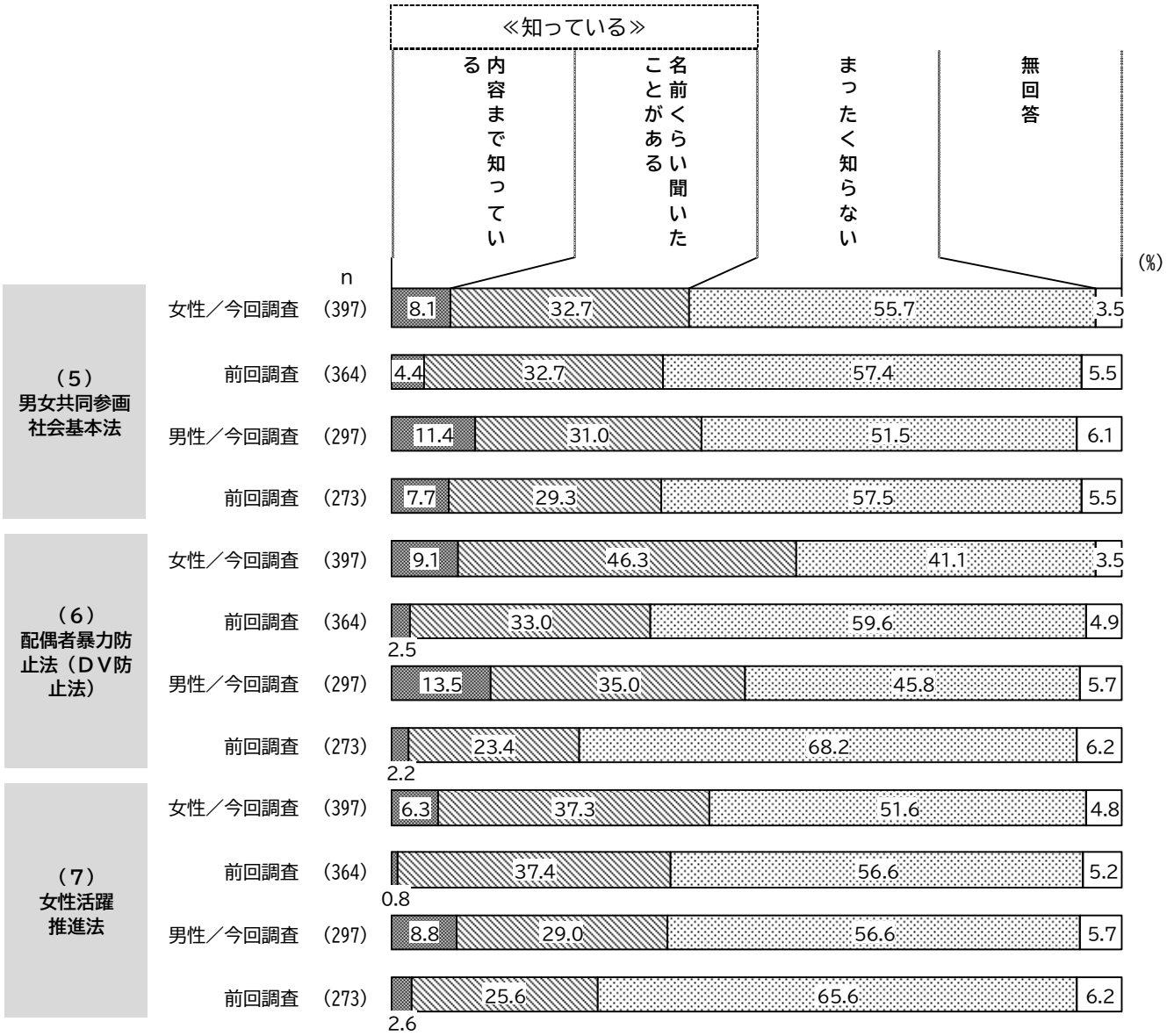


（注）法律については略式名を記載しています。

■前回調査との比較

前回調査と比較すると、『西東京市男女平等推進センター　パリテ』、『西東京市男女平等参画推進計画』を除く項目で≪知っている≫が男女ともに前回調査から増加しており、特に『配偶者暴力防止法（ＤＶ防止法）』で 20 ポイント前後と大幅に増加しています。『西東京市男女平等推進センター　パリテ』で≪知っている≫は女性で 4.0 ポイント減少しています。



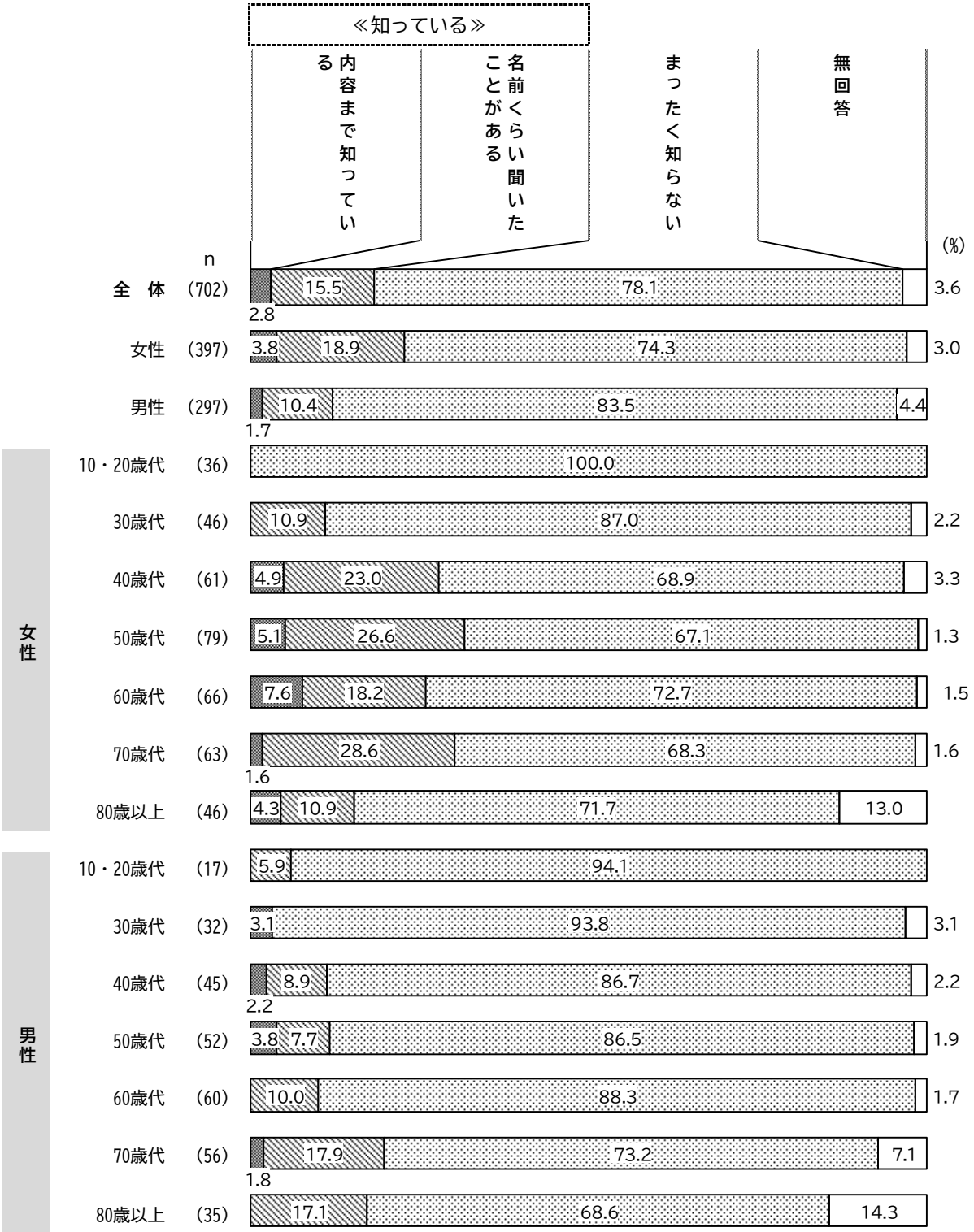

≪知っている≫
内容まで知っている
名前くらい聞いたことがある
まったく知らない
無回答
(%)
n
（5）男女共同参画社会基本法
女性／今回調査 (397) 8.1 32.7 55.7 3.5
前回調査 (364) 4.4 32.7 57.4 5.5
男性／今回調査 (297) 11.4 31.0 51.5 6.1
前回調査 (273) 7.7 29.3 57.5 5.5
（6）配偶者暴力防止法（ＤＶ防止法）
女性／今回調査 (397) 9.1 46.3 41.1 3.5
前回調査 (364) 2.5 33.0 59.6 4.9
男性／今回調査 (297) 13.5 35.0 45.8 5.7
前回調査 (273) 2.2 23.4 68.2 6.2
（7）女性活躍推進法
女性／今回調査 (397) 6.3 37.3 51.6 4.8
前回調査 (364) 0.8 37.4 56.6 5.2
男性／今回調査 (297) 8.8 29.0 56.6 5.7
前回調査 (273) 2.6 25.6 65.6 6.2

■性別、性・年代別

（１）西東京市男女平等推進センター　パリテ

性別にみると、≪知っている≫女性は22.7％、男性は12.1％となっており、女性が男性を10.6ポイント上回っています。

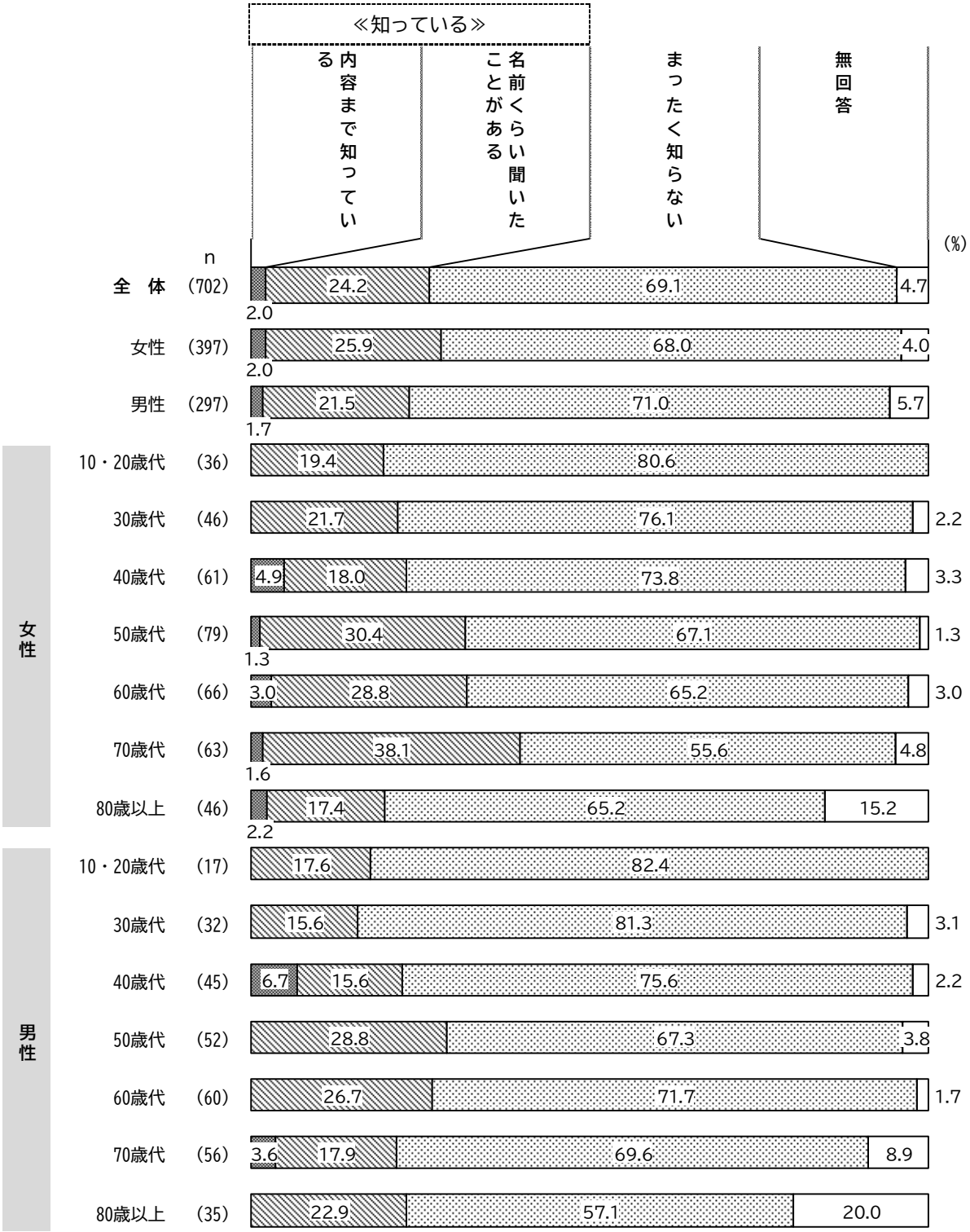
性・年代別にみると、女性の50歳代と70歳代で≪知っている≫が３割台となっており、全体より10ポイント程度上回っています。男女ともにすべての年代で「まったく知らない」が６割を超えており、女性の10・20歳代で100.0％、男性の30歳代で93.8％となっています。



（２）西東京市男女平等参画推進計画

性別にみると、男女ともに≪知っている(女性：27.9%、男性：23.2%)≫が２割台となっており、女性が男性を4.7ポイント上回っています。

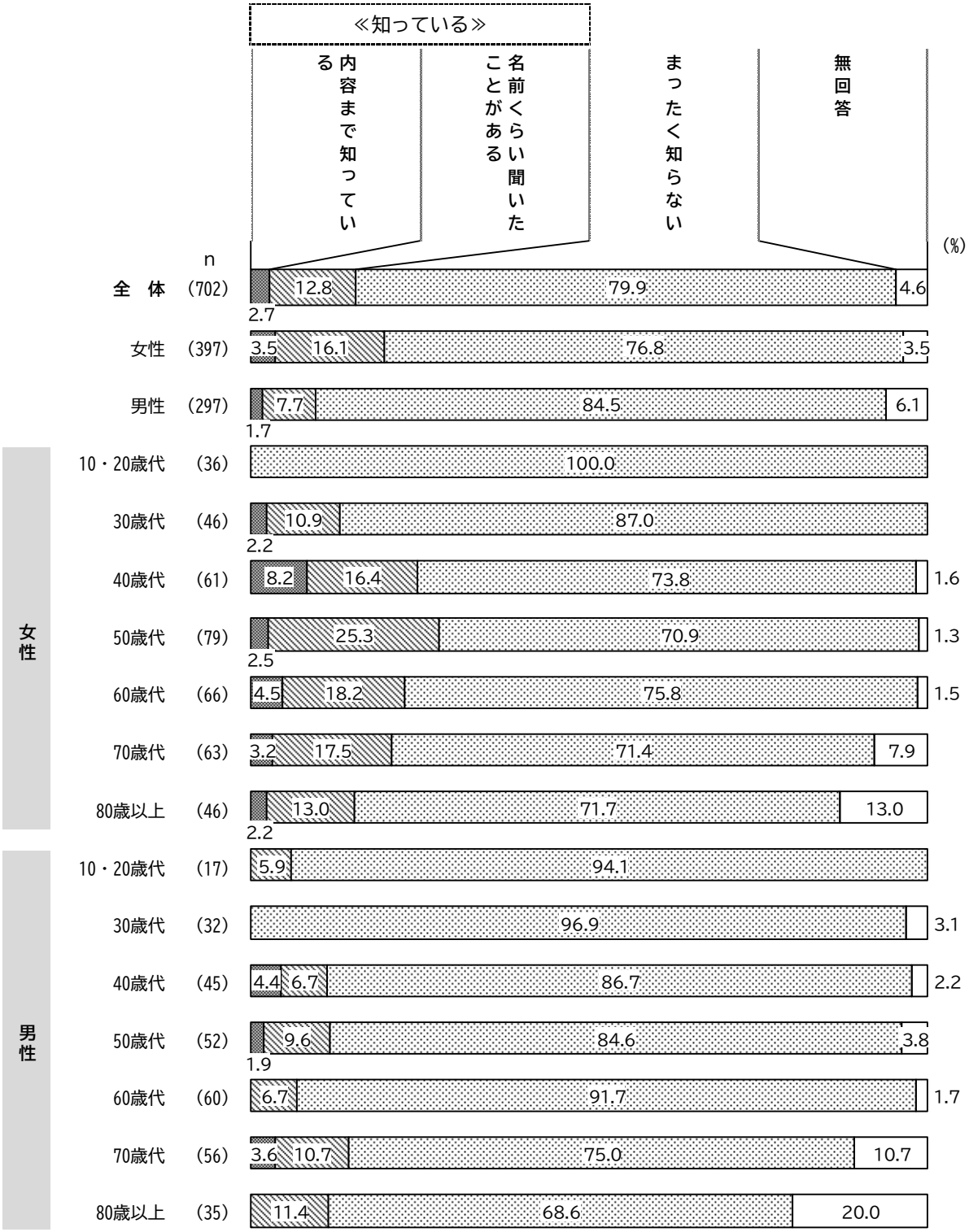
性・年代別にみると、女性の50歳代から70歳代で≪知っている≫が３割台となっており、全体より５から10ポイント程度上回っています。男女ともにすべての年代で「まったく知らない」が５割を超えており、女性10・20歳代、男性30歳代で８割台となっています。



（３）西東京市男女平等情報誌「パリテ」

性別にみると、≪知っている≫が女性は19.6％、男性は9.4％となっており、女性が男性を10.2ポイント上回っています。

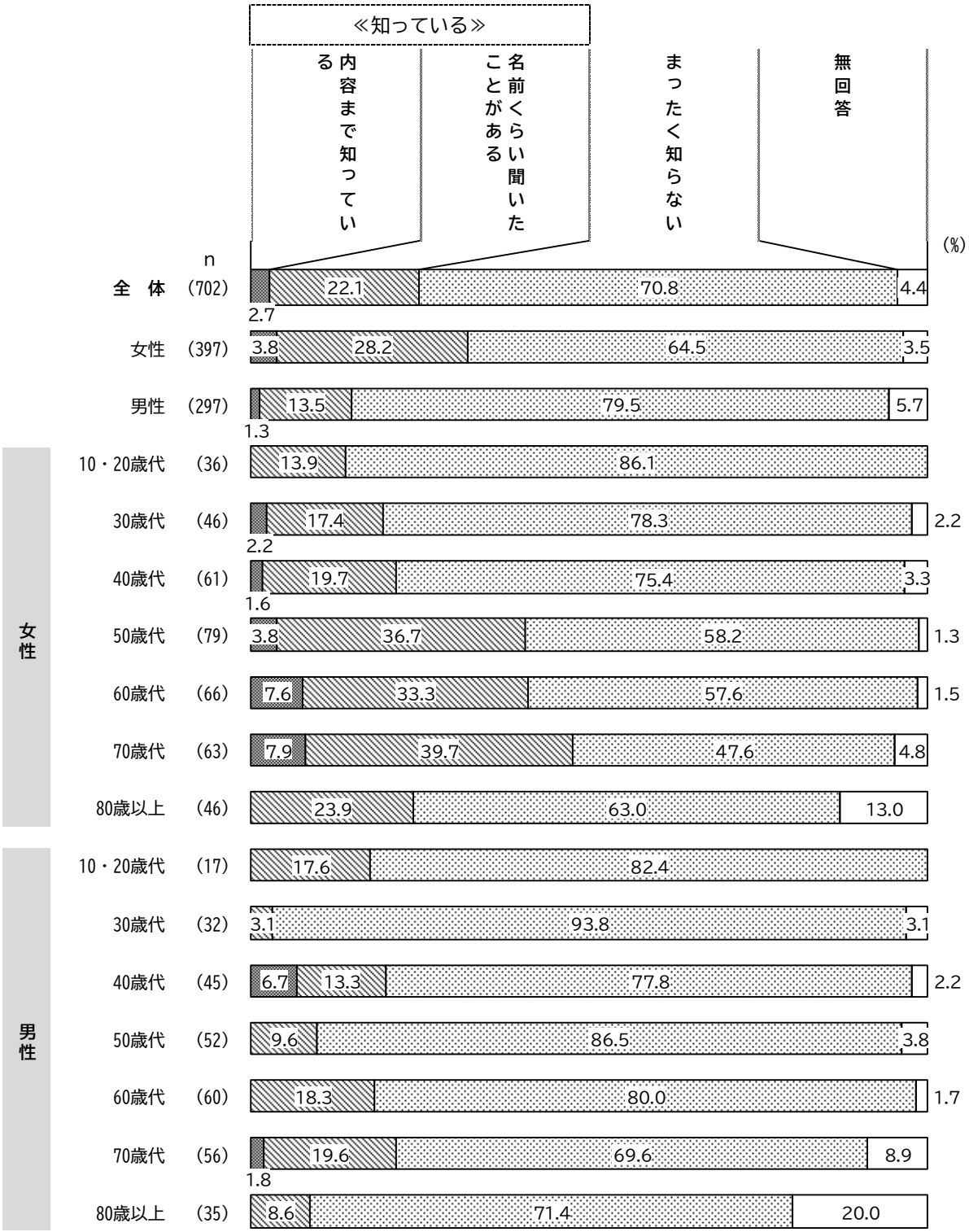
性・年代別にみると、女性の40歳代から70歳代で≪知っている≫が２割台となっており、全体より５から10ポイント程度上回っています。男女ともにすべての年代で「まったく知らない」が６割を超えており、女性の10・20歳代で100.0％、男性の30歳代と60歳代で９割台となっています。



（４）西東京市「女性相談」

性別にみると、≪知っている≫が女性は32.0％、男性は14.8％となっており、女性が男性を17.2ポイント上回っています。

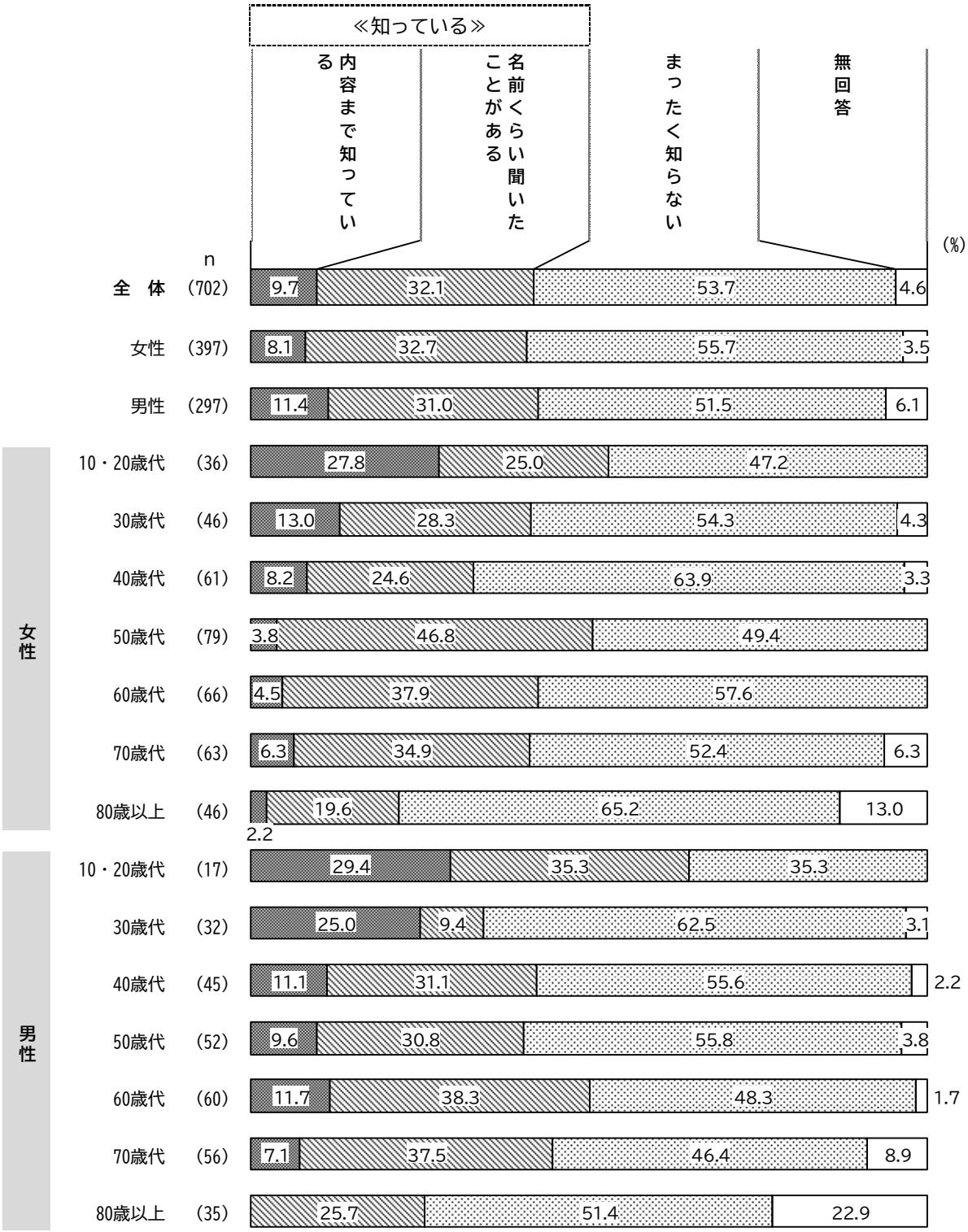
性・年代別にみると、女性では、50歳代から70歳代で≪知っている≫が４割台となっており、全体より15から20ポイント程度上回っています。男性では、すべての年代で「まったく知らない」が６割を超えており、30歳代で93.8％となっています。



（５）男女共同参画社会基本法

性別にみると、男女ともに≪知っている(女性：40.8%、男性：42.4%)≫が４割台となっています。

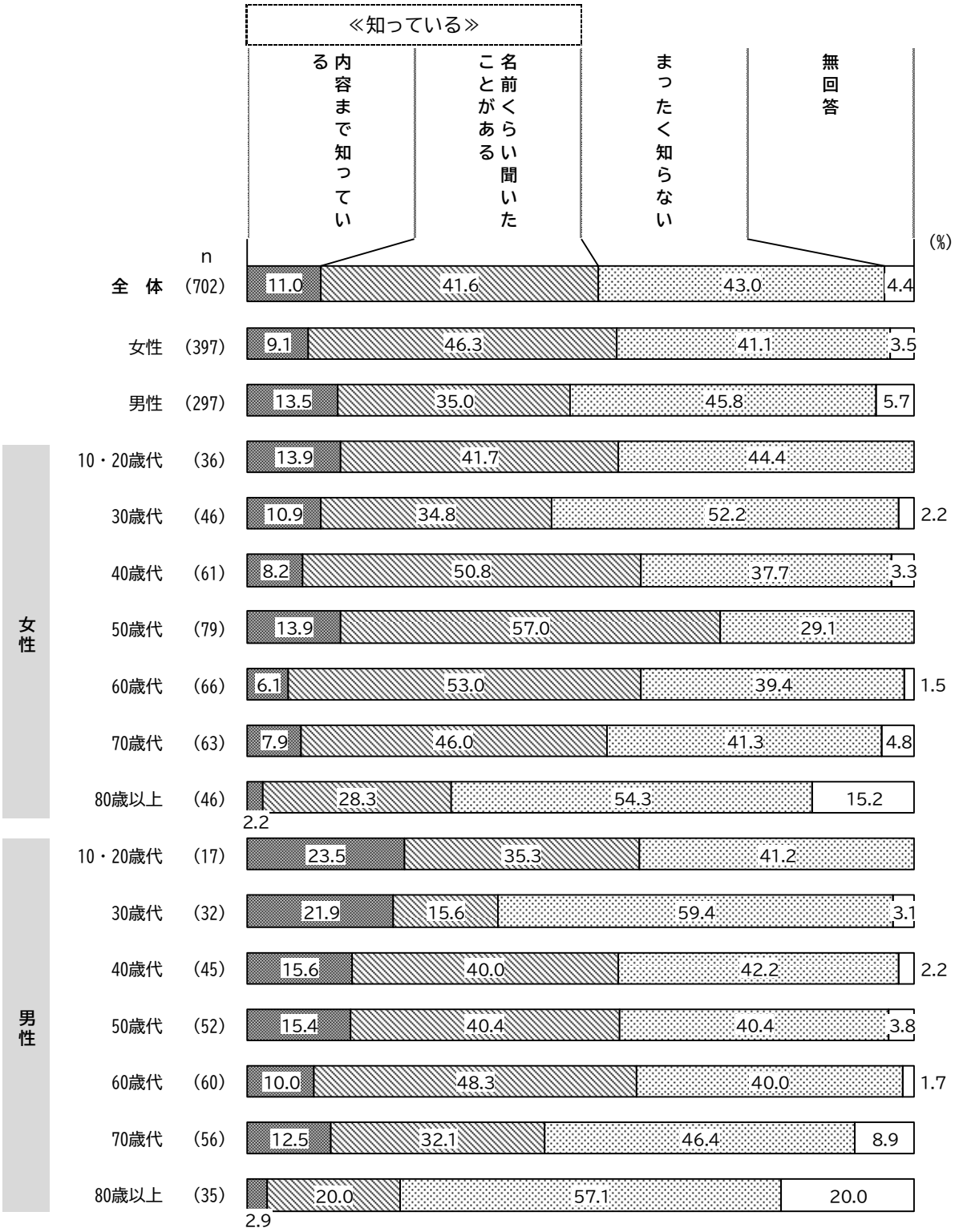
性・年代別にみると、女性の10・20歳代と50歳代、男性の60歳代で≪知っている≫が５割台となっており、全体より10ポイント程度上回っています。女性の40歳代と80歳以上、男性の30歳代で「まったく知らない」が６割台となっており、全体より10ポイント程度上回っています。



（６）配偶者暴力防止法（ＤＶ防止法）

性別にみると、≪知っている≫が女性は55.4%、男性は48.5%となっており、女性が男性を6.9ポイント上回っています。

性・年代別にみると、女性の50歳代で≪知っている≫が70.9%となっており、全体より18.3ポイント上回っています。男女ともに30歳代と80歳以上で「まったく知らない」が５割台となっており、全体より10から15ポイント程度上回っています。

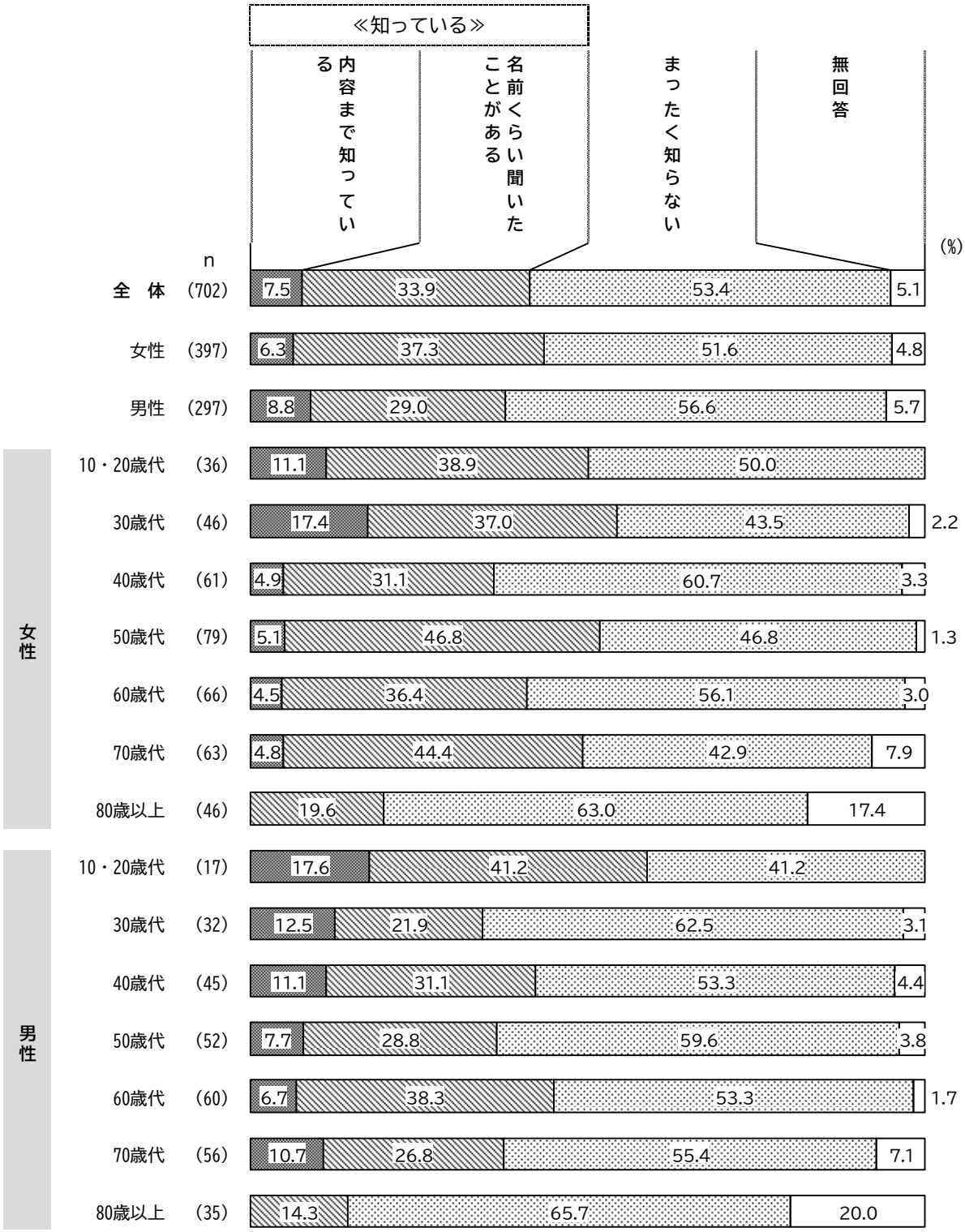


（７）女性活躍推進法

性別にみると、≪知っている≫が女性は43.6％、男性は37.8％となっており、女性が男性を5.8ポイント上回っています。

性・年代別にみると、女性では、10・20歳代、30歳代、50歳代で≪知っている≫が５割台となっており、全体より10ポイント程度上回っています。また、40歳代と80歳以上で「まったく知らない」が６割台となっています。

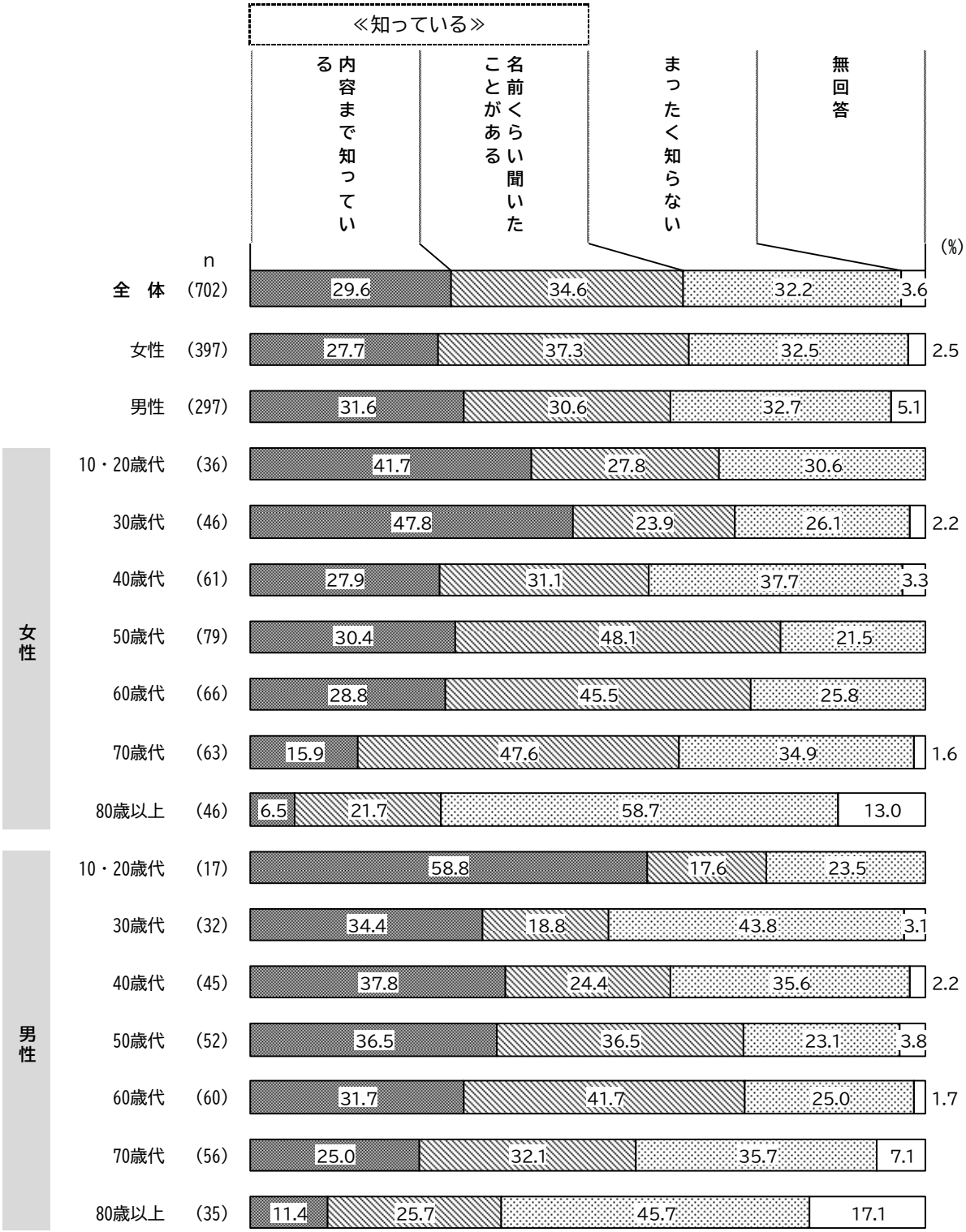
男性では、10・20歳代を除くすべての年代で「まったく知らない」が５割を超えており、30歳代と80歳以上で６割を超えています。



（８）ジェンダー（社会的・文化的に作られる性別）

性別にみると、男女ともに≪知っている(女性：65.0%、男性：62.2%)≫が６割台となっています。

性・年代別にみると、女性の30歳代、50歳代、60歳代、男性の50歳代、60歳代で≪知っている≫が７割台となっており、全体より10ポイント程度上回っています。女性では、80歳以上で「まったく知らない」が58.7%となっており、全体より26.5ポイント上回っています。男性では、30歳代と80歳以上で「まったく知らない」が４割台となっており、全体より10ポイント程度上回っています。



（２）男女平等参画を推進するために、学校教育の場で必要な対策

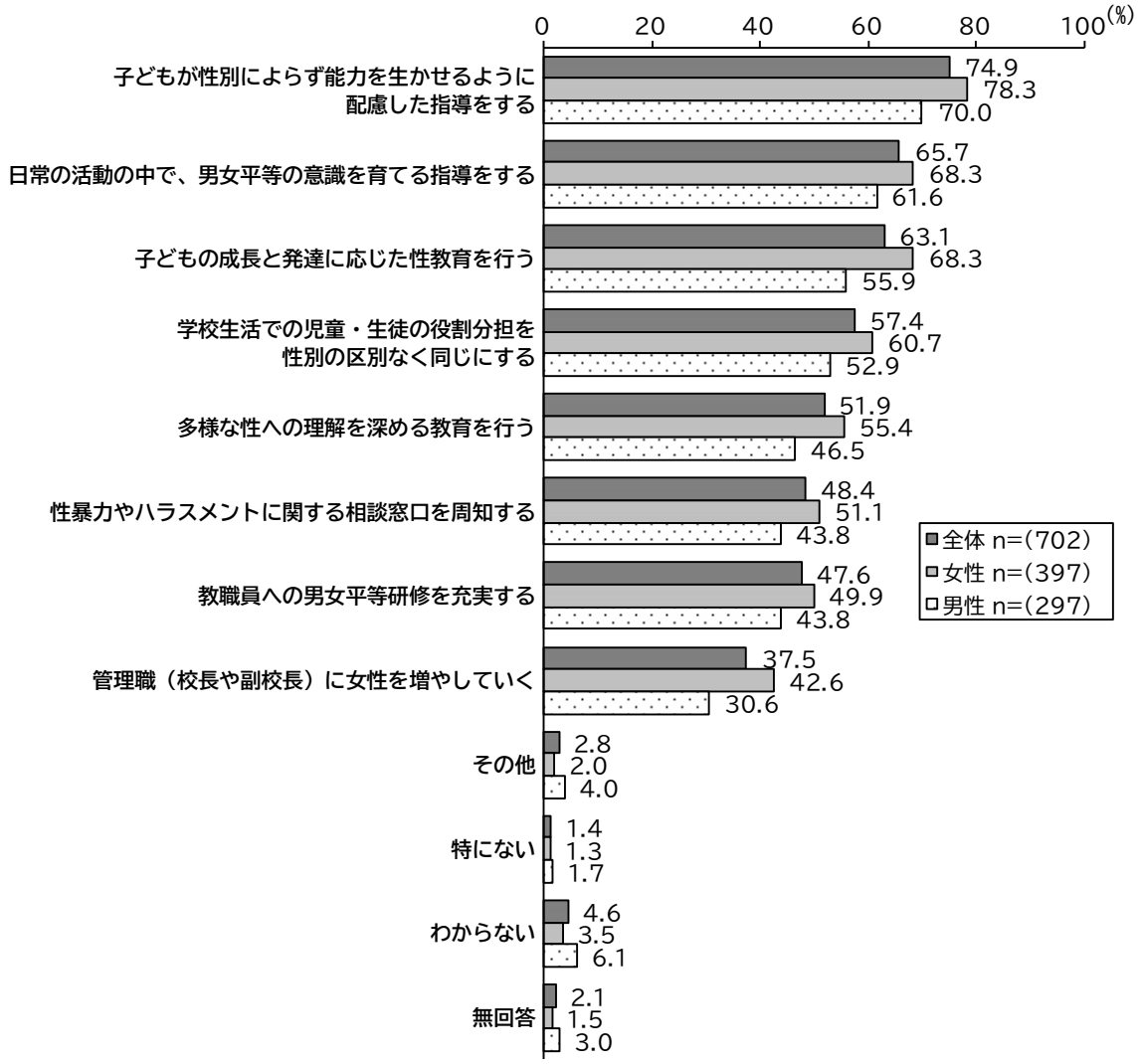
問29　男女平等参画を推進するためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れればよいと思いますか。（いくつでも○）

○「子どもが性別によらず能力を生かせるように配慮した指導をする」が最も多くなっている。

○「子どもの成長と発達に応じた性教育を行う」、「管理職（校長や副校長）に女性を増やしていく」は女性が男性を上回っている。

全体では、「子どもが性別によらず能力を生かせるように配慮した指導をする(74.9%)」が最も多く、「日常の活動の中で、男女平等の意識を育てる指導をする(65.7%)」、「子どもの成長と発達に応じた性教育を行う(63.1%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに上位３項目は全体と同じですが、女性は「子どもの成長と発達に応じた性教育を行う(女性：68.3%、男性：55.9%)」で男性を12.4ポイント上回っています。また、「管理職（校長や副校長）に女性を増やしていく(女性：42.6%、男性：30.6%)」でも男性を12.0ポイント上回っています。



■性・年代別

性・年代別にみると、男女ともに30歳代で「子どもの成長と発達に応じた性教育を行う」が最も多く、女性では８割台となっています。女性では、10・20歳代から50歳代で「子どもが性別によらず能力を生かせるように配慮した指導をする」が８割を超えています。また、30歳代で「多様な性への理解を深める教育を行う」が７割を超えています。

（単位:%）

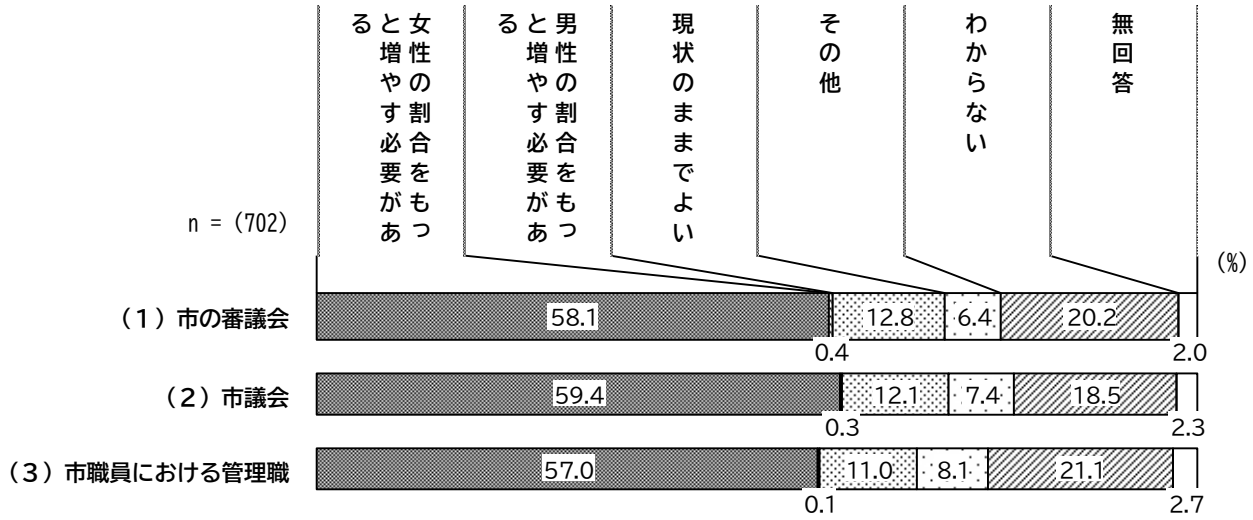
			回答者数（人）	子どもが性別によらず能力を生かせるように配慮した指導をする	日常の活動の中で、男女平等の意識を育てる指導をする	子どもの成長と発達に応じた性教育を行う	学校生活での児童・生徒の役割分担を性別の区別なく同じにする	多様な性への理解を深める教育を行う	性暴力やハラスメントに関する相談窓口を周知する	教職員への男女平等研修を充実する	管理職（校長や副校長）に女性を増やしていく	その他	特にない	わからない	無回答
全　体			702	74.9	65.7	63.1	57.4	51.9	48.4	47.6	37.5	2.8	1.4	4.6	2.1
性・年代別	女性	10・20歳代	36	86.1	66.7	66.7	58.3	58.3	58.3	55.6	55.6	2.8	2.8	2.8	－
		30歳代	46	80.4	65.2	82.6	54.3	71.7	56.5	58.7	45.7	4.3	－	－	－
		40歳代	61	83.6	70.5	70.5	60.7	50.8	50.8	37.7	31.1	1.6	－	－	－
		50歳代	79	81.0	72.2	69.6	65.8	63.3	63.3	50.6	46.8	2.5	－	3.8	－
		60歳代	66	75.8	63.6	66.7	62.1	57.6	54.5	51.5	45.5	1.5	3.0	4.5	3.0
		70歳代	63	79.4	76.2	68.3	58.7	57.1	42.9	52.4	41.3	1.6	－	3.2	3.2
		80歳以上	46	60.9	58.7	52.2	60.9	23.9	26.1	45.7	34.8	－	4.3	10.9	4.3
	男性	10・20歳代	17	76.5	58.8	64.7	64.7	64.7	52.9	58.8	29.4	11.8	－	5.9	－
		30歳代	32	53.1	50.0	56.3	37.5	43.8	34.4	43.8	21.9	12.5	－	－	6.3
		40歳代	45	75.6	68.9	62.2	46.7	51.1	53.3	44.4	33.3	6.7	－	4.4	－
		50歳代	52	78.8	59.6	57.7	63.5	50.0	42.3	36.5	32.7	－	3.8	5.8	－
		60歳代	60	73.3	65.0	50.0	56.7	55.0	41.7	45.0	31.7	3.3	5.0	3.3	1.7
		70歳代	56	67.9	67.9	60.7	51.8	41.1	41.1	53.6	33.9	1.8	－	10.7	1.8
		80歳以上	35	60.0	51.4	42.9	48.6	22.9	45.7	28.6	25.7	－	－	11.4	14.3

（３）市の審議会と市議会、市職員における管理職の女性の割合についての考え

問30　西東京市では、令和４年４月１日現在、市の審議会における女性委員の割合は31.6%、市議会における女性議員の割合は25.9%、市職員における管理職のうち女性の割合は22.0%となっています。あなたはこの数字について、それぞれどのように思いますか。

○『市議会』、『市の審議会』、『市職員における管理職』で「女性の割合をもっと増やす必要がある」がいずれも過半数を占めている。

全体では、『市議会(59.4%)』、『市の審議会(58.1%)』、『市職員における管理職(57.0%)』で「女性の割合をもっと増やす必要がある」がいずれも過半数となっています。一方、「男性の割合をもっと増やす必要がある」はいずれの分野も１%未満、「現状のままでよい」はいずれの分野も１割台となっています。



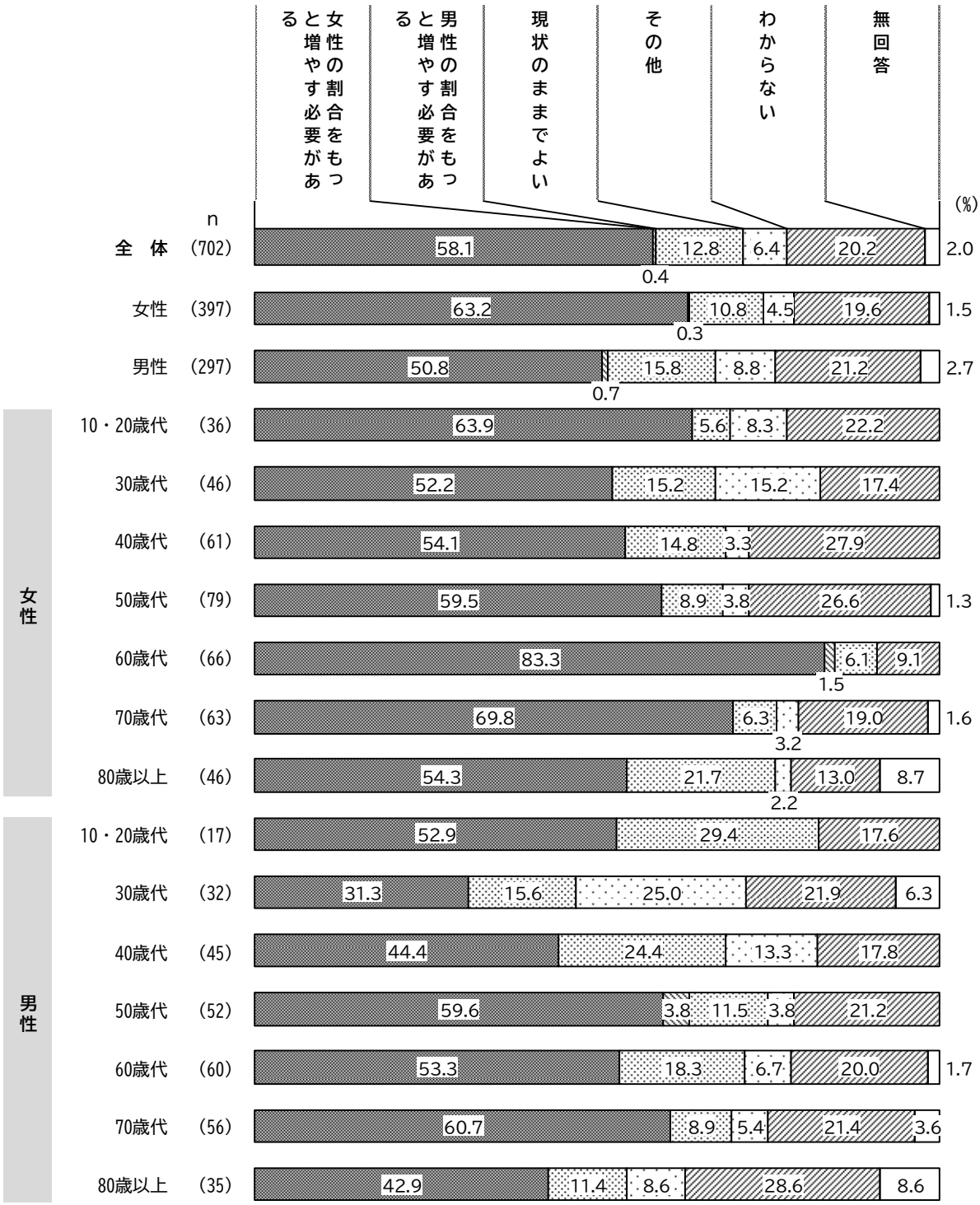
■性別、性・年代別

（１）市の審議会

性別にみると、男女ともに「女性の割合をもっと増やす必要がある(女性：63.2%、男性：50.8%)」が最も多くなっており、女性が男性を12.4ポイント上回っています。

性・年代別にみると、女性では、すべての年代で「女性の割合をもっと増やす必要がある」が５割を超えており、特に60歳代で83.3%と最も多くなっています。

男性では、50歳代から70歳代で「女性の割合をもっと増やす必要がある」が５割を超えていますが、「現状のままでよい」が40歳代で24.4%、60歳代で18.3%と多くなっています。

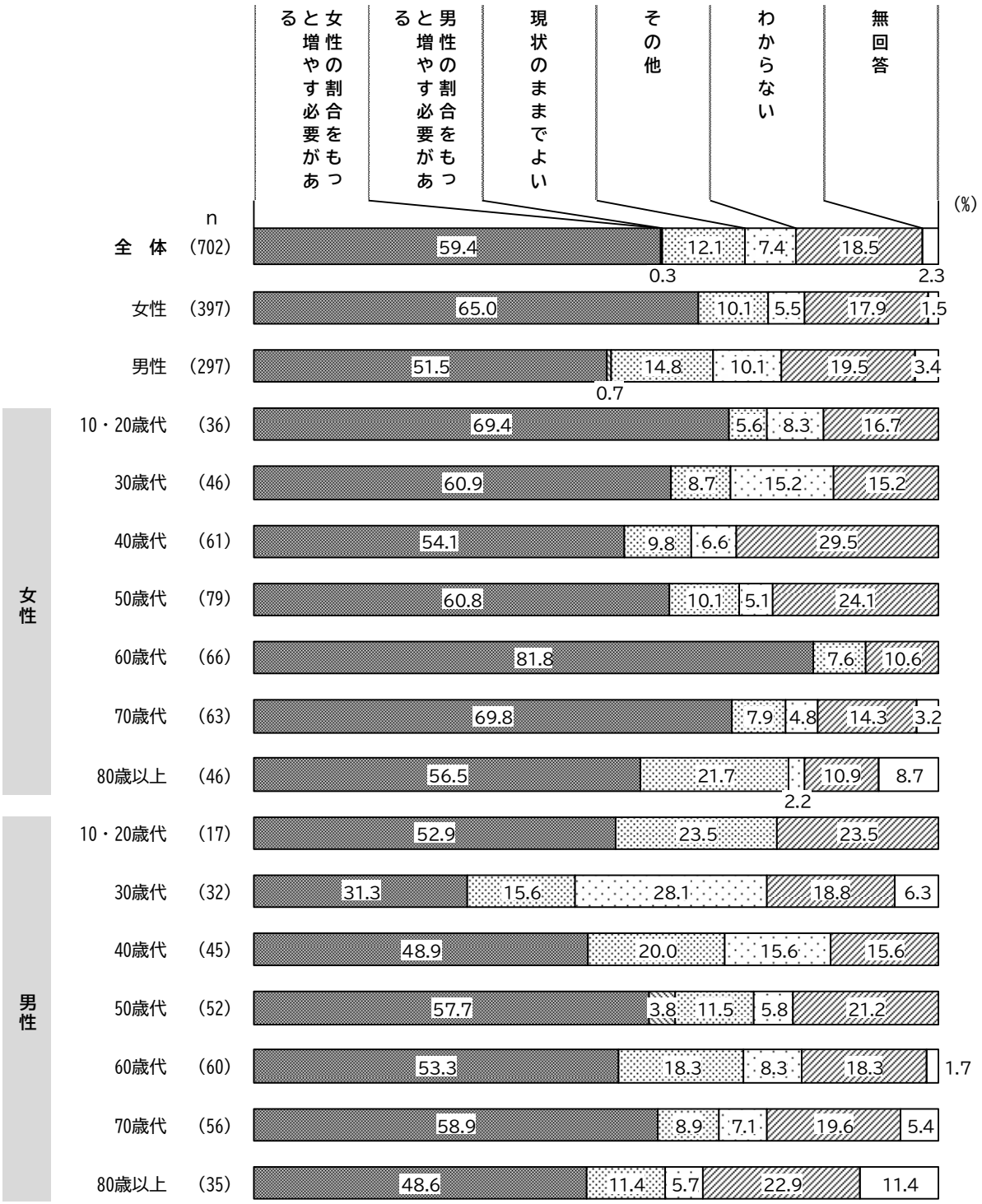


（２）市議会

性別にみると、男女ともに「女性の割合をもっと増やす必要がある(女性：65.0％、男性：51.5％)」が最も多くなっており、女性が男性を13.5ポイント上回っています。

性・年代別にみると、女性では、すべての年代で「女性の割合をもっと増やす必要がある」が５割を超えており、特に60歳代の81.8％で最も多くなっています。

男性では、50歳代から70歳代で「女性の割合をもっと増やす必要がある」が５割を超えていますが、「現状のままでよい」が40歳代で20.0％、60歳代で18.3％と多くなっています。

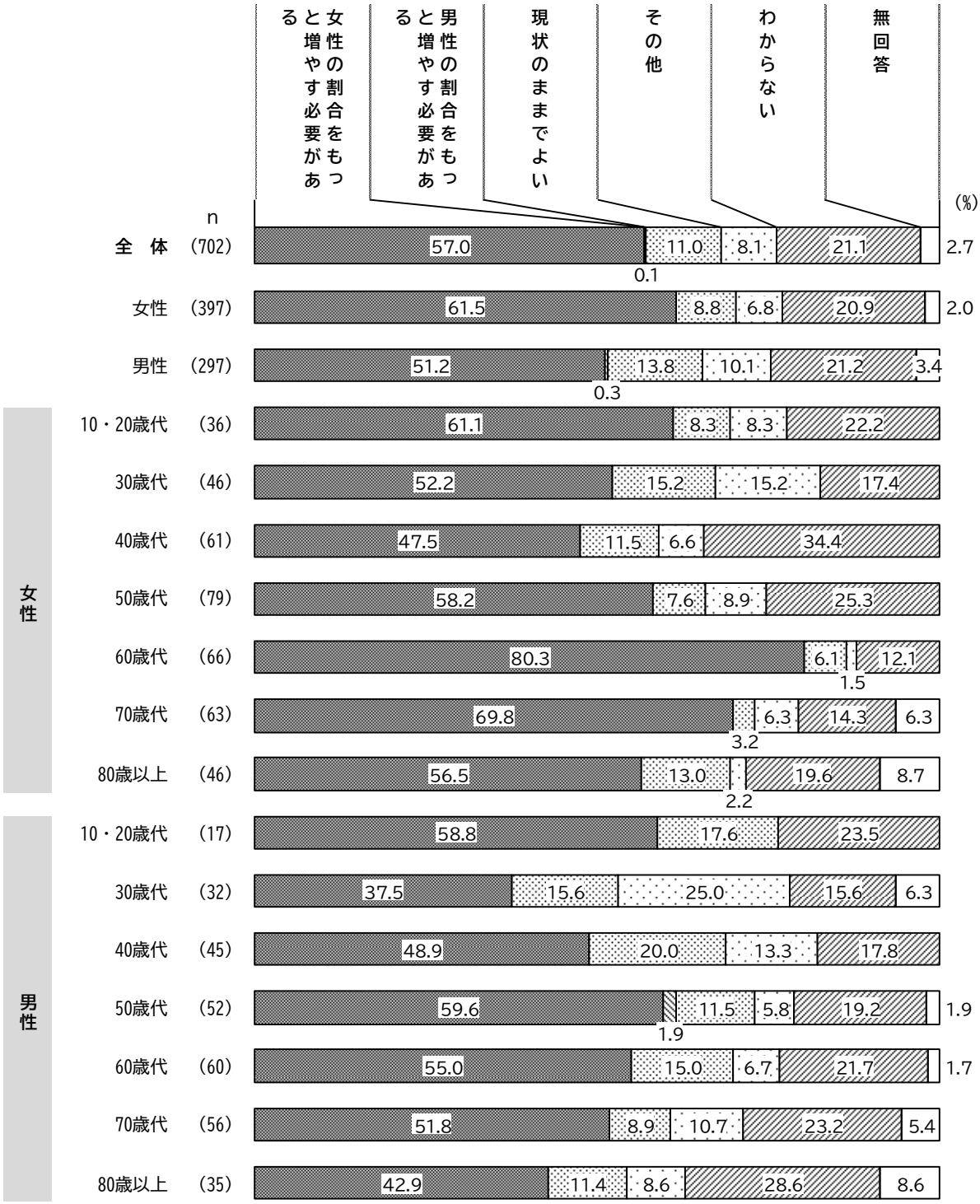


（３）市職員における管理職

性別にみると、男女ともに「女性の割合をもっと増やす必要がある(女性：61.5%、男性：51.2%)」が最も多くなっており、女性が男性を10.3ポイント上回っています。

性・年代別にみると、女性では、40歳代を除くすべての年代で「女性の割合をもっと増やす必要がある」が５割を超えており、特に60歳代の80.3%で最も多くなっています。

男性では、50歳代から70歳代で「女性の割合をもっと増やす必要がある」が５割を超えていますが、「現状のままでよい」が40歳代で20.0%と多くなっています。



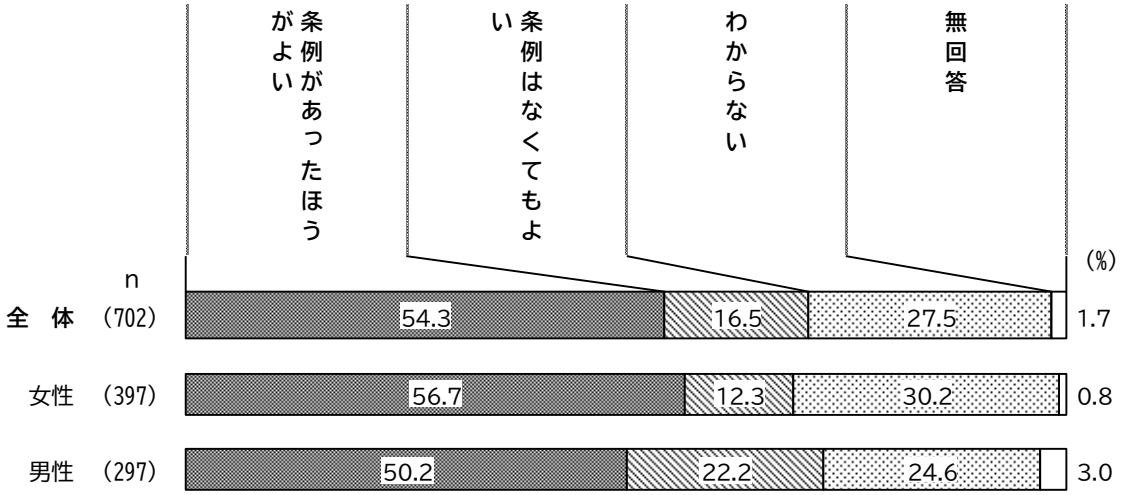
（４）男女平等推進条例制定についての意向

問31　西東京市では、男女平等参画推進計画において、「一人ひとりが自分らしく自立し、いきいきと個性と能力を発揮できる社会をめざす」を基本理念に掲げ、男女平等参画のまちづくりに取り組んでいます。一方で、こうした計画に加え、男女平等参画条例（基本理念や市民・事業主との責務などを定めたもの）を制定して、独自の取組を進めていくことについてどのように思いますか。（１つに○）

○「条例があったほうがよい」が「条例はなくてもよい」を大幅に上回っている。
○「条例はなくてもよい」は男性が女性を上回っている。

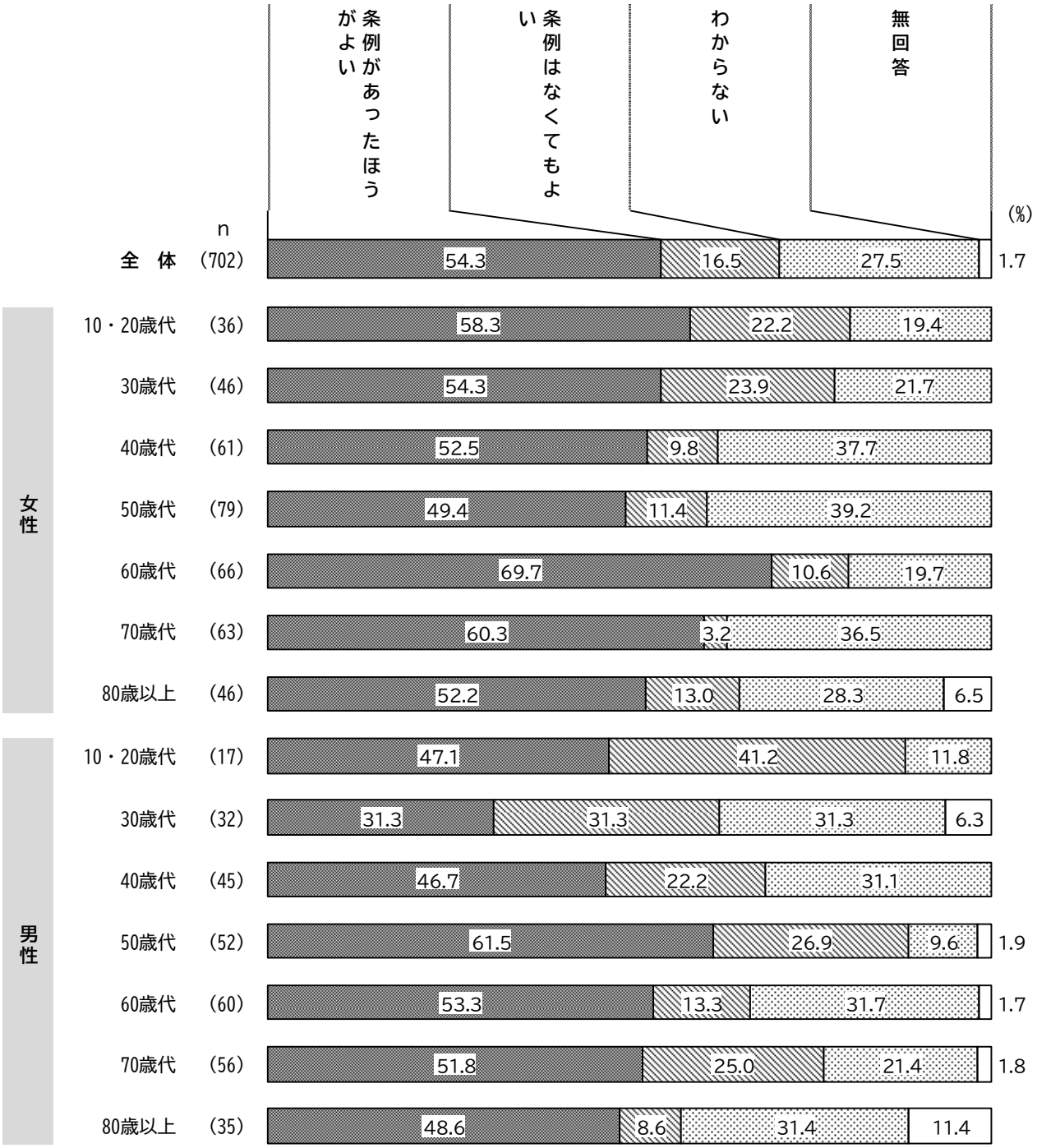
全体では、「条例があったほうがよい(54.3%)」が「条例はなくてもよい(16.5%)」を37.8ポイントと大幅に上回っています。

性別にみると、男女ともに「条例があったほうがよい(女性：56.7%、男性：50.2%)」が過半数を占めています。「条例はなくてもよい」が女性は12.3%、男性は22.2%となっており、男性が女性を9.9ポイント上回っています。



■性・年代別

性・年代別にみると、女性では、50歳代を除くすべての年代で「条例があったほうがよい」が５割を超えており、特に60歳代の69.7％で最も多くなっています。男性では、50歳代から70歳代で「条例があったほうがよい」が５割を超えています。男性の30歳代で「条例はなくてもよい」が31.3％と多くなっています。



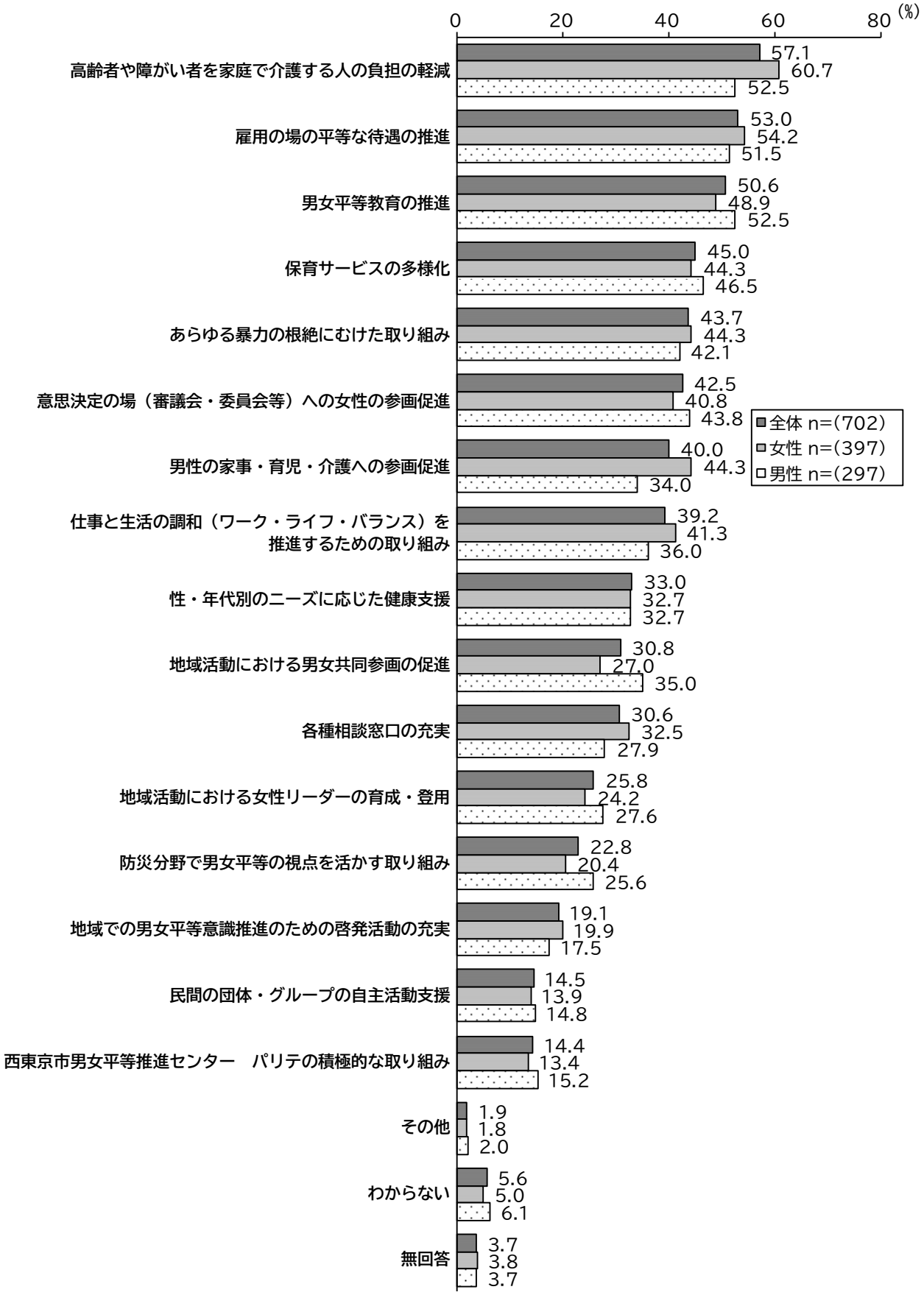
（５）西東京市が特に力を入れていくべき男女平等参画施策

問32　男女平等をめざした以下の取り組みのうち、西東京市が特に力を入れていくべきだと思うものはどれですか。（いくつでも○）

○「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減」が最も多く、女性が男性を上回っている。

全体では、「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減(57.1%)」が最も多く、「雇用の場の平等な待遇の推進(53.0%)」、「男女平等教育の推進(50.6%)」が続いています。

性別にみると、男女ともに順位の入れ替わりはあるものの上位３項目は全体と同じです。女性では「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減」が60.7%と最も多く、次いで「雇用の場の平等な待遇の推進(54.2%)」、「男女平等教育の推進(48.9%)」となっており、「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減」は女性が男性（52.5%）を8.2ポイント上回っています。男性では「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減」、「男女平等教育の推進」がいずれも52.5%と多く、次いで、「雇用の場の平等な待遇の推進(51.5%)」、「保育サービスの多様化(46.5%)」となっています。「男性の家事・育児・介護への参画促進」は女性（44.3%）が男性(34.0%）を10.3ポイント上回っています。


0
20
40
60
80
(%)
高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減
57.1
60.7
52.5
雇用の場の平等な待遇の推進
53.0
54.2
51.5
男女平等教育の推進
50.6
48.9
52.5
保育サービスの多様化
45.0
44.3
46.5
あらゆる暴力の根絶にむけた取り組み
43.7
44.3
42.1
意思決定の場（審議会・委員会等）への女性の参画促進
42.5
40.8
43.8
男性の家事・育児・介護への参画促進
40.0
44.3
34.0
仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するための取り組み
39.2
41.3
36.0
性・年代別のニーズに応じた健康支援
33.0
32.7
32.7
地域活動における男女共同参画の促進
30.8
27.0
35.0
各種相談窓口の充実
30.6
32.5
27.9
地域活動における女性リーダーの育成・登用
25.8
24.2
27.6
防災分野で男女平等の視点を活かす取り組み
22.8
20.4
25.6
地域での男女平等意識推進のための啓発活動の充実
19.1
19.9
17.5
民間の団体・グループの自主活動支援
14.5
13.9
14.8
西東京市男女平等推進センター　パリテの積極的な取り組み
14.4
13.4
15.2
その他
1.9
1.8
2.0
わからない
5.6
5.0
6.1
無回答
3.7
3.8
3.7
全体 n=(702)
女性 n=(397)
男性 n=(297)

■性・年代別

性・年代別にみると、女性では、10・20歳代と30歳代で「保育サービスの多様化」、30歳代で「男性の家事・育児・介護への参画促進」、40歳代から70歳代で「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減」、80歳以上で「男女平等教育の推進」が５割を超えて最も多くなっています。

男性では、30歳代と40歳代で「保育サービスの多様化」、40歳代、50歳代、70歳代で「男女平等教育の推進」、60歳代と80歳以上で「高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減」が５割を超えて最も多くなっています。

（単位:%）

			回答者数（人）	高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減	雇用の場の平等な待遇の推進	男女平等教育の推進	保育サービスの多様化	あらゆる暴力の根絶にむけた取り組み	意思決定の場（審議会・委員会等）への女性の参画促進	男性の家事・育児・介護への参画促進	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するための取り組み	性・年代別のニーズに応じた健康支援	地域活動における男女共同参画の促進
全　体			702	57.1	53.0	50.6	45.0	43.7	42.5	40.0	39.2	33.0	30.8
性・年代別	女性	10・20歳代	36	47.2	47.2	44.4	52.8	41.7	47.2	47.2	41.7	33.3	19.4
		30歳代	46	39.1	39.1	43.5	63.0	32.6	39.1	63.0	56.5	15.2	15.2
		40歳代	61	70.5	59.0	44.3	41.0	57.4	34.4	39.3	54.1	41.0	23.0
		50歳代	79	65.8	55.7	51.9	38.0	48.1	41.8	44.3	44.3	41.8	26.6
		60歳代	66	68.2	63.6	47.0	48.5	47.0	40.9	40.9	37.9	33.3	30.3
		70歳代	63	71.4	63.5	55.6	46.0	46.0	46.0	52.4	31.7	31.7	39.7
		80歳以上	46	45.7	39.1	52.2	26.1	28.3	37.0	23.9	21.7	23.9	28.3
	男性	10・20歳代	17	47.1	52.9	47.1	58.8	52.9	35.3	41.2	47.1	41.2	11.8
		30歳代	32	31.3	34.4	25.0	56.3	40.6	28.1	43.8	43.8	34.4	21.9
		40歳代	45	42.2	46.7	51.1	51.1	35.6	33.3	33.3	40.0	26.7	28.9
		50歳代	52	57.7	55.8	63.5	46.2	38.5	61.5	34.6	40.4	30.8	40.4
		60歳代	60	65.0	56.7	53.3	48.3	48.3	50.0	31.7	35.0	36.7	43.3
		70歳代	56	50.0	53.6	58.9	44.6	48.2	41.1	26.8	32.1	33.9	35.7
		80歳以上	35	62.9	54.3	54.3	25.7	31.4	42.9	37.1	20.0	28.6	42.9

			回答者数（人）	各種相談窓口の充実	地域活動における女性リーダーの育成・登用	防災分野で男女平等の視点を活かす取り組み	地域での男女平等意識推進のための啓発活動の充実	民間の団体・グループの自主活動の支援	西東京市男女平等推進センター パリテの積極的な取り組み	その他	わからない	無回答
全　体			702	30.6	25.8	22.8	19.1	14.5	14.4	1.9	5.6	3.7
性・年代別	女性	10・20歳代	36	19.4	22.2	33.3	13.9	11.1	16.7	－	11.1	－
		30歳代	46	28.3	30.4	10.9	13.0	6.5	6.5	4.3	4.3	－
		40歳代	61	21.3	13.1	11.5	19.7	9.8	4.9	1.6	1.6	1.6
		50歳代	79	38.0	22.8	24.1	20.3	12.7	13.9	3.8	3.8	1.3
		60歳代	66	40.9	27.3	25.8	24.2	22.7	22.7	－	1.5	4.5
		70歳代	63	41.3	30.2	20.6	23.8	15.9	14.3	－	3.2	4.8
		80歳以上	46	28.3	23.9	17.4	19.6	15.2	13.0	2.2	15.2	15.2
	男性	10・20歳代	17	23.5	11.8	29.4	23.5	17.6	17.6	－	－	－
		30歳代	32	12.5	15.6	28.1	9.4	6.3	6.3	3.1	3.1	6.3
		40歳代	45	17.8	26.7	26.7	13.3	15.6	4.4	－	4.4	2.2
		50歳代	52	26.9	30.8	25.0	21.2	19.2	13.5	－	9.6	－
		60歳代	60	36.7	26.7	23.3	21.7	13.3	16.7	1.7	6.7	5.0
		70歳代	56	35.7	32.1	26.8	17.9	16.1	28.6	3.6	8.9	3.6
		80歳以上	35	31.4	37.1	22.9	14.3	14.3	14.3	5.7	2.9	8.6

（６）市の男女平等に向けての取り組みへの意見（自由記述）

問33　西東京市の男女平等に向けての取り組みについてご意見がございましたら、
自由にご記入ください。

西東京市の男女平等に向けての取組について意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、107人の方から延べ116件の回答をいただきました。いただいた回答の中からアンケート調査の大項目に沿って分類し、件数とともにまとめています。

分　類	内　容	件　数	
男女平等参画の意識	性別にこだわるのではなく、性差を考慮し相互に理解しあう	8	20件
	社会の意識改革、気運の醸成	6	
	女性にだけ焦点をあてるのではなく、個人個人の平等を考えるべき	4	
	過度に平等を求めるのは逆効果になりかねない	2	
家庭生活	保育・介護施設等の充実	7	7件
仕事と生活の調和（W. L. B. ）	働く母親の仕事との両立支援	2	2件
女性の活躍	その他の女性の活躍への意見	4	4件
性の多様性	誰もが多様性を認め合い社会・環境を望む	2	6件
	行き過ぎた取組をしないでほしい	2	
	その他の多様性への意見（各1）	2	
地域・防災	女性目線での防災への取組を願う	2	4件
	子育て地域活動に関する意見（各1）	2	
男女平等参画推進のために必要な策	幼い頃からの教育、学校教育が重要	7	46件
	積極的なPR、情報提供が必要	7	
	まずは市が男女構成比率の実現すべき	7	
	市職員等の育成、意識改革が必要	5	
	男女の比率より個人の能力や適性を優先すべき	3	
	市の取組は良い	2	
	その他の取組に関する意見	15	
その他	理想・希望する社会の実現	4	23件
	今回のアンケートに対する意見	10	
	男女平等よりも優先することがある	9	
	その他	4	4件
計		116件	

以下、寄せられた回答の中からご意見を抜粋しました。

男女平等参画の意識（20件）

〔性別にこだわるのではなく、性差を考慮し相互に理解しあう〕（８件）

・男女平等は理想ですが、持って生まれた質が違うのでどうしても女性の出来無い事、また、女性だからできる事もあると思います。性別にこだわらず、どちらでもいつでも関われる環境が整える事で、やりたい方が男女に関わらず、やりたい事ができ、参加できる様になるのではと思います。（女性／50 歳代）

・男女とも歴然とした違いがある。その違いを認め人間として尊重しあう社会が一番。それを何事も平等の名のもと（美化）する考え方には疑問が生じる。計算の速い人、文字を記憶するのに優れた人、そこに差異があっても仕方がないのと同様、男・女による差異は当然ある。その差異を差別化する必要はない。しかし、何事も平等というのは違和感を覚える。（男性／80 歳以上）

・性別は人間という動物である限りあるもの、そして考え方、意識、体も根本的に違う。重要なのはお互いが各性別を尊重し各自得意なことをすればいい。その結果、ある仕事で必ずしも人間比が 50/50 にならなくても良いのではないかと思う。得意な人が実力を男女関係なく発揮できる社会を作ることが重要。（男性／50 歳代）

〔社会の意識改革、気運の醸成〕（６件）

・育児にしろ介護にしろ、社会全体（日本人）の考え方が変わる必要があると思います。例に挙げると、保育園でも学校でも子供に関わる事は基本的に母親が通常参加である事が多いです。それは配偶者の意識の欠如、両親世代の考え方、学校など地域社会の風土、配偶者もしくは自分の会社の問題など全てにおいてです。結婚して子育てする中で特に強く感じるようになりました。 自治体が積極的に働きかけることで世の中が少しでも変わる事を期待したいです。（女性／30 歳代）

・年配者ほど、男女平等の意識が低いと思うので、教育する場が必要。（女性／60 歳代）

・１人１人の個性が尊重され、みんなが認め会い、能力を発揮する事。女性だから、男性だからなど考えを少しずつ変えていくしかないと思います。また、社会全体においても少しずつ時間をかけて、変えていくしかないと思っています。（女性／70 歳代）

〔女性のことだけではなく、男性も含む個人個人の平等を考えるべき〕（４件）

・男性でも、家庭や職場で様々なハラスメントを受けている方もいると思います。女性だけにフォーカスするのではなく、どのような性別でも利用、相談できるサービスを周知すると良いと思います。性別によらず、個人が尊重され、生きやすい社会になることを願います。（女性／30 歳代）

・弱者は女性だけではない。男性の弱者を見落さない様に。（男性／80 歳以上）

〔過度に平等を求めるのは逆効果になりかねない〕（２件）

・体力、能力、身体の作り等のちがいありますので、何んでも平等平等にしなくても良いと思います。無理に平等にすると、不満が両方から出ますので税金使ってすることがもっと他にあると思います。無駄なコミュニティ助成金の見直し、かなり見直す必要があると思います。（女性／70 歳代）

家庭生活（７件）

〔保育・介護施設等の充実〕（７件）

・母が祖母の介護をするのを日頃見ていて、仕事をしながら介護をするのはとても大変だと感じます。母は自分の時間が少なく、休めない為、無料や安く泊まれる介護施設を作ってほしいです。(経済的に今の介護施設は高く、入れられない)母のストレスや疲労が溜まる一方で母の体調が心配です。（女性／30 歳代）

・就業状況に関わらず、望めば誰でも子どもを保育園に預けられる社会になってほしいです。（女性／30 歳代）

・女性の育休は産後の体を休める為でもあると思う。だが、保育園に入園できるか分からない状況では、入園通知が来るまではストレスを抱えることとなる。実際、今、申込をしているところだが、これで落ちてしまったら、生活は一変することとなってしまう。希望する保育園に希望する時期に入れるという確約がない中で共働きという形で生活していくのは辛いです。（男性／20 歳代）

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）（２件）

〔働く母親の仕事との両立支援〕（２件）

・来年出産を控えているので、乳幼児を持つ母親の仕事の両立支援に力を入れてくれると嬉しいです。また、ファミリー学級を実施してくれるのは大変有り難いのですが、母親のみ参加の日(二日間のうち一日目)が土曜ではなく平日に行われるのが少し差別的だと感じました。妊婦面談、母子手帳交付も平日のみだったかと思います。働く母親としては、土曜開庁日の充実を求めます。（女性／30 歳代）

女性の活躍（４件）

〔その他の女性の活躍への意見（４件)〕

・議員数や職員数など無理に 50／50 にする必要はないですが、女性がより立候補したり他薦したりできる環境づくりはすすめてほしいとおもいます。（男性／40 歳代）

・男女平等については、かなり前から主張されていると思う。そのおかげか、女性を自由に社会へ参画すべきだという「意識」は比較的浸透してきているように思う。一方で、実際職場の制度として男女平等でない場合が多い気がする。そのため、基本的に制度そのものの改善を中心にしていくといいと思う。（男女平等の意識向上よりも）（男性／20 歳代）

性の多様性（６件）

〔誰もが多様性を認め合い社会・環境を望む〕（２件）

・人生 100 年時代、とりまく情勢の変化に対応できるよう、多様化する中で、互いの特性を生かし、共に責任を担い、「基本理念」実現に向けて更なる施策、普及活動への必要性を感じます。将来的には、性別、国籍、年令などが関わりなく共存できる「ダイバーシティ社会」が到来することを願います。（女性／70 歳代）

〔行き過ぎた取組にならないようにしてほしい〕（２件）

・基本的に平等・公平への取り組みは良いと思う。ただし「気付いたらマイノリティ優偶でマジョリティが困らされていた」という状況は避けて欲しい。また、弱者の意見は拾うべきだが、「男女関係なく努力不足の自業自得」まで被害者面で訴えてきている内容は分別して対応、検討してほしい。（男性／40 歳代）

〔その他の多様性への意見〕（２件）

・生物学的に男女差は明らかにあり、それを前提とした現行法制度は（家族・育児保護等）は、しっかり維持すべき。ＬＧＢＴ者の個人的権利保護は尊重しても、同性婚を異性婚と同等に認めるべきではない。（憲法第 24 条、婚姻は両性の合意のみに基づいて成立し、市はこれをふまえたうえで、男女平等施策を進めていただきたい。）（男性／70 歳代）

地域・防災（４件）

〔女性目線での防災への取組を願う〕（２件）

・災害時、避難所で女性の生理用品などの必要性など（どのくらい数を使うのか等）知識のない男性職員が役割を担っていて、いざその時になりとても困ったという話を聞くと、広いジャンルでの意見をとりいれて男女・ジェンダーの方の意見を平等に活用していってほしい。（女性／20 歳代）

〔子育て地域活動に関する意見〕（２件）

・ワーク・ライフ・バランスに関しても、子を持つ世帯は、仕事と家庭が第一で、地域が大事と思いつつ、現実は不参加が多い。高齢者を地域で活用し、巻き込んでいけば、手の足りない世帯に余裕ができ、意識が変化するのでは、と思う。（例えば子を持つ親が、予約無しでも、子を預けられる場が有るとか）（女性／60 歳代）

男女平等参画推進のために必要な施策（46件）

〔幼い頃からの教育、学校教育が重要〕（７件）

・男女平等は男だから女だからでなく、個人の人格によると思う。小さい時からの家庭、学校の教育で徳、体力、知力を育てれば、行政で考える事は無いと考えます。（女性／80 歳以上）

・男女が平等に動けるために女性が担っている家事や育児を平等にやっていける様な考え方を小さい頃から学ぶ必要があると思う。男性・女性それぞれが違いを理解して適材適所で女性が活躍できると良いと思う。（女性／70 歳代）

・男性、女性がやった方がいいこともある。なんでもかんでも平等にするのはどうなのかと思う。男性がやった方がいいことをやる女性をとやかく言う世の中。育児をする男性をとやかく言う世の中。これが今の世の中にふさわしくないのであるから、このあたりの教育が必要。周りを見ていると、まだまだ「亭主厨房に入らず」と言う男が多い。親が親なら子も子である。それを認める女性もいる。それを見て育つ子は、大人になったらそうなる。そのためには、社会と学校での教育が必要である。一番大切な家庭での教育に期待できないのだから。（男性／40 歳代）

〔積極的なＰＲ、情報提供が必要〕（７件）

・市が取組む又は取組んでいる政策をもっと広報または市ホームページ等で PR して欲しい。（男性／70 歳代）

・このアンケートで、何がしかの取り組みをしていることを知ったほどなので、取り組みの存在感がほとんどない。もう少し、積極的に取り組んでも良いのではないか。（男性／40 歳代）

〔まずは市が男女構成比率の実現すべき〕（７件）

・男女平等というなら市自ら比率を平等にし、市民にアピールしていく方が良いと思う。平等と言いつつ市議等の比率が均等でないのは信憑性に欠けるので。（女性／50 歳代）

・男女格差がなくならない理由の一つに統計的差別があります。それをなくすために、アファーマティブアクションの必要があります。いろいろな選択肢の中でもとくに、女性の管理職の数を増やすというのは重要だと思います。（女性／20 歳代）

〔市職員等の育成、意識改革が必要〕（５件）

・条例ばかりに固執するのではなく、市民のために尽力してくれる人材の登用を求む。権利主張ばかりの頭でっかちにならぬよう、性別関係なく、優秀な人材の確保が急務。公務員に男女平等が保障されているので、本来、男女平等が体現出来るはず。先ずは子供達が役所に行った際に希望を持てるように、活気ある姿を見せて、良きお手本となって欲しいです。（女性／50 歳代）

・市職員の 40～50 歳代男性の意識改革を進めていただきたい。管理職の教育の充実。（女性／50 歳代）

〔男女の比率より個人の能力や適性を優先すべき〕（３件）

・個人的な意見で恐縮ですが、団体や組織における男女比率を均等にすべきという考えは本質的に誤っており、本来は性別を問わず能力や資質がある方が就けば良いと思います。スローガン的な条例は、市の市政をアピールする意味しかなく、議員さんや職員の労力を考えると無駄なのではないかと感じてしまいます（男性／50 歳代）

〔市の取組は良い〕（２件）

・性別や性的志向、国籍やルーツ、障害の有無に関係なく、互いに個々の個性や人格を尊重する家庭や学校、社会への取り組みは非常に重要なことだと思います。そのような社会への取り組みを促進しようとされている西東京市役所の担当部署の皆様に敬意を表し、感謝いたします。（男性／60 歳代）

〔その他の取組に関する意見〕（15件）

・気軽に相談できる機関がもっと増えると良い（女性／40 歳代）

・こういうのは強要するものでは無い。例えば現段階での市の判断によって困っている人がいるならそれを見直す必要があるだけだと思う。新しいことをする必要は今のところない。（男性／18・19 歳）

・あくまでも「機会平等」というスタンスで取り組むべきであり、「結果平等」というスタンスには賛成できない。（男性／40 歳代）
・男女平等に関しては、全く平等に出来る部分とそうでない部分の切分けを議論してから進めるべきと考えます。よろしくお願い致します。（男性／60 歳代）

その他（23件）

〔理想・希望する社会の実現〕（４件）

・女性も、男性も、皆がくらしやすい、生きやすい街づくりをすすめてください。お願いします。（男性／50 歳代）

〔今回のアンケートに対する意見〕（10件）

・男女平等にかかわらず、この様なアンケートの実施は有効であり、継続していただきたい。（男性／60 歳代）
・全年代の意見をもっと聞くべきと思っています。（男性／30 歳代）
・設問は女性視点重視が強すぎて、男女平等の方向性としては、むしろ偏りが感じられました。設問に工夫が必要と感じます。（男性／70 歳代）
・アンケートに答えにくかった。回答項目が多すぎる。高年令者に職場の質問があっても実情が判らない。（男性／70 歳代）
・男女平等推進センターの日常の活動について、どういう広報活動をしているのか、全く知らなかった。（男性／70 歳代）

〔男女平等よりも優先することがある〕（９件）

・男女平等もいいけど、西東京市は行政のスピードが遅すぎる。もっと仕事をスピーディにやってほしい。いつも他の市や区の後追いをしていることが多すぎる。コロナ対策（ワクチンなども）も他の行政より遅い。（男性／60 歳代）
・市報をきちんと読めていないので、なかなか具体的な取り組みを知ることができていません。私の住む地域は、自治会・町内会も今は無くて、すぐ側の人がどういう暮しをしているのか、昔より分らなくなっています。家庭内のＤＶなどがあっても、全く分らない。市として、男女平等への取り組みを積極的に、あらゆる分野で進めて頂きたいのは勿論ですが、まず、地域のつながりが希薄なことに、とても不安を感じています。こういうことの解決方法を知りたいと思います。（女性／60 歳代）

〔その他〕（４件）

・警察や法律相談などの窓口に女性を増やして欲しい。（女性／70 歳代）

第３章　インタビュー、市民ワークショップ結果

１．実施概要

（１）調査目的

男女共同参画社会の実現に向けて、「西東京市第５次男女平等参画推進計画」の策定に活用するため、課題と想定される項目について個別インタビューと市民ワークショップを実施しました。

（２）調査概要

①事業者インタビュー

調査対象者：市内在住の事業者　２社
調 査 方 法：各事業所にヒアリングを実施
調 査 期 間：令和５（2023）年１月12日（木）、２月９日（木）
調 査 内 容：女性活躍の推進、ワーク・ライフ・バランスに関する取組や課題について

②中学生インタビュー

調査対象者：市立中学校の生徒　18名（４校）
調 査 方 法：各中学校にヒアリングを実施
調 査 期 間：令和４（2022）年12月14日、12月19日、12月20日、令和５（2023）年１月19日
調 査 内 容：固定的性別役割分担意識、アンコンシャス・バイアスについて

③市民ワークショップ

調査対象者：18歳以上の市民　15名
選 出 方 法：ＷＥＢまたは電話による申し込み
調 査 方 法：対面によるグループワーク形式にて実施
調 査 期 間：令和５（2023）年１月21日（土）
調 査 内 容：１．女性の活躍を推進するには
２．ワーク・ライフ・バランスを進めるには
３．ジェンダー平等社会を実現するには
４．多様な性を認める社会に向かうには

２．事業者インタビュー結果のまとめ

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進に向けた取組の状況

〇従業員のニーズに合わせた取組

・有給が取りづらい等の現場の声を吸収する制度の導入した結果、業務の簡略化や短期休暇制度が実現した。

・従業員のニーズに応え、フレックスタイム制度やテレワークの対象者を育児期以外にも広げより使いやすくした。

〇休業、休暇制度

・会社から男性の育児休業取得の推進に関する強いアナウンスがあり、１～２週間程度が限度ではあるものの男性の育児休業取得も広まりを見せている。引き続き体制を整える必要はあるが、組織として取得を推奨している姿勢があることは大きいと感じる。

・介護は育児と異なり終わりが見えないため、介護者の短時間勤務利用期間を介護が終了するまでに変更した。

・積み立て休暇を導入しており、２年間を期限として最大 40 日間の有給休暇の積み立てを可能としている。要件に子どもの傷病等を追加した。

・不妊治療の女性の負担を考慮し、積み立て休暇の利用を可能にすることに加え、ジョブリターン制度の要件に追加した。

〇その他

・労働時間の長時間化が問題視されていたため、賃上げに加え、今年度から就業時間の短縮を開始した。その結果、短縮した分残業時間が増えるのではなく所定時間内で仕事を終わらせられるように上司を中心に効率化を図ったり調整したりする動きが見られた。

女性活躍推進に向けた取組の状況

〇上層部の積極的な姿勢

・数年前に現在の理事長が就任して以降、業務内容の大幅な見直しに加え、女性活躍も含めた様々な取組が進められてきている。また、以前は理事長からのメッセージは支店長を経由して支店メンバーへと伝達されていたが、現在は理事長から全社員に向けて一斉発信するように変更された。職員と目線を合わせてもらえているように感じられる。

・現人事部長は女性で、男性が気付きにくい所にも目が行き届き、率先して取り組もうという姿勢がある。前任の人事部長の男性も革新的であったため、上層部の意志があることから特に推進にあたっての障害はない。また、女性メンバーでチームを構築し、キャリア形成や女性活躍に関する取組の周知をするランチ会やセミナーを開催する動きも以前からある。

女性活躍推進に向けた取組の状況

〇評価制度

・以前は、昇進は年功序列が顕著だったが、管理職になるにあたり取得必須の資格要件が増え条件が厳格化された。

・人材育成や仕事意識改善のための取組の一環として、2019 年度から上司だけではなく部下等周囲の人間からの評価も加える「360 度評価」を運用している。管理職の意識の変革を促し研修受講等につなげる効果を期待している一方で、地方事務所の場合個人が特定されてしまうため当たり障りのないことしか書けないといった課題もある。

〇その他

・上層部の独断で取組を進めるのではなく、若手をはじめとした社員の意見を吸い上げたり、意欲のある社員を積極的に登用したりしていることで、若手でも積極的に手を挙げることができるようになった。

・女性管理職を増やすことを見据え、女性の営業職の積極的な採用を進めている。管理職になるために必要な知識は営業経験がないと得られないため、数年前から新卒採用を総合職一括採用として、経験を積むようにしている。

・現在の部署の仕事と違う部署の仕事を調整して兼任する社内副業は、他部署とのつながりができて業務円滑化が図られることや視野が広がったといった高評価を得ている。

取組を進める上で、苦労したことや工夫したこと、または今後の課題

【工夫したこと】

・部門によっては新制度の導入に難色を示すこともあるため、導入に前向きな部門から取り入れることで成功事例を作り、他の部門の興味を引き、浸透させやすいようにしている。

【課題】

・採用制度の変わった若手と中堅以上で昇進意向に差があると感じている。中間層は育児をしながら管理職を目指すイメージはない。

・営業職と内勤職で営業に対する意識が異なり、会社の方針に対する理解を得ることが課題となっている。採用方法変更前から働いていた職員は当初営業業務を担当することを想定していなかったが、採用方法変更後、女性職員も営業をするといった会社の方針に抵抗を示し、離職率が上昇した。

・現在の女性管理職は未婚もしくは子どもがいないため、産休や育休から復帰後のロールモデルが少なく、復帰後の会社としてのフォローが見通せないことから職員として不安を覚えている。

・産休・育休取得による欠員のフォロー人員が不足していることに加え、フォローをする側への見返りがなく、不満を持つ職員もいる。

・女性の採用も増加傾向にあるが、部門ごとに男女比率の偏りがあり、その影響で女性の管理職比率が低いという課題がある。女性が少ない部門に対して適性等を考慮しつつ、女性の新卒・中途採用を進めている。

・各部門の上長に制度導入についてある程度裁量は与えているが、仕事の内容によっては制度の導入が難しい部門がある。

誰もが活躍できる職場環境づくりを進めていくために大切なことや、市の施策や支援に期待すること、事業所として必要と考える取組

・ＬＩＮＥでの情報発信や、セミナー開催時等に参加特典をつけてはどうか。
・悩みを話せる機会があると気持ちが楽になると思う。
・自治体主催のセミナーがあっても自主的に参加するかはわからないため、交流会等で色々な人から話を聞く方が自分にとって得るものがあると感じる。
・ＬＧＢＴＱやＤＸに関する情報が不足しているため、周知や情報提供をしてほしい。
・コロナ禍におけるテレワーク等の普及は各社が導入を進めたことにより当然といった風潮が生まれたことによるものだと思う。他社は実施しているという風潮ができると動きやすくなると思うので、そうした周知や取組の浸透が重要だと思う。
・事業者へのヒアリングを重ねることで他社の取組事例等の情報提供にもなるため、意識啓発につながるのではないか。

３．中学生インタビュー結果のまとめ

家庭における役割分担の実態と理想

【実態】
・母親が家事のほとんどを担っている。
・家庭内での役割分担が決まっている。
・共働きのため、出来るほうが家事をする。
・父親が家事を進んで行い、母親がサポートをしている。

【理想】
・男性は働き、女性は子育てというイメージがある。
・家の中の意見を決定する役割は、男女にかかわらず平等に話し合いで決めるべきだと思う。
・平等に家事をするのが良い。

家庭や学校における男女平等についての意識

・男女混合で行う体育の授業や、女性でも制服でズボンを選択できることから、どちらも平等だと感じる。
・体育の授業において体力の差を考慮することで、女性のほうが優遇されていると感じる。
・男性の方が会社での立場が上であることが多く、優遇されているように感じる。
・「レディーファースト」という言葉がある時点で、元々男性が優遇されている社会であると思う。
・家族は男女平等に賛成している。

「男らしく」「女らしく」という考え方について

【言われた経験】
〇行動についての指摘
・あぐらをかこうとしたら「女の子なんだからあぐらはやめなさい」と言われた。
・女の子だから座るときには足を閉じる等、お行儀良くしなさいと言われる。
・重い荷物を持てなかったときに男らしくないと言われ、気にしたことがある。

〇外見やイメージについての指摘
・ズボンを履いたり、黒や青の服を好きで着ていたら、「女の子らしい恰好をしたら」と言われた。
・「男子がうるさい」等、性別で一括りにされることがあると感じる。
・「男なら〇cm以上は身長がないと」と言われ、気にすることがある。

〇その他
・「男らしく外で遊びなさい」と言われたというエピソードを YouTuber が話していて平等でないと感じた。
・「男らしく挑戦しろ」と友人に言われたので指摘したところ「男のくせに神経質」と言われた。

「男らしく」「女らしく」という考え方について

【解消するために必要なこと】
〇社会における取組
・洋服をレディース・メンズと分けて表示しない。
・男は青、女は赤とトイレ等の設備で分けない。
・呼び方や一人称を性別で決めつけない。
〇意識の変革
・「男といえば、女といえば」という固定観念を解消する。
・大人が男女平等をきちんと理解する。
・性別に関係なく、それぞれの個性を認め合い、一人の人間として接する。
〇その他
・国会議員や校長等に女性を積極的に登用する。
・男社会のイメージがある職業でも女性がなりたいと思えばなれることを発信していく。

ＬＧＢＴ（性的マイノリティ）について

【性的マイノリティの当事者が困ること】
・トイレや更衣室の利用が制限される。
・女子は制服でズボンが履けるが、男子はスカートが履きたくても周りにほとんどいないので困ると思う。
・カミングアウトできないことで、心の距離ができたり、周りに馴染めなかったりする。
・周囲の理解不足によるいじめやいじりを受ける。
・体の変化に戸惑う。
・同性の過度な接触に困る。
【当事者の困りごとを解消するために必要なこと】
・多目的トイレを増やす。
・大人がＬＧＢＴについてきちんと理解する。
・当事者同士で話せる場や相談相手を見つけ、心のケアをする。
・カミングアウトをする勇気や自信を持つ。
【周囲の人が困ること】
・適切な言葉選びや呼び方等、どのように接すれば良いかわからない。
・友人の中でもＬＧＢＴへの理解度が異なるため、理解度の異なる友人と当事者といる時の接し方が難しい。
・当事者の本当の気持ちがわからず、正しく接することができない。
・当事者を理解できない。
【周囲の人の困りごとを解消するために必要なこと】
・学校においてＬＧＢＴに関する教育の機会を設ける。
・間違った知識や偏見をなくす。
・自分と違うと決めつけるのではなく、差別をせず、一人の個性として受け止める。

将来の自分の働き方、ワーク・ライフ・バランスに関する意識

・仕事が中心になるのではなく、家事等もできる余裕のある働き方が良い。
・出産後に復職するために資格を取りたい。
・結婚後も仕事を続けることが理想。

ジェンダー平等を考えるきっかけについて

・YouTube、Instagram 等の SNS で取り上げる。
・きっかけがないと自ら関心を持って調べることはないと感じるため、学校の授業や HR 等を使って学ぶ機会を設ける。
・ＬＧＢＴ当事者から話を聞く機会があることで身近な話として捉えやすい。
・パリテをもっと広報する。

◎私はすべての人々が平等に協力し合える社会になるために「　　」します！！

・自分含め、いろんな人の個性を認めます！！
・自分で進んで考え、自分から行動します！！
・少しでも多くの人に平等の考えを広めるようにします！！

４．市民ワークショップ結果のまとめ

≪当日の進行≫

・検討テーマに応じたグループを設定し、４グループに分かれて意見交換を行いました。

・各自でテーマに関する具体的な推進策をカードに記入し、グループ内で同じ内容のカードを分類して、それぞれが実施策として良いと思うものを３つ選び、順位付けを行いました。その後、グループ内で話し合い、グループとしての良いと思う実施策の選出、順位付けを行い、発表しました。

女性の活躍を推進するには

１．国・自治体が本気になる。

・女性の管理職割合 50%を義務化する。３年間の猶予、罰則も設ける。

・国で目標を設定し、すべての組織に徹底する。

・女性の活用を政府からリクエストする。

・男性の育児休業取得を義務化する。

２．教育内容の見直し

・現状の内容に問題があると思う。

・会社等自分の身の回りで実際に問題が起こっているところを見たことがないため、問題意識が低い。実際に起こっていることを身近に感じることが重要である。

＜その他の意見＞

【意識の変革】・互いの尊重意識を育てる。

・あらゆる場における「男性が主、女性が従（奥）」の意識を変える。

・社会で活躍している女性を小さい時から身近に感じさせる。

【組織の変革】・評価方法を見直す。

・上司や意思決定者の意識変革をする。

・出産後は退職するといった空気を解消する。

【その他】・具体的な法改定で女性活躍を支援する。

・活躍する女性の情報を公表する。

・ジェンダー教育を充実させる。

・保育施設等を整備して子育てをしやすい社会づくりを進める。

ワーク・ライフ・バランスを進めるには

１．学校教育を改訂する。
・小学校からワーク・ライフ・バランスについて教える。
２．時間にゆとりをもつ。
・週１回、自分を見つめなおす時間を設ける。
３．相談できる人を見つける。

＜その他の意見＞
【意識の変革】・家事等の大変さを男性も理解する。
・相談するための窓口を設ける。
・男女共同で提案制度を設ける。
【組織の変革】・男性の育児休業取得率を上げるための雰囲気づくりをする。
・人事評価基準を改正し、開示する。
・セカンドキャリアへのサポート体制を整える。
・残業削減等、職場環境を改善する。
【その他】・表彰制度を導入し、理解度の高い団体に適用する。
・ワーク・ライフ・バランスに関する一般社会での講演会を増やす。

ジェンダー平等社会を実現するには

１．既成概念を捨てる。
・「女らしい、男らしい」と見た目で判断しない。
・初対面で、「言われたら嫌だということはありますか」と聞いてみる。
２．大人の意識を変えるための教育を進める。
・上層部の人間がジェンダー研修に参加し、知識を習得する。
・研修や修養会を幼稚園や小学校から始める。
３．「～しかない」を「～もある」に言い換え、考え方を変える。
・「もしも性別が逆であったら」という発想で部下の指導を考えてみる。
・男性は女性に、女性は男性になったつもりになる日を作る。

＜その他の意見＞
【意識の変革】・成人になるまでの間に必ず出産・育児について学ぶようにする。
・家庭内での無意識の男女差別をなくす。
・性別ではなく、その人個人の能力や長所を見る。
・他人事ではなく、自分事と捉えて行動する。
【組織の変革】・職場において性別で区別をしない。
・制服を決めずに自由にする。
・ジェンダー平等のモデルとなる国の例を参考にする。
【その他】・表面的な目に見える部分で人を評価しない。
・女性のロールモデルとなる生き方をメディアで紹介する。

多様な性を認める社会に向かうには

１．教員・職員に性の多様性に関する講習会を開催する。
２．公共施設（トイレ・更衣室）を設置する際、配慮した設計をする。
３．選挙等において男性と女性で分けない等、名簿の記載方法に配慮する。

＜その他の意見＞
【意識の変革】・名前の呼び方に配慮する。
・性別を分けたり、年齢で考えたりしないようにする。
・性の多様性に関する授業を学校で行う。
・話し合う機会を増やす。
【組織の変革】・スクールカウンセラー等、相談できる体制を整備する。
【その他】・学校で男女共通の制服を検討する。
・宿泊旅行で部屋割りや浴室の配慮をする。

第４章　調査票

男女平等参画に関する
西東京市民意識・実態調査

一人ひとりが「自分らしく」生きることができるまちづくりのために
アンケートへのご協力をお願いします

西東京市では、「一人ひとりが自分らしく自立し、いきいきと個性と能力を発揮できる社会をめざす」を基本理念に掲げ、男女平等参画のまちづくりを推進しています。めざしている社会の実現には、市民の皆様をはじめ、企業や団体、行政が一体となって取り組むことが必要です。

来年度、「第５次男女平等参画推進計画」を策定することとなりました。計画策定の基礎資料とするため、「男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査」を実施いたします。

お忙しいところお時間をいただくことになりますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力のほどお願い申し上げます。

「いこいーな」
©シンエイ/西東京市

令和４（2022）年10月

西東京市長　池澤　隆史

◇この調査は、市内にお住まいの満18歳以上の方の中から、無作為に2,000人の方にご協力をお願いするものです。
◇ご回答いただいた調査結果につきましては、すべて統計的に処理することから、個人情報が外部にもれることなどはございません。安心してご回答ください。

ご回答にあたって

回答は、調査票（紙）かオンライン（Web）のどちらかでご回答ください（重複回答不可）。
※オンライン（Web）による回答については、別紙をご参照ください。

1　この調査は、あて名の方ご自身のお考えで記入してください。
2　回答は、該当する番号を「○」で囲んでください。
　回答の数は、質問によって違いますのでご注意ください。
3　回答の中で「その他」を選んだ場合には、お手数ですが〔　　〕内に具体的な内容をご記入ください。
4　ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに**令和４（2022）年11月9日（水）までに投函**してください。
（この調査票、返信用封筒には**お名前、ご住所を記入しないでください。**）

◇お問い合わせ先◇
西東京市　生活文化スポーツ部　協働コミュニティ課　男女平等推進係
TEL：042-439-0075　　FAX：042-422-5375（共通）
E-MAIL：kyoudou@city.nishitokyo.lg.jp

あなたについておたずねします。

問１　あなたの性別をお答えください。戸籍上の性別と自認している性別※が異なる方は自認している性別をお答えください。（１つに○）

1　女性	3　その他
2　男性	4　答えたくない

※「自認している性別（性自認）」とは、自分がどの性別であるかの認識のことをいいます。

問２　あなたの年齢をお答えください。（１つに○）

1　18・19歳	4　40歳代	7　70歳代
2　20歳代	5　50歳代	8　80歳以上
3　30歳代	6　60歳代	

問３　あなたは、現在どのような職業に就いていますか。出産や介護のために休んでいる場合（育児、介護休業）は働いていると考えてください。２つ以上の仕事に就いている方は、主なものをお選びください。（１つに○）

1　自由業・自営業・家族従業員	5　その他の職業〔具体的に：　　〕
2　正社員、正規職員	6　専業主婦・主夫
3　契約社員・派遣・嘱託・パート・アルバイト	7　学生
4　企業経営者・役員	8　その他の無職（年金生活の方等）

問４　あなたのご家族の構成は次のどれにあたりますか。（１つに○）

1　単身（一人世帯）	5　自分と子と孫（３世代世帯）
2　自分と配偶者・パートナー	6　親と自分と子（３世代世帯）
3　自分と親（２世代世帯）	7　祖父母と親と自分（３世代世帯）
4　自分と子（２世代世帯）	8　その他〔具体的に：　　〕

問４-１　【問４で「４　自分と子（２世代世帯）」、「５　自分と子と孫（３世代世帯）」、「６　親と自分と子（３世代世帯）」と答えた方におたずねします。】一番下のお子さんの年代をお答えください。（１つに○）

1　３歳未満	4　中学生
2　３歳～小学校入学前	5　中学卒業から18歳未満まで
3　小学生	6　18歳以上

問５　あなたには、配偶者・パートナーがいますか。（婚姻届を出していないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある人を含みます）（１つに○）

1　配偶者（事実婚を含む）がいる
2　１以外のパートナーがいる
→【問５-１】へお進みください。

3　配偶者等と離別・死別した
4　配偶者等はいない
→【問６】へお進みください。

問５-１　【問５で「１　配偶者（事実婚を含む）がいる」、「２　１以外のパートナーがいる」と答えた方におたずねします。】
おふたりは共働きですか。（パート等も含みます）（１つに○）

1	自分も配偶者・パートナーも働いている
2	自分のみ働いている
3	配偶者・パートナーのみ働いている
4	自分も配偶者・パートナーも働いていない

問６　あなたは日ごろ介護をしていますか。同居・別居は問いません。（１つに○）

1	家族・親族の介護をしている	2	家族・親族の介護をしていない

問７　あなたのお住まいの地域は次のどれにあたりますか。（１つに○）

1	北東部地域（富士町、ひばりが丘北、中町、栄町、東町、北町、下保谷）
2	中部地域（田無町、泉町、住吉町、北原町、保谷町）
3	西部地域（芝久保町、西原町、緑町、谷戸町、ひばりが丘）
4	南部地域（向台町、南町、新町、柳沢、東伏見）

男女平等参画の意識についておたずねします。

問８　あなたは、次にあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
（１）から（８）までのそれぞれについて、お答えください。
（それぞれについて、１つに○）

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女の地位は平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている
（１）家庭生活の場で	1	2	3	4	5
（２）職場で	1	2	3	4	5
（３）学校教育の場で	1	2	3	4	5
（４）地域社会（自治会・町内会やＰＴＡなどの地域活動の場）で	1	2	3	4	5
（５）政治の場で	1	2	3	4	5
（６）法律や制度の上で	1	2	3	4	5
（７）社会通念・習慣・しきたりなどで	1	2	3	4	5
（８）社会全体では	1	2	3	4	5

問９　「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」など、性別によって役割を固定する考え方を「固定的性別役割分担意識」と言います。あなたは、固定的性別役割分担意識は解消していると思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。（１つに○）

1	解消されている	3	あまり解消されていない
2	やや解消されている	4	解消されていない

家庭生活についておたずねします。

問10　あなたが平日・休日で家事・育児・介護などに携わる1日あたりの時間はどのくらいですか。平均的な時間をお答えください。（それぞれについて、１つに○）

	0～15分未満	15～30分未満	30分～1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～8時間未満	8時間以上
（1）平日	1	2	3	4	5	6	7	8	9
（2）休日	1	2	3	4	5	6	7	8	9

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)についておたずねします。

問11　あなたはワーク・ライフ・バランスを実現できていますか。あなたの実情に近いものを選んでください。（１つに○）

1	実現できている	3	あまり実現できていない
2	やや実現できている	4	実現できていない

～ 【仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）】が実現した社会とは ～
内閣府の「ワーク・ライフ・バランス憲章」では、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」と定義されています。

問12　生活の中での、仕事、家庭生活、個人の生活（地域活動、趣味・学習等）の優先度について、あなたの希望と現実に最も近いものをそれぞれお答えください。
（それぞれについて、１つに○）

希　望（１つに○）	現　実（１つに○）
1　仕事を優先	1　仕事を優先
2　家庭生活を優先	2　家庭生活を優先
3　個人の生活を優先	3　個人の生活を優先
4　仕事と家庭生活を優先	4　仕事と家庭生活を優先
5　仕事と個人の生活を優先	5　仕事と個人の生活を優先
6　家庭生活と個人の生活を優先	6　家庭生活と個人の生活を優先
7　仕事、家庭生活、個人の生活を優先	7　仕事、家庭生活、個人の生活を優先

問13　あなたは、育児休業や介護休業を取得した経験がありますか。または、これから先そのような状況が生じた時、どうしようと思いますか。育児休業、介護休業それぞれについてお答えください。（それぞれについて、１つに○）

	取得経験がある	必要が生じれば取得する	取得には抵抗がある	必要がない	わからない
（1）育児休業	1	2	3	4	5
（2）介護休業	1	2	3	4	5

問13-1　【問13でひとつでも「３　取得には抵抗がある」、「４　必要がない」と答えた方におたずねします。】
育児休業もしくは介護休業を取得しない理由をそれぞれお答えください。

（1）育児休業（いくつでも○）

1　会社に育児休業制度が整備されていないため
2　職場が育児休業取得を認めない雰囲気であるため
3　職場に迷惑をかけたくないため
4　周囲からの評価や昇進に影響が出るため
5　収入が減少するため
6　仕事にブランクができ、自分の能力が低下するため
7　配偶者・パートナーが育児をするため
8　自分や配偶者・パートナーの親族に預けることができるため
9　保育所等に預けることができるため
10　育児や家事をするのは好きでないため
11　育児休業制度の対象ではないため
12　その他〔具体的に：　　〕
13　わからない

（2）介護休業（いくつでも○）

1　会社に介護休業制度が整備されていないため
2　職場が介護休業取得を認めない雰囲気であるため
3　職場に迷惑をかけたくないため
4　周囲からの評価や昇進に影響が出るため
5　収入が減少するため
6　仕事にブランクができ、自分の能力が低下するため
7　配偶者・パートナーが介護をするため
8　自分や配偶者・パートナーの親族に預けることができるため
9　介護施設等に預けることができるため
10　介護や家事をするのは好きでないため
11　介護休業制度の対象ではないため
12　その他〔具体的に：　　〕
13　わからない

【ここからは再びすべての方におたずねします。】

問14　あなたは、今後、どのような形態で働きたいと思いますか。（１つに○）

1　自由業・自営業・家族従業員として働きたい
2　正社員として働きたい
3　契約社員・派遣・パート・アルバイト等として働きたい
4　その他〔具体的に：　　〕
5　働きたくない
6　わからない

女性の活躍についておたずねします。

問15　あなたは、一般的に女性の働き方について、どのようにお考えですか。（１つに○）

1　結婚や出産にかかわらず、仕事を続けるほうがよい
2　結婚や出産などで一時仕事をやめるが、子どもが大きくなったら再び仕事をするほうがよい
3　子どもができたらやめて、その後仕事をしないほうがよい
4　結婚したらやめて、その後仕事をしないほうがよい
5　生涯仕事をしないほうがよい
6　その他〔具体的に：　　〕

問16　家事、妊娠・出産、育児、介護などのために一時期仕事をやめた女性が再就職を希望する場合、役立つものは何だと思いますか。（いくつでも○）

1　再雇用制度（育児や介護が一段落し、再び仕事ができるようになったら再雇用する制度）
2　育児や介護のための短時間勤務制度、又はフレックスタイム制度
3　再就職のための講座やセミナー
4　再就職のための職業訓練にかかる費用の助成制度
5　保育所、学童保育など育児をしやすい環境の充実
6　ホームヘルパーや介護福祉施策の充実
7　女性が働くことへの家族の理解と協力
8　企業の理解と協力
9　その他〔具体的に：　　〕
10　特にない

問17　あなたは、女性が妊娠・出産、育児、介護などを理由に離職せずに同じ職場で働き続けるために家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。
（いくつでも○）

1　保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
2　介護支援サービスの充実
3　家事・育児支援サービスの充実
4　男性の家事参加への理解・意識改革
5　女性が働き続けることへの家族・親族の理解・意識改革
6　女性が働き続けることへの上司・同僚の理解・意識改革
7　働き続けることへの女性自身の意識改革
8　男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
9　職場における育児・介護との両立支援制度の充実
10　短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
11　育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
12　その他〔具体的に：　　〕
13　特にない
14　わからない

コロナ下での行動変化についておたずねします。

問18　新型コロナウイルス感染症拡大により、生活や行動に次のような変化がありましたか。（それぞれについて、１つに○）

	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
（1）仕事の負担が増えた	1	2	3	4	5
（2）収入が減った（減る見込みになった）	1	2	3	4	5
（3）精神的に不安になることが増えた、イライラすることが増えた	1	2	3	4	5
（4）夫婦・パートナーとの関係が悪化した	1	2	3	4	5
（5）子どもの世話の負担が増えた	1	2	3	4	5
（6）食事の支度や掃除等、家事負担が増えた	1	2	3	4	5
（7）その他の変化〔具体的に：　　〕					

性の多様性についておたずねします。

問19　次の言葉について知っていますか。（それぞれについて、１つに○）

	内容まで知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない
（1）ＬＧＢＴ（性的マイノリティ）	1	2	3
（2）ＳＯＧＩ（性的指向・性自認）	1	2	3

～ ＬＧＢＴ（性的マイノリティ）～
ＬＧＢＴ（性的マイノリティ）とは、レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）とトランスジェンダー（出生時にわりあてられた性別と性自認（ジェンダーアイデンティティ）が一致していない人）などの総称を表します。

～ＳＯＧＩ（性的指向、性自認）～
ＳＯＧＩ（性的指向・性自認）とは、「恋愛感情や性的な関心がいずれの性別に向かうかの指向（性的指向）」と、「自分がどの性別であるかの認識（性自認）」を意味します。

問 20　西東京市では、性自認や性的指向の多様なあり方、性別にとらわれない多様な生き方を認める人権尊重の意識づくりを進めています。あなたは、性の多様性について、どのようにお考えですか。（１つに○）

1　社会全体で理解を進める必要がある
2　社会全体で理解を進める必要はあるが、今はこのままでよい
3　社会全体で理解を進める必要はない
4　その他〔具体的に：　　〕
5　わからない

問21　近年、性的マイノリティへの対応が求められており、取り組みが進められている自治体もみられます。あなたは、このような動きがあることについて、どう思いますか。（１つに○）

1　必要だと思う

2　必要だと思わない
3　わからない

→【問22】へお進みください。

問21-1　【問21で「1　必要だと思う」と答えた方におたずねします。】
性的マイノリティの人が生活しやすくなるために、あなたは、自治体の取り組みとしてどのような対策が必要だと思いますか。（いくつでも○）

1　市民や企業等に対して意識啓発を行う
2　学校や市役所の窓口での対応の充実を図る
3　教員や市職員に対して理解促進のため研修等を行う
4　市のサービスを性的マイノリティのパートナーも利用しやすい環境を整備する
5　相談窓口等の充実を図る
6　トイレ等について利用しやすい環境を整備する
7　当事者団体や支援団体等と意見交換を行い、施策に反映する
8　民間企業や団体等に対して対応を働きかける
9　その他〔具体的に：　　〕
10　わからない

地域・防災についておたずねします。

【ここからは再びすべての方におたずねします。】
問22　あなたは現在、どのような地域活動に参加していますか。（いくつでも○）

1　自治会・町内会の活動
2　ＰＴＡの役員や子ども会などの世話役
3　子どもや青少年のスポーツ指導等の健全育成活動
4　地域における趣味・学習・スポーツ活動
5　西東京市や東京都から委嘱された委員
6　ＮＰＯ活動やボランティアへの参加
7　その他〔具体的に：　　〕
8　参加していない

問22-1　【問22で「8　参加していない」と答えた方におたずねします。】
あなたが参加できていないのは何故ですか。（いくつでも○）

1　仕事が忙しいから
2　家事や育児・介護などが忙しいから
3　経済的余裕がないから
4　どのような活動があるかわからないから
5　一緒に活動する仲間がいないから
6　家族の理解や協力がないから
7　近くに活動の場がないから
8　参加したいと思う活動がないから
9　参加方法がわからない、きっかけがないから
10　その他〔具体的に：　　〕

【ここからは再びすべての方におたずねします。】
問23　あなたは、防災分野で男女平等の視点を活かすためには、どのようなことが重要だと思いますか。（いくつでも○）

1　防災分野に性別にかかわらず様々な視点を活かすことの重要性について、周知を図る
2　性別にかかわらず災害や防災に関する知識の習得を進める
3　防災分野の委員会や会議の構成員の男女比をバランス良くする
4　災害対応や復興において女性のリーダーを育成・配置する
5　災害に関する各種対応マニュアルなどに男女平等参画の視点を組み込む
6　消防職員・消防団員・警察官・自衛官などについて、防災現場に女性が十分に配置されるよう、採用・登用段階を含めて留意する
7　避難所設備に女性やＬＧＢＴなどの様々な意見を反映させる
8　備蓄品に女性やＬＧＢＴなどの様々な視点を活かす
9　性別にかかわらず様々な視点でのニーズを聞き取る
10　その他〔具体的に：　　〕
11　わからない

あらゆる暴力（ＤＶ、ハラスメント等）についておたずねします。

問24　あなたが、パートナー（配偶者や交際相手など）からの暴力だと思うものはどれですか。（いくつでも○）

1　命の危険を感じるくらいの暴力行為
2　なぐったり、けったりする
3　物をなげつけたり、突き飛ばしたりする
4　なぐるふりをして、おどす
5　「何もできないくせに」等と人格を否定するような暴言をはく
6　「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う
7　交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する
8　大声でどなる
9　何を言っても長時間無視する
10　長時間説教をする
11　必要な生活費を渡さない、貯金を勝手に使う、収入を知らせない
12　外で働くことを妨害したり、外出先を制限する
13　家族や友人と関わりを持たせない
14　子どもに悪口を吹き込む
15　大事にしている物を捨てる
16　いやがっているのに性的な行為を強要する
17　見たくないアダルトビデオ・雑誌などを見せる
18　避妊に協力しない
19　その他〔具体的に：　　〕
20　特にない

問25　パートナー（配偶者や交際相手など）から暴力を受けた場合、相談ができる機関があります。あなたは、下記の相談機関を知っていますか。（いくつでも○）

1　警察
2　西東京市の相談窓口
3　東京都の相談窓口
（東京都ウィメンズプラザ、女性相談センター、女性相談センター多摩支所）
4　国の相談窓口（ＤＶ相談プラス、ＤＶ相談ナビ）
5　民生委員
6　法務局の人権相談窓口・人権擁護委員の相談
7　民間相談機関〔具体的に：　　〕
8　その他〔具体的に：　　〕
9　どれも知らない

問26　配偶者や交際相手などの男女間で起こる暴力をドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）と言います。あなたは、配偶者や交際相手などから次のような暴力を受けたことがありますか。（いくつでも○）

1　身体的暴行（なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど）
2　心理的攻撃（人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する、脅迫する、無視するなど）
3　経済的圧迫（生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど）
4　性的強要（いやがっているのに性的な行為を強要する、見たくないアダルトビデオ・雑誌などを見せられる、避妊に協力しないなど）
5　その他〔具体的に：　　〕
6　受けたことはない ―――▶【問27】へお進みください。

問26-１　【問26で「１」～「５」に１つでも○をつけた方におたずねします。】
あなたが受けた暴力について、相談した方はどなたですか。
（いくつでも○）

1　警察に相談した
2　西東京市の相談窓口に相談した
3　東京都の相談窓口（東京都ウィメンズプラザ、女性相談センター、女性相談センター多摩支所）に相談した
4　民間相談機関に相談した
5　医師に相談した
6　家族、親族に相談した
7　友人、知人に相談した
8　民生委員に相談した
9　法務局の人権相談窓口、人権擁護委員に相談した
10　その他〔具体的に：　　〕
11　誰にも相談しなかった ―――▶【問26-２】へお進みください。

▶【問27】へお進みください。

問26-２　【問26-１で「11　誰にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。】
誰にも相談しなかった理由は何ですか。（いくつでも○）

1　相談できる人がいなかったから
2　どこに相談してよいのかわからなかったから
3　誰にも知られずに相談できるところがないと思ったから
4　人に打ち明けることに抵抗があったから
5　相談しても無駄だと思ったから
6　我慢すればこのまま何とかやっていけると思ったから
7　自分にも悪いところがあると思ったから
8　他人を巻き込みたくなかったから
9　相談するほどのことではないと思ったから
10　その他〔具体的に：　　〕

【ここからは再びすべての方におたずねします。】

問27　あなたは、職場等で次にあげるようなハラスメントを受けたことがありますか。
（いくつでも○）

1　パワー・ハラスメント
2　セクシュアル・ハラスメント
3　マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント※
4　モラル・ハラスメント
5　ＳＯＧＩ（性的指向・性自認）ハラスメント
6　その他〔具体的に：　　〕
7　受けたことはない

※「パタニティ・ハラスメント」とは、男性が育児休業や子育てのための短時間勤務を取得することを妨げるなどの行為のことをいいます。

男女平等参画を進めるために必要な施策についておたずねします。

問28　あなたは、以下のことがらを知っていますか。（１）から（８）までのそれぞれについて、お答えください。（それぞれについて、１つに○）

	内容まで知っている	名前くらい聞いたことがある	まったく知らない
（１）西東京市男女平等推進センター　パリテ	1	2	3
（２）西東京市男女平等参画推進計画	1	2	3
（３）西東京市男女平等情報誌「パリテ」	1	2	3
（４）西東京市「女性相談」	1	2	3
（５）男女共同参画社会基本法	1	2	3
（６）配偶者暴力防止法（ＤＶ防止法）	1	2	3
（７）女性活躍推進法	1	2	3
（８）ジェンダー（社会的・文化的に作られる性別）	1	2	3

（注）法律については略式名を記載しています。

問29　男女平等参画を推進するためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れればよいと思いますか。（いくつでも○）

1　子どもが性別によらず能力を生かせるように配慮した指導をする
2　学校生活での児童・生徒の役割分担を性別の区別なく同じにする
3　日常の活動の中で、男女平等の意識を育てる指導をする
4　子どもの成長と発達に応じた性教育を行う
5　多様な性への理解を深める教育を行う
6　性暴力やハラスメントに関する相談窓口を周知する
7　教職員への男女平等研修を充実する
8　管理職（校長や副校長）に女性を増やしていく
9　その他〔具体的に：　　〕
10　特にない
11　わからない

問30　西東京市では、令和４年４月１日現在、市の審議会における女性委員の割合は31.6%、市議会における女性議員の割合は25.9%、市職員における管理職のうち女性の割合は22.0%となっています。あなたはこの数字について、それぞれどのように思いますか。

（１）市の審議会（１つに○）

1　女性の割合をもっと増やす必要がある
2　男性の割合をもっと増やす必要がある
3　現状のままでよい
4　その他〔具体的に：　　〕
5　わからない

（２）市議会（１つに○）

1　女性の割合をもっと増やす必要がある
2　男性の割合をもっと増やす必要がある
3　現状のままでよい
4　その他〔具体的に：　　〕
5　わからない

（３）市職員における管理職（１つに○）

1　女性の割合をもっと増やす必要がある
2　男性の割合をもっと増やす必要がある
3　現状のままでよい
4　その他〔具体的に：　　〕
5　わからない

問31　西東京市では、男女平等参画推進計画において、「一人ひとりが自分らしく自立し、いきいきと個性と能力を発揮できる社会をめざす」を基本理念に掲げ、男女平等参画のまちづくりに取り組んでいます。一方で、こうした計画に加え、男女平等参画条例（基本理念や市民・事業主との責務などを定めたもの）を制定して、独自の取組を進めていくことについてどのように思いますか。（１つに○）

1　条例があったほうがよい
2　条例はなくてもよい
3　わからない

問32　男女平等をめざした以下の取り組みのうち、西東京市が特に力を入れていくべきだと思うものはどれですか。（いくつでも○）

1　男女平等教育の推進
2　意思決定の場（審議会・委員会等）への女性の参画促進
3　雇用の場の平等な待遇の推進
4　地域活動における女性リーダーの育成・登用
5　地域活動における男女共同参画の促進
6　あらゆる暴力の根絶にむけた取り組み
7　性・年代別のニーズに応じた健康支援
8　仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するための取り組み
9　男性の家事・育児・介護への参画促進
10　保育サービスの多様化
11　高齢者や障がい者を家庭で介護する人の負担の軽減
12　地域での男女平等意識推進のための啓発活動の充実
13　各種相談窓口の充実
14　民間の団体・グループの自主活動支援
15　西東京市男女平等推進センター　パリテの積極的な取り組み
16　防災分野で男女平等の視点を活かす取り組み
17　その他〔具体的に：　　〕
18　わからない

問33　西東京市の男女平等に向けての取り組みについてご意見がございましたら、自由にご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
返信用封筒にこの調査票を入れて、切手を貼らずに
11月9日（水）までにご投函ください。

女性相談を受け付けています
～ ひとりで悩まず、ご相談ください ～

相談では家族のこと・人間関係・生き方・将来への不安・パートナーからの暴力など専門の相談員があなたと一緒に考え、解決の糸口を探すお手伝いをしています。

相談日時

【月曜日、火曜日】　午前 10 時から午後１時、午後２時から４時
【水曜日、金曜日】　午前 10 時から正午、午後１時から４時
【木曜日】　午前 10 時から正午、午後１時から５時、午後６時から８時

申込み

【WEB 申込】　右記ＱＲコードより
詳細は「西東京市　女性相談」で
検索してください。
【電話申込】　042-439-0075

申込みＱＲコード

＜問合せ先＞
西東京市男女平等推進センター パリテ
西東京市住吉会館 6-15-6
電話：042-439-0075
（平日　午前９時から午後５時、木曜日は午後８時まで）

男女平等参画に関する西東京市民意識・実態調査

報告書

令和５年３月発行

編集・発行：西東京市 生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課男女平等推進係
〒202-0005 東京都西東京市住吉町6-15-6
住吉会館内
男女平等推進センター パリテ
電　　話：042-439-0075
ファクス：042-422-5375
Eメール：kyoudou@city.nishitokyo.lg.jp